大正七年四月十五日

關西建築協會雜誌

第一輯第六号



關西建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ關西建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ入會ノ資格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラムト希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ノ詮衡ヲ經タ例會ニ於テ之ヲ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ貫徹シ事業ヲ援助スル者ヲ賛助員トス

賛助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽賛助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身賛助員―金百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別賛助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通賛助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

賛助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身賛助員タラムトスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別賛助員タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通賛助員タラムト欲スル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ第十九條ニ關スル權利ヲ享有ス

會員ハ會內ニ於ケル其資行ニ付會外ニ於テ責ニ任ゼザルコトヲ得

名譽賛助員ハ本會ノ趣意及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身賛助員、特別賛助員及普通賛助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムベシ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ノ入會ニ關スル細則ハ本會ノ名譽ニ於テ之ヲ定ム

第十條　本會ノ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ヲ脫會ヲ命告シ又ハ例會ノ決議ノ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名

四　理事　六名

會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會務ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選擧ス但會頭副會頭ハ名譽賛助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

役員ノ任期ハ貳年トス

理事ノ改選ハ每年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主　記　一　名

二　計　一　名

三　編　輯　三　名

編輯補　若干名

五書記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事ノ之ヲ互選ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トスルコトヲ得

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應ジ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員會ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ囑託委員トスルコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ每月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ハ必要ト認ムルトキ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ豫告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラス

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ノ行フ事業左ノ如シ

一　建築ニ關スル講演會ノ開催

二　建築ニ關スル調査研究報告ノ發表

三　建築ニ關スル重要事項ノ諮詢決議事項ノ實行促進

四　會誌ノ發刊

五　建築ニ關スル圖書ノ刊行

六　建築ニ關スル講演會ノ開催

七　建築ニ關スル展覽會ノ公開

八　建築ニ關スル視察

九　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

十　理想的建築ノ計畫

十一　其他建築ニ關スル有益ナル事項

第二十條　會員ハ會費年額金貳拾圓ヲ本會ニ擔出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金百圓以上ヲ出ストキハ前項ノ會費ヲ免ス

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金貳圓ヲ本會ニ納付スベシ

特別賛助員ハ特別賛助費年額金六圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助費年額金參圓ヲ本會ニ前納スベシ

但六期以內ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金賛助費其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

第二十二條　本會ノ財產擔保債務及每月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

本會ノ財產擔保債務及每年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

大阪窯業株式會社

我社と其經營事業

各種煉瓦

耐火煉瓦

黒鉛坩堝

セメント

造船

本社出張所各工場

□創業四十年の經驗と完備せる施設の下に製出さるゝ本社製各種煉瓦の品質頁好なるは一般の周知せらるゝ處左記各地に工場を有し今や年産額一億五千萬個全國製産總額の約三分の一に達せり

□強火に於ける耐火耐壓力酸金屬鑛滓等に對する耐蝕性急激の冷熱に會し伸縮の少き等に耐火煉瓦の必須條件也隨て各用途に應じ製造方法に加減を要す本社製品の秀なる夙に定評ある處也

□創業拾數年苦心研究の結果卓越せる製品を産出し今や帝國陸海軍各工廠其他の指定納入工場たる光榮を有す原料は朝鮮各地に純良豊富なる原産地を有し最信用ある製品を提供しつゝあり

□東洋に於て最大型最新式の粉末機と回轉窯を設備し最近獨米にて最良の定評ある硬濕式法によりて製造せるポートランドセメントは製造年額四十萬樽品質の優良なるセメント界の王たる自信を有し其冠せる處の商標ライオンの名に負かざるを期せり

□大阪木津川沿岸廣袤三萬餘坪の地域に三基の船臺二個の船渠を備ふる本社造船部は一年鋼船五萬噸の建造能力を有し尚造船以外汽機汽罐其他諸機械類の製造販賣を開始する計畫なり

□本　社　大阪市北區堂島濱通二　電話長北二八三、一一〇
出　張　所　東京市神田區表猿樂町二三　電話北一一一、一二二、二八二
名古屋市中區西川端町五　電話本局貳七五六、三四三四
▲同　所　堺工場、岸和田工場、貝塚工場（大阪府下）近江工場（栗田郡山田村）　電話　四四二一
▲煉瓦工場　平阪工場（三河國幡豆郡平阪村）八王子工場（東京府八王子在）
東京工場（埼玉縣草加町）
▲坩堝工場　京都工場（京都七條東川端）　向日町工場（京都市外向日町）
▲セメント工場　大阪市西區南恩加島町　電話西一一七七
▲造船工場　大阪市外木津川尻　電話住吉一三九

關西建築協會雜誌 第壹輯 第五號

目次

口繪

大阪堂島川北岸の偉觀(三色版)
紐育高等法院平面圖(二頁大)
紐育高等法院配景圖
世界最高建築ウールワース館…(夜景…工事中…平面圖…內部)
都市建築の今昔(十一)(十二)
大阪三越呉服店舊館の燒跡

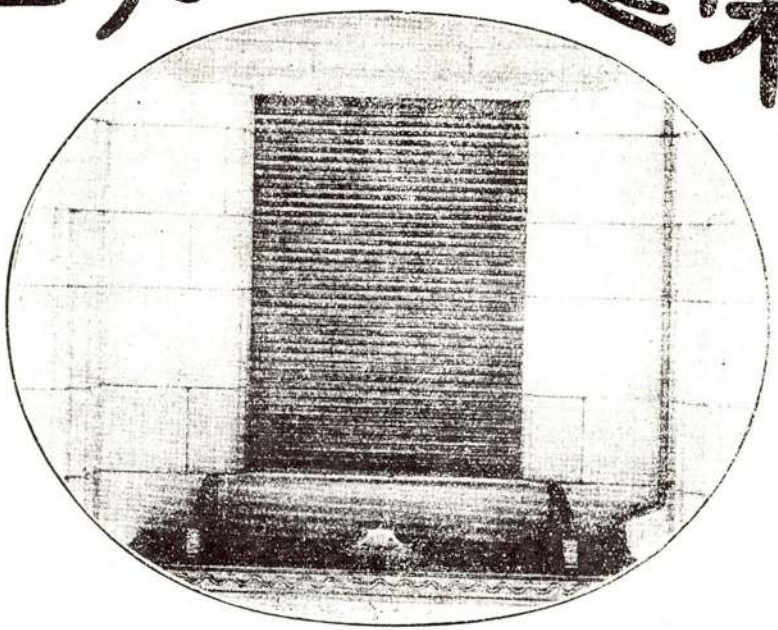
△市區改正と都市建築……會員 片岡安 一
△我邦の住宅改良第一策(下)……會員 片岡安 二
△英國に於ける住居及都市計畫法令(二)……大阪高等商業學校敎授 伊藤眞雄 一六
△大阪市の尿屎問題……大阪市技師 野田俊雄 二二
△紐育のウールワース、ビルヂングと高等法院……會員 中榮徹郎 三六
△亞米利加の建築……會員 大蘆生 四一
△紐育市の交通問題(二)……會員 伊藤正文 四六

△都市と建築 …… 會員・都市研究生・五六
□都市建築と市區改正
□物價騰貴と都市建築 …… 六五
△建築博覽會の開催に就いて …… 會員・淮敬生 七〇
△婦人と衣食住 …… 會員・葛野壯一郎・七九
△大阪市の細民住宅に就て …… 會員・K U生・八五
△寺院建築の將來 …… 會員・波江悌夫・九二
△東大寺建築史 …… 會員・須藤眞金一〇〇
△北木島紀行 …… 會員・T・N・生一〇七
△川の都 …… 會員・野人生一一三
△落花片々 …… 一一六
△三越吳服店の火災に就いて …… 第四部委員會一二〇
△會報 …… 一二八
△編輯たより …… 一三〇

附錄

△ベネチヤ市建築條例 …… 一一頁

榮進社製巻上防火戸



開閉の簡易　戸を開くには極めて輕く捲上げ得可く戸を閉すには一々把手を以て捲降すを要せず唯把手廻表面の小蓋を反轉すれば適當の標準速度を以て自働降下す

速度の加減　把手廻内に包容せる速度調整機には加減弁あるを以て前記標準速度を或る範圍内に於て隨意に變更することを得るの便あり

防火力と體裁　戸鈑は波狀型を付せる狹き軟鋼鈑を巧に鉄綴したるものにして容易に摩耗腐蝕することなく防火力優秀にして外觀亦豊麗なり

構造の堅實　各部分の機構堅牢なるを以て日常の取扱ひ輕滑至便にして工合極めて宜し

取付の簡便　如何樣なる種類の建物如何樣なる構造の窓出入口等にも取付簡單にして又把手廻は隨所に設くることを得るの便あり

最近御用命を蒙りたる建物の二三を擧ぐれば

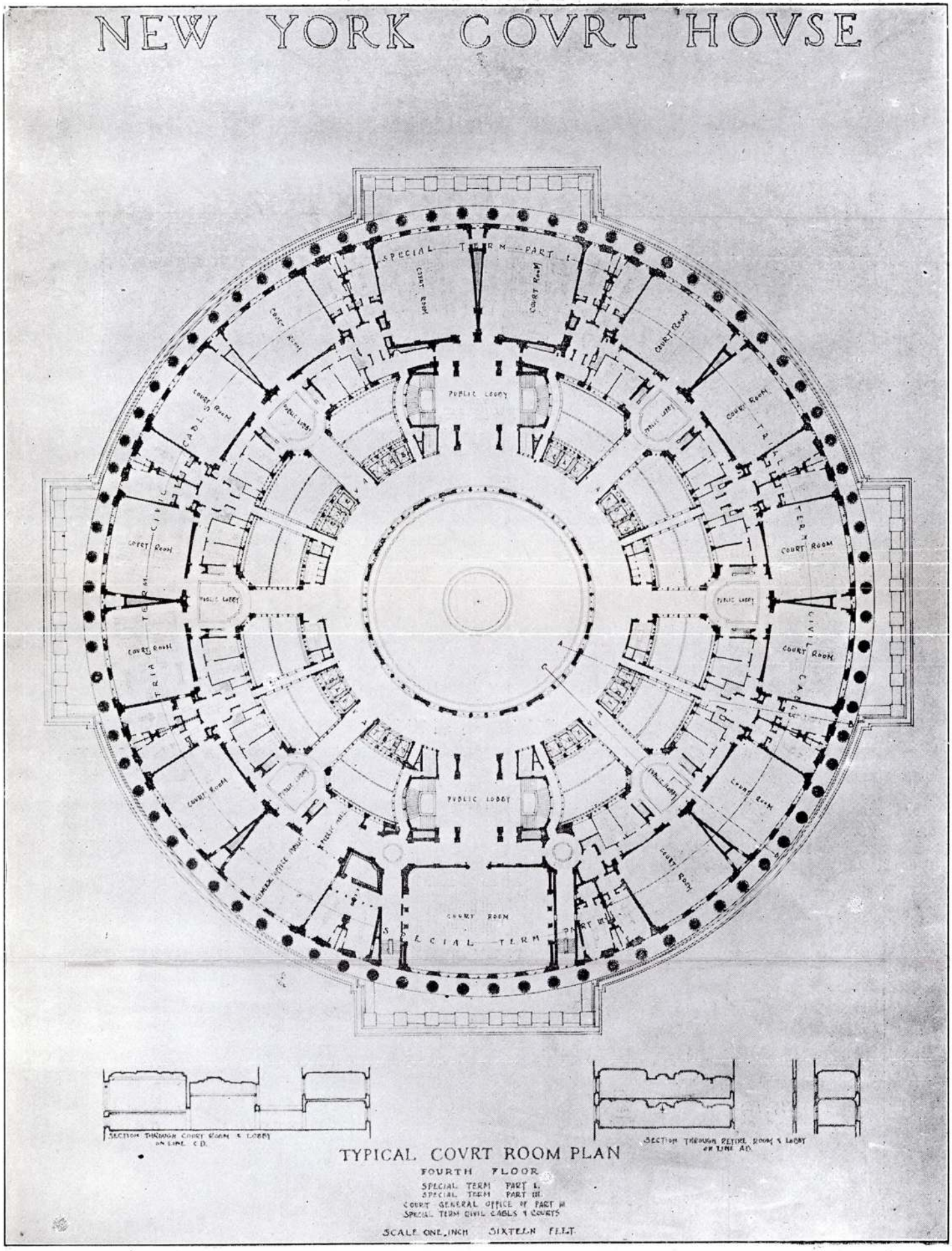
東京貯蔵銀行赤坂支店　山田第百〇五銀行
同　株式取引所　松江日本銀行支店
同　田中鑛山株式會社　下關鈴木商店
同　北三井家寶庫　門司日本銀行西部支店
同　淺野邸　博多共保生命支店
横濱毎夕新聞社　熊本日本銀行支店
同　澁澤商店　同第一銀行支店
大阪三品取引所　鹿兒島第百四十七銀行
同　藤田組營業所　富山高岡銀行支店
同　第三銀行堂島支店　京城内國通運倉庫
神戸鐘淵紡績營業所　同大同生命支店

價格　價額は戸の大小形狀等により其坪當り單價に隨分相違有之又御設計により覆蓋其他特種の設備を要する場合も有之候間御豫算の都度御手數乍ら寸法御申越の上見積方被仰付度候

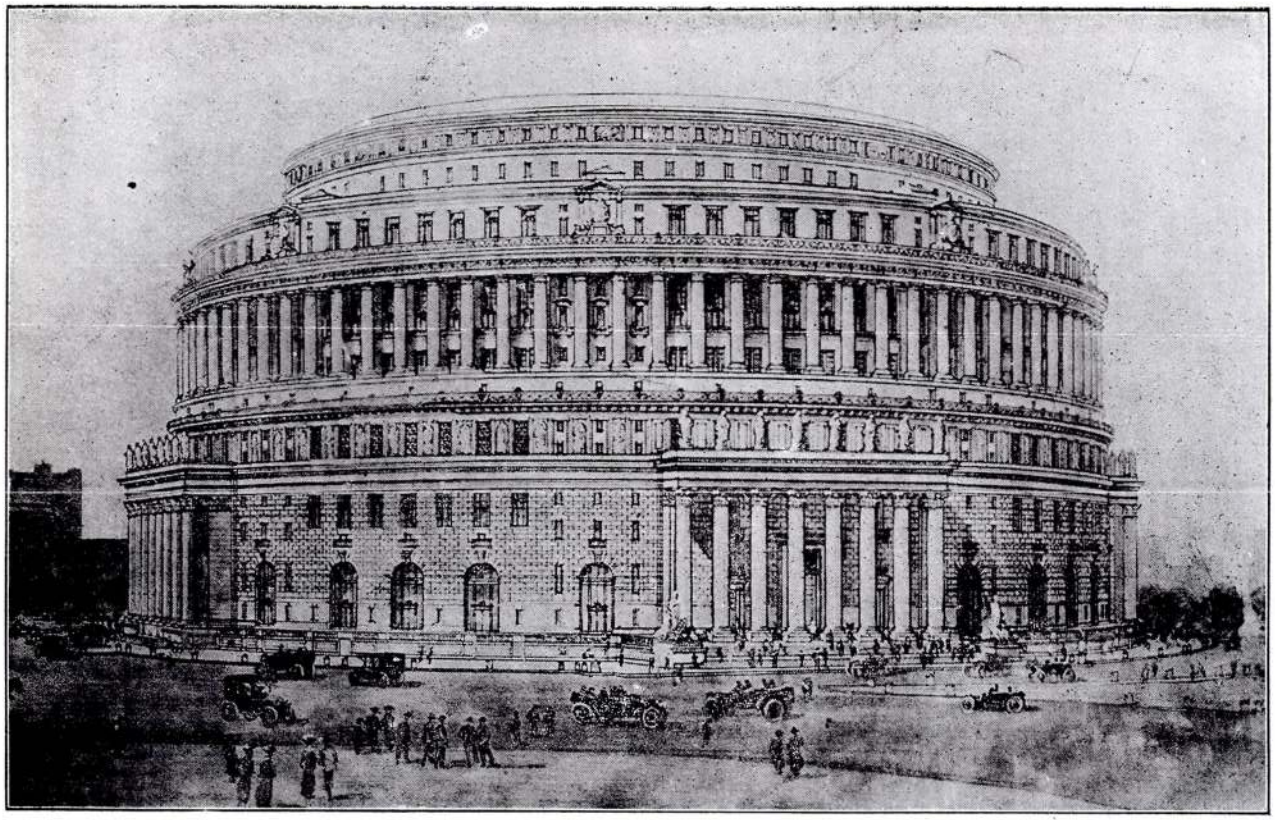
東京市神田區新石町五番地
（電話神田一七〇五番）
合資會社　榮進社



（大阪控訴院新館）　　中之島北岸の偉観

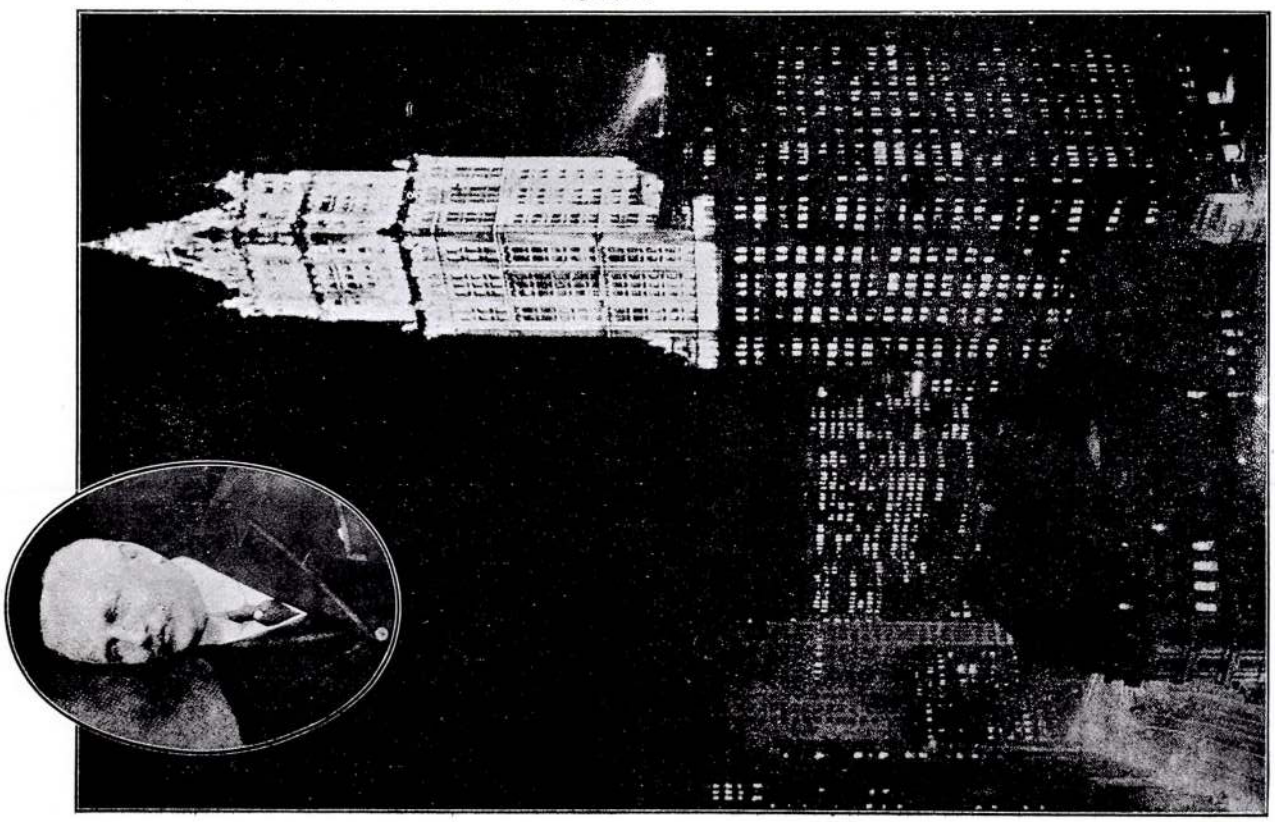


紐育高等法院平面圖 （第四階）



紐育高等法院配景圖

ウールウオース氏とウールウオース舘之景



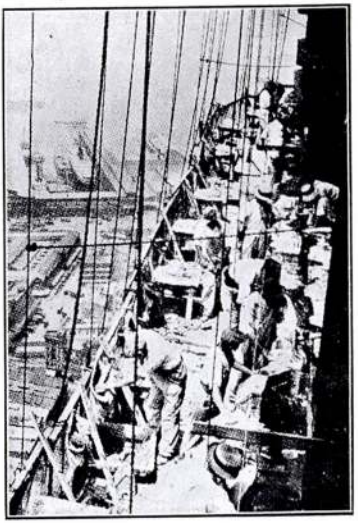




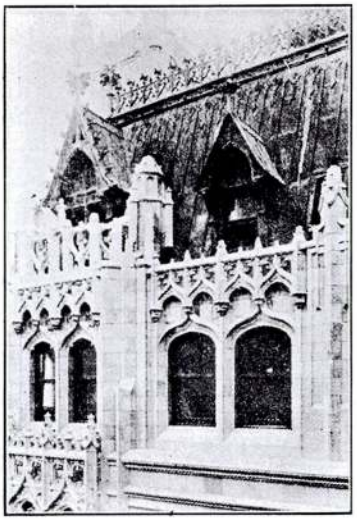
工事中のウール、ウオース舘と關係者

上は主任技師カツス、ギルベルト氏
下は主任請負者ルイス、ジエー、ホローウイツツ氏

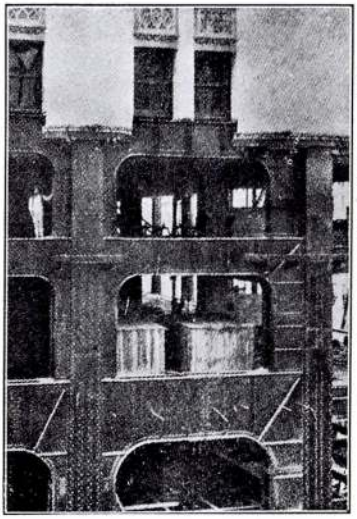
工事中のウール・ウオース舘と竣工後の屋上



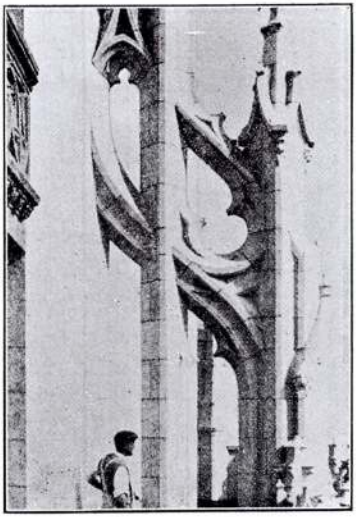
雲中の足代と亞米利加の職工



峨峙風ノ屋根とパラペット



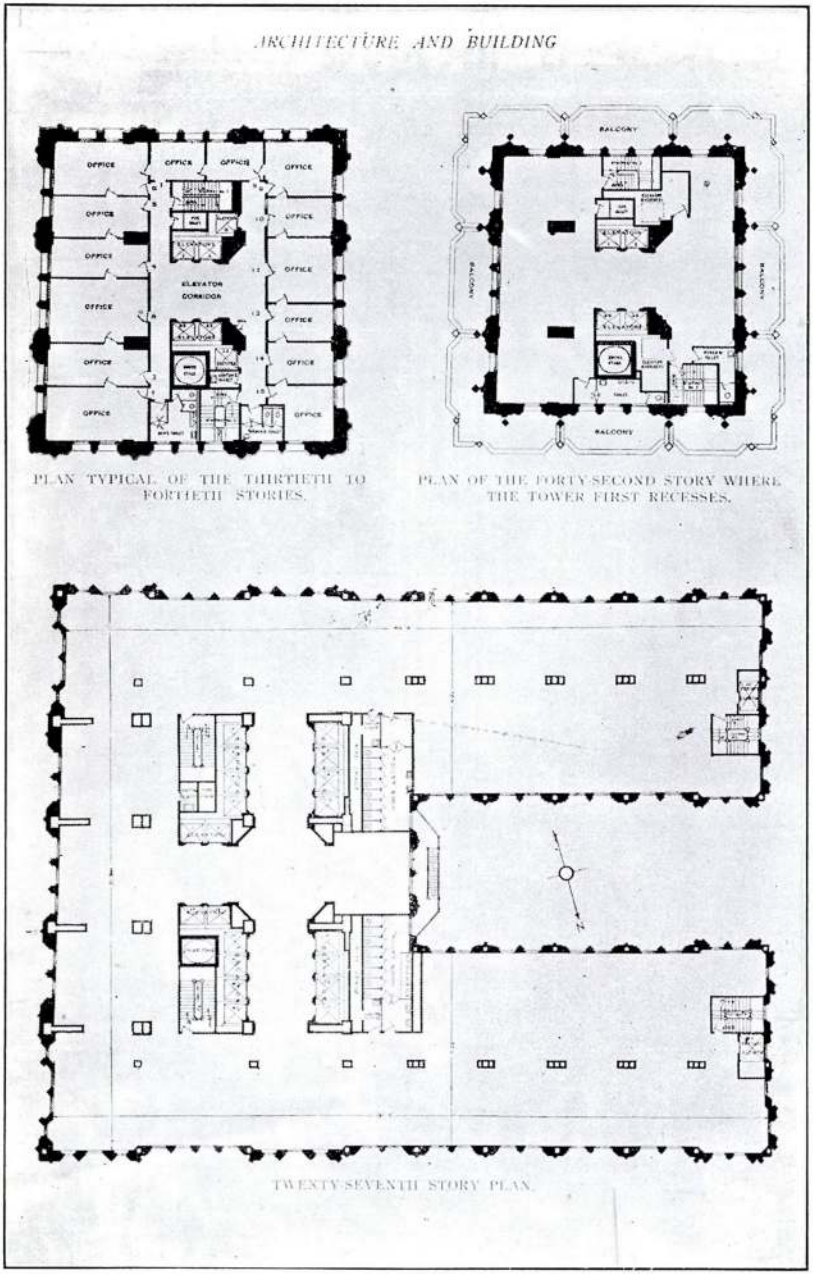
工事中の建物（上部は仕上りたるもの）



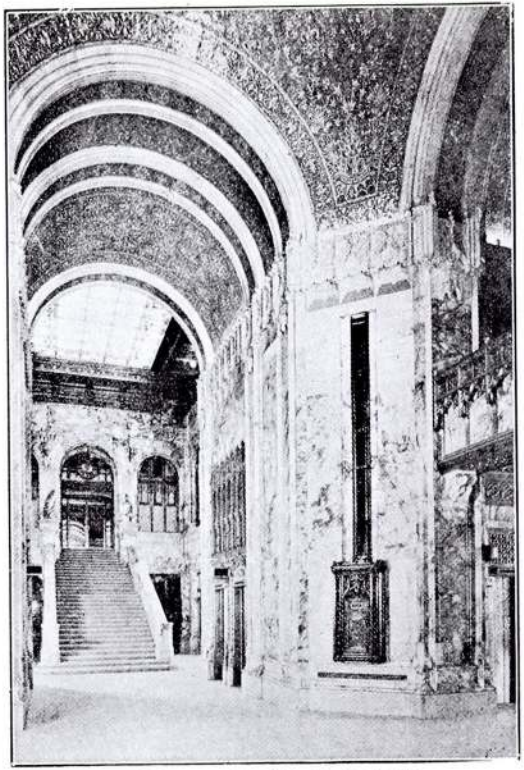
高塔のフライングバットレス

ウール、ウオース舘の平面圖

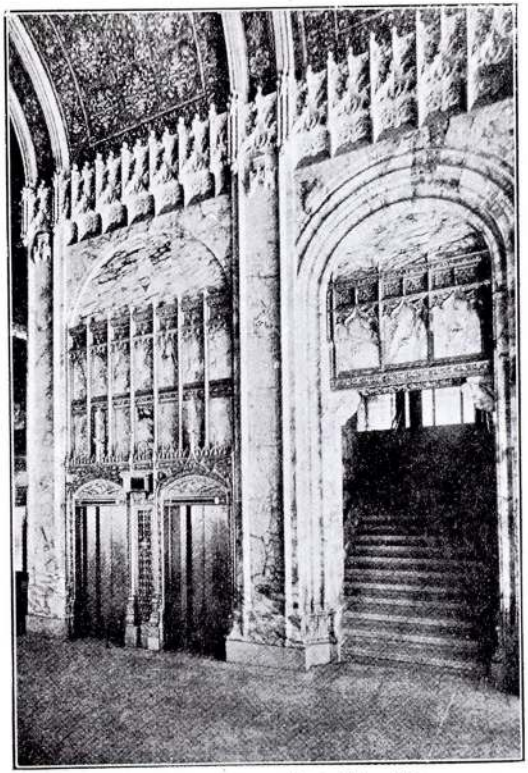
上圖右方は四十二階目、左方は三十階より四十階迄
下圖は二十七階目にして二十二個の昇降器と四個の階段室を有す



ウール、ウオース館の內部（其一）



階下大廣間の偉觀

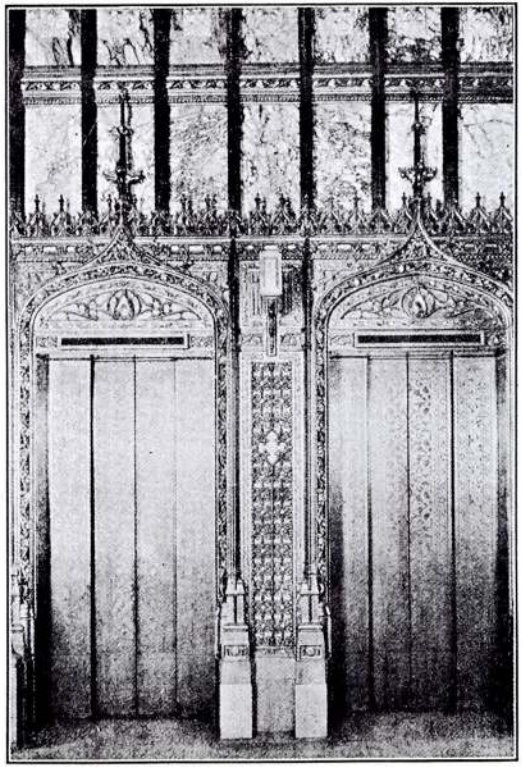


階段室の一部

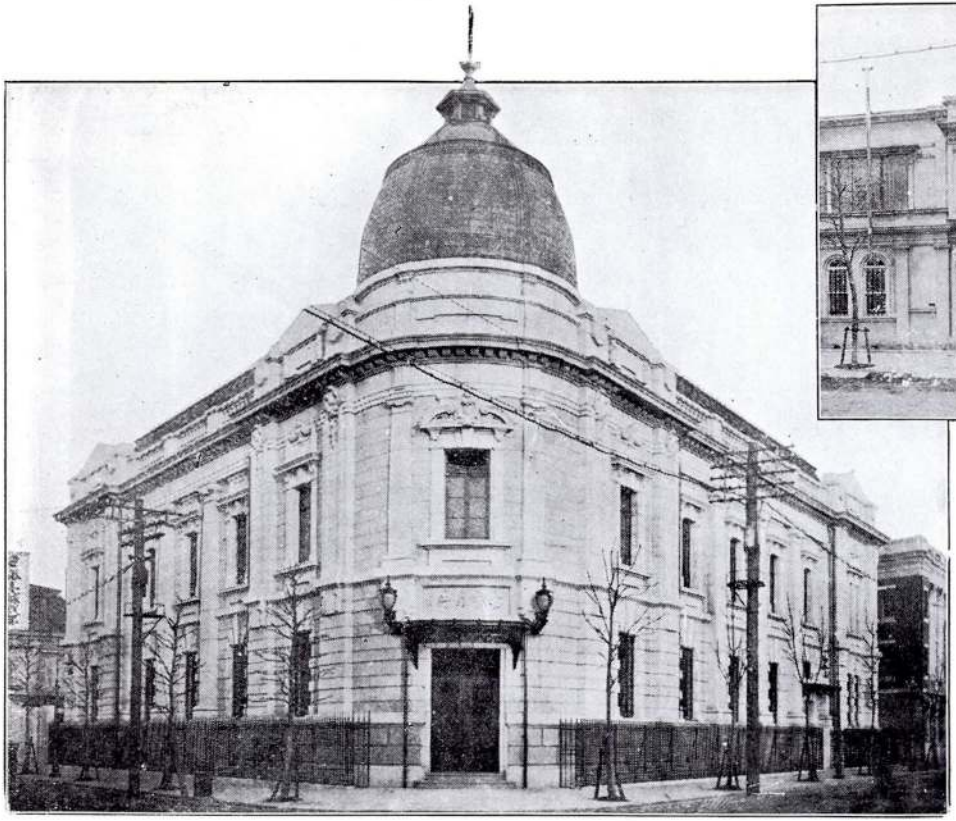
ウール、ウオース館の内部（其二）



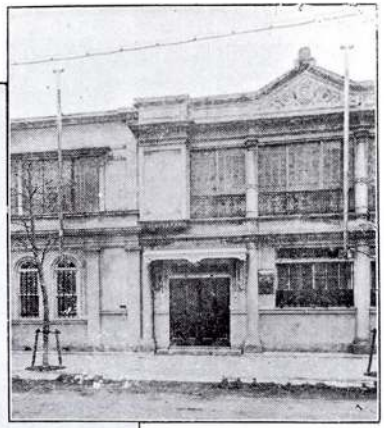
階下大階段室の壯觀



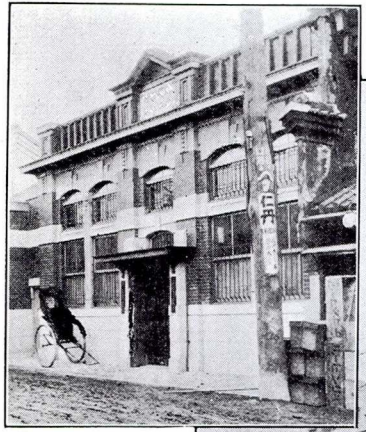
昇降器室の裝飾



株式會社丁酉銀行東京本店新館



同　銀行舊建物



同　銀行舊建物



株式會社三井銀行大阪新町支店新館



（大正七年四月一日撮影）

三越呉服店新舘と舊舘の焼跡　（報告書參照）



市區改正と都市建築

吾人が率先して高唱せし我國重要都市の市區改正と其建築改善は今や輿論の迎ふる處となり、今期議會に法律案として其一部を現はしたり、今後は京都及大阪の兩大都市は東京市區改正條例と同等の權能を附與さるゝが故に此處に始めて近代都市計畫の眞摯なる研究は其實施を見るを得るならん。東京の市區改正は已に三十年以前より其實行に着手せしものなれども何等一貫せる計畫なく、唯徒らに街路の局部擴築にのみ没頭し來りしが故に、現在の混亂不統一を釀成し、殆んど文明都市の体面を保留し得さるの狀況なり。殊に都市建築の取締を怠り、各自の放縱なる建築を默認するが如き野蠻的行政を脫し得ざりしが爲め、大都市の内容充實てふ近代文明の潮流に逆行しつゝあるの醜態を持續するは、吾人の最も遺憾とする處なり。今回新設さるゝ都市調査會は宜しく此大勢逆行を看破して、百年の長計たる市區改正を立案し、都市建築の改善を講し、以て一日も早く文明都市の建設に取り係るへき斷案を下すを要す。之れ實に我國戰後經營の第一步なり。



我國の住宅改良第一策（下）

會員　片岡安

〔五〕結論

我邦の住宅改良が今日まで可なり久しく又可なり廣く唱へられながら、少しも改良の機運を促がし得なかつた理由は、主として經濟上の關係と古來の因襲とであつたことは前章に於て述べた通りである。故に吾人が今後如何に改良の急要を叫んだとて矢張り前車と全じく覆へるに過ぎないのである、併しながら從來唱へられたる改良案よりも更に深刻なる裏的面觀察と現代の科學應用の適切なる方策を講じ、以て經濟上可能の程度を明示し、衛生上須要の實際を敷衍するならば、必ずしも從來の欠點列擧一天張りの改良案の如く無慘に葬り去らるゝことはないであらふと思はれる。もう一つは吾人の常に唱ふるところである都會自身の防備として木材一式にて造られたる住宅建築を何時までも都市に存在せしめる譯にゆかない現代都市の趨勢は、結局我邦の住宅建築の大改良を促がす時期に到達せしめねば已まぬであらう。之を詳しく言へば我國の住宅建築も其改良を必要としながら今日まで何等これと言ふ改良の案を實行し得なかつた理由は、唯因襲に捉はれたる爲めと、箇人經濟の不利とであつたけれども、今後の國民經濟の大潮流と社會衛生の徹底的運動は十分にそれ

等の結晶したる舊思想を打破して、十分に改良の實績を擧げ得るならんと推定し得らるゝ時期に達したのである。殊に今後の世界的經濟競爭や戰時の都市防禦を考慮するに於ては、吾人の住宅も亦決して低抗力少き現時の如き構造物たるを許さゞることは寔に明白なる事柄でなくてはならぬ。

然らば此等の事情は自然的推移に任せて置いて其目的を達せらるゝかと言ふに、決して其彼岸には達せざるものと思はねばならぬ。之を古今東西の變遷に見るも、殊に最近歐米都市の家屋政策の徑路に鑑みる時は、住宅の一般的改善は覺醒したる輿論と强力なる政策遂行の先驅なき以上、到底其成効を見る譯にはゆかないのである、啻個人箇人の局部的改善がチラホラ出來たとて社會の大勢を動かすに足らぬ、のみならず稍其成果を見るまでに何の位の期限を要するやら其見込さへ付かぬのである。

我國現時の住宅を改良する第一策として吾人の提唱せんとするところは、職工住宅の公營と都市建築法規の施行と此二者を中心とせる各種の努力である。抑も職工住宅の公營と都市建築法規の實施は甚だ簡易なるが如くにして、さてそれを斷行せんとするには、各種の事情を精査して最も綿密なる計畫の上に其基礎を置かざれば、唯徒らに表皮的の堂々たる立案を得たればとて、決して成功出來るものではない。職工住宅の公營、と言へば全く社會政策の問題であつて、一般住宅改良と何等關係なき事柄と見られ易いけれども、之を詳しく觀察する時は其問題が包含する大精神は、

一社會衛生の向上
二社會經濟の安定
三社會風紀の刷新

を目的とするものにして、之れ即がて吾人の最も緊急と考ふる我國の住宅改良の目的と全く一致するものである、故に住宅改良の徹底的成果を擧げん爲めには職工住宅公營を遺憾なく實施することを第一とせねばならぬ。乍併職工住宅の經營さへ實行すればそれで目的を達するかと言ふに、唯それだけでは一の物數奇な計畫として終るかも知れない、其經營の精神に於て上叙の社會衛生の向上社會經濟の安定及社會風紀の刷新とふ三大目的を達することを理想として其經營を進めざる以上は特殊の職工集團が都市又は近郊に出來上るだけのことで社會一般の住宅改良に何等の利益を與ふるものではない。現に我國に於ても八幡製鐵所の職工住宅經營を始め、大紡績會社の職工住宅等は到る處に經營されて居るにも拘らず、此等が一般住宅改良の端緒となつたとは思はれない、之れ全くそれ等の事業會社が自己專用の職工に多少の便宜を與ふると言ふ意味以上には、其經營に何等の深き理想を持たぬからである。

職工住宅を理想的に經營するには、先づ公營を以て第一とする、而して其意味を廣義に押し廣めて都市在住の勞働階級は勿論勤勞を以て一家を支ふるあらゆる階級にまで、之を適用するようにせねばならぬ、公營は必ずしも必要條件ではなく場合によれば個人又は會社にて之を經營するも差支がないのである。英吉利に於けるビーボデー、トラストの如きロートン、ピルヂングの如き財團法人經營の職工住宅ならば、公營と何等擇ぶところはない。倫敦市參事會經營の住宅は英國に於て最も成効せる實例の一であつて、其住宅自身は勿論其の他一般の經營をも刺撃して、倫敦市の住宅改良を徹底的に遂行しつゝあるのは、今や隱れもなき事實である。職工住宅公營により倫敦市の衛生狀態の向上したことは最も世人の驚歎するところにして、仝時に中流階級以下の風紀刷新にも多大の

効果を擧げつゝあると言ふことである。而して我國住宅の改良にさし當り阻害らしく思はるゝ箇人經濟及社會經濟の問題が歐米の都市にては、容易に解決されて居るのは寔に羨ましき次第である。

職工階級の住宅公營を實施するに先ち、必要なる先決問題は其數が多いのみならず、質に於ても六ケ數きものが多いのである、其主なるものを擧ぐれば。

一職工住宅法の實施
二安價住宅の設計
三住宅企業の保護

等である、職工住宅法は英國に於て一八九〇年に法律として發布され、爾來其法に準據して各都市それ〳〵住宅公營を實施し來りたる實例あり、我國に直接之を適用するは不可能なれども、精神に於ては十分玩味するの價値あるものと思はれる、本誌第一卷第五號及第六號に於ける伊藤法學士の英國住居法の說明を參照さるゝならば、讀者に多大の感興を與ふるであろふ。職工階級（廣義）の住宅法は一方都市計畫と關連し、社會衛生の向上とも密接の關係あり、近代社會政策の重要項目の一であるから、其制定は容易からぬ重大の意氣を有つのである。不幸にして我國朝野先覺の士は未だ此の重大なる問題の研究に入らず、僅かに二三經濟學者の低唱を聞くのみであるのは、余りに心細い次第である。吾人は此問題が我國の一般住宅改善の先決問題であるを考ふる毎に、少くとも其調査會の成立を切望せざるを得ないのである。

〔職工住宅法〕　職工住宅法の骨子は都市の貧民部落の非衛生的狀態を一掃して、新たに近代科學の精神を十分に咀嚼したる住宅を建設せんとする行爲を、法律に據つて可能ならしむることに過ぎな

い。故に其行爲は全く國家的にして、社會改善と言ふ分子より外には何物をも含まざるものでなくてはならぬ、其の爲めには之を公營として取扱ふを最も便利とするのである、英國に於ける如く各種の慈善資金により經營されつゝある住宅經營ならば、矢張り公營と並行して其法律の恩惠を受くることは出來る、然しながら英國にては個人にても會社にても、住宅經營の計畫をなすものには、一般に此法律を適用し得るようになつて居る。又英國の住宅法にては住宅經營の爲めに起債をなすことを、各都市に許してある外に、個人經營者に其資金を前貸しをなし得るのである、乍併其起債は六十年乃至八十年間に元利償還をなすべく規定されてあるから、其經營の經濟的基礎が立たぬ以上は、うつかり手を下す譯にゆかない筈である。若し我國に於て之を經營するとしたならば、金利に於て彼よりも不利益にして、個人經濟力に於て彼よりも低く、又建築費に於て彼よりも低からざる我國に於ては、かゝる起債は事實に於て不可能と言ふことに歸着するの虞がある。所詮我國に於ては經濟問題の爲めに住宅法實施は不可能に終るのではないかと思はれる、併しながら吾人は決してそれ等の事實を見て悲觀するものではない、何となれば現在我國の大都市は凡て市區改正、下水改良の大事業と共に建築改造の事業を成し遂げざれば、文明的都市として立つことの出來ない境涯にあるので、其等の事業の爲めには相當重き負擔を免がれぬのである。其負擔に勝へぬとならば其勝へるべき時期を待つより外に途はないのであるが、此三大事業は可及的急速に相並行して其實施をなすべき運命を有つのであつて、現に我六大都市は凡て其計畫に沒頭して居るのである。中に就て建築改造の事業は主として建築法の發布によつて、個人に其負擔を强ふるのであるが、都市全体として或る程度の負擔は必ずしも之を避けるの要はない、而して商業中樞區域の事務用建築は今や

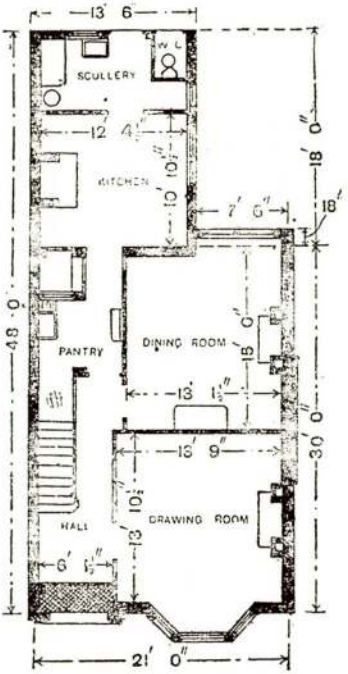
採算上合理的に其改造を成し遂げ得らるる時代となつたのであるから、都市としては其職工住宅改良の爲めに或る程度の負擔をなすも左程困難を感ずるものではない。故に住宅經營の起債には必ずしも、其企業の經濟のみにて償還の實を擧げしめることを規定せざるも差支なき筈である。

之を具体的に考ふるに我國の大都市が職工住宅を經營せんには、さし當り種々の困難に逢着するのである、即ち住宅法制定の研究未だ其門にさへも入らず、社會政策の聲は數次之を耳にするも未だ一も具体的の事績を擧ぐるに至らぬのみならず、近代科學應用の緊急なるを考ふるものに至つては甚だ僅少なるが如き、社會一般に幼稚なる思想に支配さるゝの狀態であるから、吾人は先づ第一に住宅改良問題を輿論に愬へて、住宅法制定の急要を叫ばねばならぬのである。英國に於ては今より三十三年以前に住宅改良問題の調査會が出來上り、其當時の朝野の大政治家によりて熱心に取扱はれたのみならず、ジョン、バーンスの如き熱誠なる政治家によりて國民の前に敷衍され、遂に國法となりたる事績を考ふるも、我國の現時の住宅の狀態は何故に一般先覺者に注意されぬかを怪まざるを得ない。三十三年前其當時の英國各都市の衛生狀態は可なり低劣のものであつたから、政治家の注意を惹いたのであるけれども、我國都市現時の衛生狀態や其他一般の風紀問題は之を以て十分に好良なりとは見るべからず、況して近年漸次低下するの嫌あるに於ては決して之を看過出來る筈ではない。今に於て其住宅改善の途を講せざれば時期を失ふの虞がある、吾人は一刻も早く其調査會の成立を希望せざるを得ない。

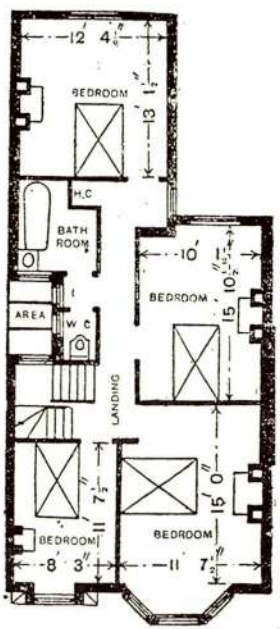
〔安價住宅の設計〕は一面住宅改良問題の解決を早める手段である、歐米各國に於ては到る處に住宅改良協會や住宅經營會社の成立するあり安價にして衛生上又經濟上合理的の住宅の設計をなし

ビルヂングヲオールド紙所載の理想住宅　其一

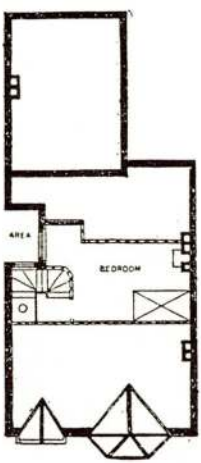
壹階平面圖



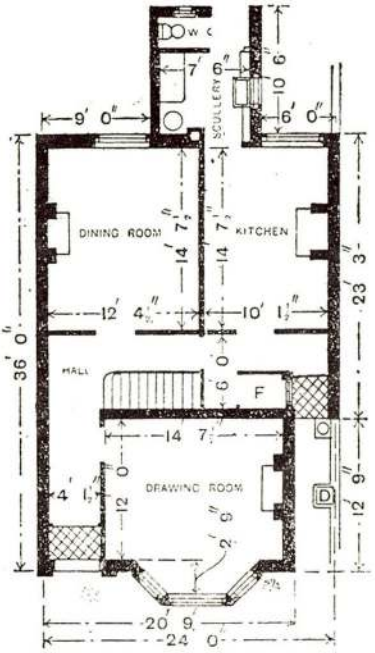
貳階平面圖



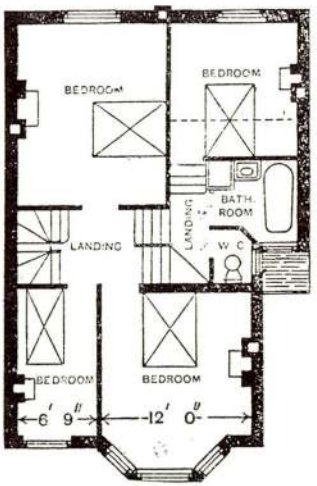
參階平面



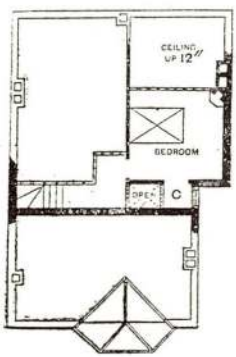
ビルヂング、ウオールド紙所載の理想住宅　其二



壹階平面圖



貳階平面圖

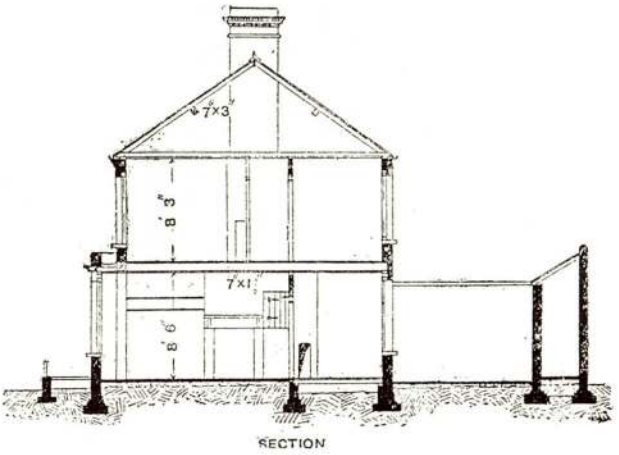


參階平面



FRONT ELEVATION

正面圖



SECTION

斷面圖

ビルヂングヤ、ウオールド紙所載の七十五磅住宅

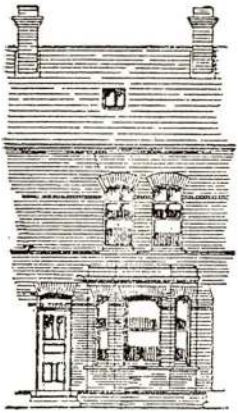


壹階平面圖

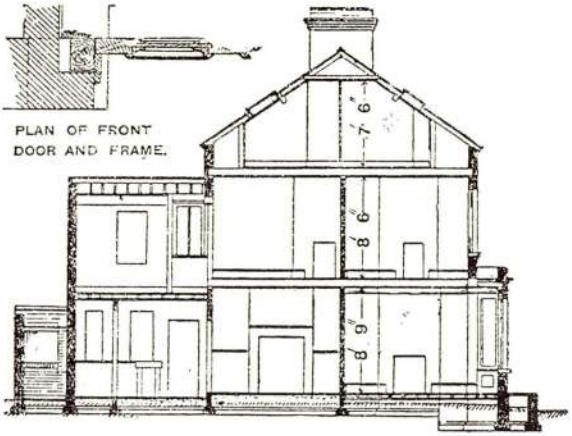
GROUND-FLOOR PLAN

貳階平面

FIRST-FLOOR PLAN.

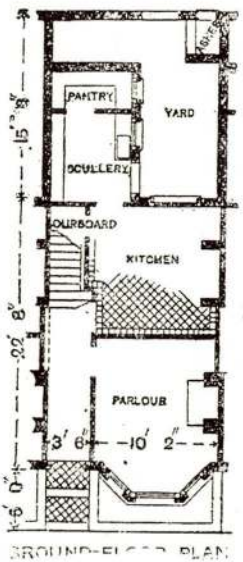


FRONT ELEVATION.
正面圖

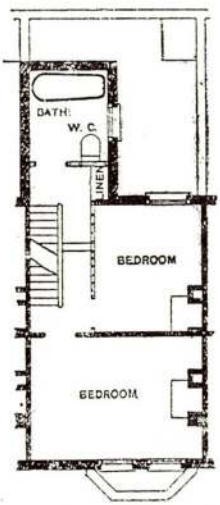


SECTION.
斷面圖

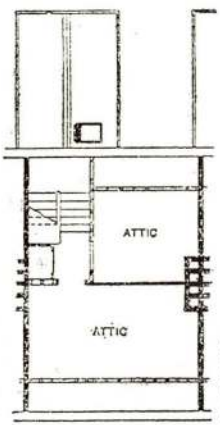
愛耳蘭ベルファスト市に於けるパーロア型住宅（工費千五百圓）



GROUND-FLOOR PLAN.
壹階



FIRST-FLOOR PLAN.
貳階

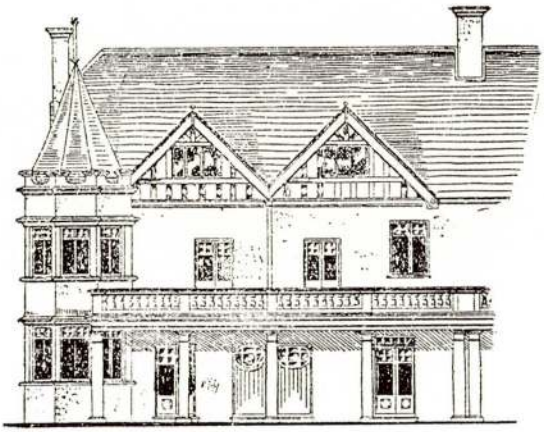


ATTIC PLAN.
參階

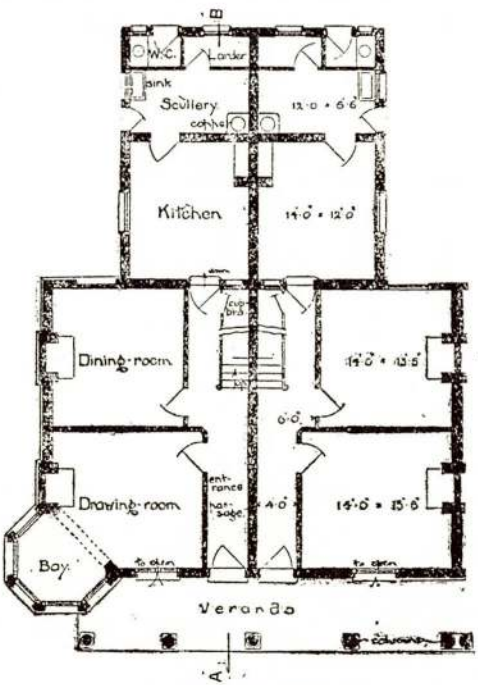
て之を實地に建設し、其成果を收めん爲めには最善の努力をなしつゝあるのである。最近には英國の內務省及王立建築學會に於ても簡易なる住宅の設計を懸賞にて募集しつゝあると言ふことである其他簡易にして完全なる住宅の設計は、各種の協會にて其案を社會に公表し、以て一般住宅の改良を促進しつゝあるを見る。本篇の挿圖は最近英國に於て稍理想に近きものとして發表されたる簡易住宅の二三設計案を示す。此等は必ずしも如何なる場合にも適合するものと言ふ譯ではなく、殊に我國の如き風土氣候及習慣其他經濟上の關係異なる都市には、全く適合し得さるものならんも、其

英國に於けるコンクリート造住宅實例

（工費三千五百圓乃至四千圓）



立面圖



左は壹階の平面を示し
右は貳階の平面を示す

設計にあらゆる苦心をなして、現代の科學的應用の實を擧げ、經濟上衛生上又社會政策上に合理的の目的に合致せんと努めつゝある其精神は、十分に之を咀嚼するの價値あるものと言はねばならぬ

安値住宅共進會の如きものも此等の努力を最も有効に實現し得る手段の一つである。先年英國の工業都市なるセツフヰルド市の郊外に其開催を見、又第一田園都市株式會社がレツチウオース田園都市の一部に之を開催したる實例あり。其方法に就ては今此處に詳述するの餘白を有せざるも、現實の住宅を建設して其實用上の良否と、經濟上の價値とを一目瞭然たらしめることの、如何に一般社會に對して適切有力なるかは約そ想像に難からぬのである。

我國に於ても主として關西地方に、郊外の安價住宅の建設殷んなるを見る、其設計及實物に就て之を見るに、在來の家屋よりは多少進歩したる形跡を發見すれども、吾人の理想とする住宅改良の目的と一致せさる點の多きを憾とするのである。此等は或る營利上の資本を根底として出發するが故に、什うしても徹底的の研究の出來ざるのは當然であるのと、又一つは郊外住宅なるが故に、之を都市の一般住宅に適用すべからざるものとなるのも無理はない。もう一つ此處に見遁がすことの出來ない欠陷は、建築技術家の態度であつて、彼等は、我國現時の不合理不經濟にして且つ時代錯誤に陷れる住宅の改良案に就て、何等深き研究をなさなかつたのである。歐米各國にても往時は職工住宅の如きは三流四流の建築師若しくは山師的請負者に依つて設計されたのであるが、家屋問題の喧しくなつてより、其設計には可なり深き注意を拂ひ、建築構造以外更に他により廣きより深き各種の事情との調和を考究して、其建設をなすようになつて來たのは事實である。我國にては社會一般が未だ其設計や建設の重大なるを覺らざる爲め、建築技術家が其問題に沒頭せぬのも無理はな

いけれども、今は其順序を爭ふの時期ではなく、一刻も早く其成績に近づくを以て理想とせねばならぬのであるから、建築技術家の方より進んで此等の問題の解決に、多少なりとも貢獻し得る爲めに、彼等の智力を緊張し、實際上甚だ困難とせられて居る我國の改良住宅の設計に付き、十分の努力をなすべきではないかと思はれる。

（**住宅企業の保護**）は一面此問題の解決に至大なる關係を有するのである、**住宅法の制定**は正さに其根元であるが、我國にてはもう一歩之を進めて何等かの保護政策を取らねばならぬのである、英國にては各都市が獨立經濟を以て其經營に成効しつゝあるとて、我國の都市が必ずしも成効すると言ふ譯にゆかない、否確かに獨立經濟にては成効出來ないのである、其主なる理由は

一事業債の利子高き事

一箇人經濟の程度低き事

にして其以外には箇人衛生の智識低く、折角の改良家屋を認知させる場合多きことや、公共下水道の完備せざる爲め各箇の改良家屋の維持費を大ならしむる事等數へ來れば、凡て經濟上不利益なる點のみなるの感がある。若し國家又は都市に於て其企業を保護せんには如何なる方策を取るべきやは、可なり復雜なる問題となるのである、吾人は其問題を評論するの最も適切なるを知るが故に更に編を改めて其方策を研究することゝし、此處には唯一二の具体的希望を述ぶるに止める。

我國の大都市は先づ第一着に其所有する土地を整理し、市區改正の計畫と相待ちて住宅地區を制定し、其地區に於て先づ五十軒乃至百軒の住宅建設を斷行し、下級吏員警察官等を收用し、其成績を見て漸次に其計畫を延長するを第一策とする。其試驗時代に於て費すところの十萬二十萬の資金

は必ずしも償還を目的とせず、上叙の理想を中心として其企業を遂行するを方針とせねばならぬ。而して斯かる企業は事小なりと雖も、將來の住宅政策の基礎となり、都市住宅改良の先驅となるものなれば、之を輕忽に取扱ってはならぬのである。即ち其遂行には現時我國に於ける最も理解ある技術家、社會經濟學者、其都市の先覺者等を網羅せる調査會に於て立案をなし、十分に之を練磨して其實施に取係るを順序とする。從來數次企てられたる大工場附屬の住宅經營の如き方法は、縱へ經濟上又衛生上多少の利便を發揮したればとて決して斯かる方法に則つてはならぬのである、何處までも我國民將來の住宅として許すことの出來るものを立案し、其建設に從事するようにせねばならぬ、若し適當の設計案を得ざるならば或は懸賞により或は合議により全力を其立案に注ぎて成案に到達すべきである。

又第二の方法として都市は一定の標準家屋の設計を發表し、一定の市有地に其標準家屋を建設するものを奬勵するを得策とする、奬勵法としては一定期間家屋稅を免じ、無料にて水道を使用せしむるとか、市として直接金員を附與せざる程度にて可なりの利便を與ふることは出來るのである、

〔總結論〕 要するに現時の我國の住宅は全然其改造をなすべき時期に達して居るにも拘らず、朝野共に因襲に捉はれて未だ其の緊急なるに氣付かざるは寔に嘆はしきことである。之を社會衛生の向上より見るも、社會政策の遂行、都市經濟の安定等より打算して、今や一日も此問題を忽に出來ないのである、近時市區改正、都市建築改造等の輿論漸く勃興し來れるに際し、吾人は茲に住宅改良の問題を提供して之を輿論に愬へんとするのである、社會先覺の士は宜しく深く鑒みて此問題を考慮すべきである。 （畢）



英國に於ける住居及都市計畫法令（二）

大阪高等商業學校教授　伊藤眞雄

（五）住居の改修設計及び改築設計に關する修正規定。

一、主法第一編に依る改修設計（比較的廣き地域の）は從來は家屋路地等の有害なる狀態並に其地域の衛生的缺點を救濟するには此種の改修設計に依るの外なきものとして申告ありたる場合にのみ之を行ひ得たるものなれども爾後此種の改修設計を以て之が救濟に最も滿足なる方法なりとして申告ありたる場合にても之を行ふことを得。（第二二節）

隨て比較的廣大なる地域に對する改修設計を行ひ得べき場合が、從來よりも大に擴張せられた譯である。

改修設計に關する規定は、主法第一編の第四節から第十節に亘りて規定せられて居るのであつて其大要は次の如くである。

地方廳の保健醫員は二人以上の治安判事、又は十二人以上の地方稅負擔者の抗議に依り、又は自らの發見に由り、臨檢の結果或家屋又は路地が人類の棲息に適せざること、又は其地域内の街衢及び家屋が、閉塞狹隘にして其排置及び狀態が劣惡なるか、又は通氣日光不足にして便所不完全なる等、其他衛生上の缺點の爲めに其地域又は其附近の住民の健康上有害なりと認め、且つ之を救濟すべき最も滿足なる方法としては地方廳が其地域に於ける街衢及び家屋（又は其家屋の或もの）を改設又は改築すべき設計を行ふことありと認めたるときは、之を地方廳に申告するを要し、地方廳は其事實を是認し且つ其資力十分なりと認むるときは、之が改修設計を作ることを要する。即ち地方廳は地圖及び豫算を添付せる詳細なる改修設計を調製し、之を地方政務廳に提出して、認可を請ふを要し、而して政務廳は審査の後之を認可したる場合には、以前は議會の認可あるまでは執行し得ざる假命令を發するこ

とを得たのであるが其後一九〇三年の住居條例第五節に依て其設計が土地の收用を含まざるか、又は假命令發布後二ヶ月以内に異議の申立なきときは假命令は議會の許可を要せずして確定條例と同一の効力を有することゝなつたのである。然るに本法に至つて更に之を修正して、

一、改修設計に對する地方政務廳の認可命令が議會の認可を要せずして効力を生じ得べき場合を制限したる從來の規定は之を廢止す（第二四節第二項。）ることゝなし、臨て爾後地方廳の改修設計は總て地方政務廳の認可を經れば則ち確定條例と同一の効力を有することゝなつたのである。

又之と同時に主法第二編に依る所の箇々の家屋又は比較的小區域の改修設計に關しても左の修正を加へられた。

一、地方政務廳が改築設計を認可する命令及び改築設計の爲めに土地收用を認許する命令は議會の認可を要せずして効力を生ず。（同第二項）

茲に改築設計と云ふのは法文には之に定義を與へて居らぬけれども、上述の如く主法第二編に依る所の小規模の改修設計のことであつて、主法第二編第三九節に於て之を規定して居る。今修正後に於ける之が大要を觀れば左の如くである。

地方廳は次の場合には其區域の改修の爲めに設計を作るべし

（一）或建物の取毀命令が發せられたる場合に於て若し其建物の在る住宅區域をば、或は（イ）道路又は空地として使用し或は（ロ）勞働者住宅の建設の爲めに之を供用、賣却又は貸付け、或は（ハ）勞働者住宅の建設爲めに一層適當なる近隣の土地と之を交換し、而して之に依て得たる土地を右の如く供用、賣却又は貸付け、或は又上記の總ての目的の爲めに之を使用するときは、其近隣の住民の健康上有利なりと認むる場合。

（二）地方廳が或建物を閉塞狹隘にして排置及び狀態劣惡なるか、又は通風日光不足にして便所不完全なる等、其他衛生上の缺點の爲めに、其地域又は其附近の住民の健康上危險又は有害と認め、且つ之が匡救には其建物の全部若くは其或ものを取毀ち又は之を改築することを必要と認め、且又其區域は第一編に依る不健康地域として之を取扱ふには小に過ぐと認めたる場合。

右に因りて改修の設計を作りたるときは、之を其設計に含まれたる各家屋の所有者、賃借人及び占有者に通知することを要し、更に地方政務廳に設計の認可を請願することを要す、政務廳は審査の結果之を其建物又は其附近の住民の健康上有利なりと認むるときは、之に條件若くは變更を加へ又は之を加へずして認可の命令を發することを得、而して認可を經たる設計を實行すべき地方廳の義務に關し又其義務を强制する政務廳の權能に關し又地方廳が設計の完行を怠りたる場合に之を完行せしむること、及び設計區域に於ける通行權並に其他の地役權の消滅に關しては、何れも主法第一編の改修設計

の場合と同樣に、主法第一編の規定が之に準用せらる。

右は直接に健康に危險有害なる建物そのものの改修に關する規定であるが、此外に一八八二年の職工住家條例以來直接に健康に有害ではないが併し他の建物の妨碍となるべき所謂妨碍建物の收用を許したることは、曾て述べた所であつて（商業及經濟研究第七冊一二五頁參照）主法第二編の第三八節にも大要左の如く規定してある。

地方區の保健醫員は或建物が人類の棲息に不適には非ざれども他の建物に對する位置の結果として（一）他の建物の通氣を妨止し其他之を人類の棲息に不適ならしめ、又は健康上危險若くは有害ならしめ、又は（二）他の建物の有害狀態を匡救するに適當なる手段の執行を妨ぐるものなることを發見したるときは、之を妨碍建物として申告し、之を取毀つを得策とする旨の意見を述ぶべし。

其地方區に家計を營める四人以上の住民も亦如上の申告をなす事を得。地方廳は其建物の狀況及び之が取毀並に土地買收に要すべき費用の報告をなさしめ、其申告と其報告とを其建物の土地所有者に通知し、若し異議あらば之を聽きたる後命令を以て之を取毀つべきや否やを決す。取毀命令に對して所有者の抗訴なきか又は抗訴敗れたるときは、地方廳は其土地を契約に依りて買上げ又は之を收用するの權能を有す。所有者は買上通知を受けたる後一ケ月內に、取毀後其敷地を保有せんことを申立つることを得、又之が取毀を地方廳に委し若くは自ら之を取毀つべき事を約することを得。取毀に對しては賠償を與ふ。所有者が敷地の全部又は一部を保有する場合には健康上有害となり又は妨碍建物となるべき建物を建つることを得ず。若し之を建つるときは、地方廳は何時にても之が除却又は變更を命ずることを得、之に從はざるときは所有者の費用を以て地方廳自ら之を除却又は變更することを得。地方廳が其土地を買上げたる場合には、妨碍建物を取毀ち害惡匡救の必要に應じて其敷地の全部又は一部を空地となすことを要す、必要なき部分は政務廳の同意を得て賣却することを得。又地方廳は適當と認むる場合には其土地を道路又は其他公共用の場所に供用することを得。

妨碍建物取毀ちの賠償額及び其土地買上の賠償額に就て爭あるときは本法に依る裁定に依て之を決す。

而して主法第三八節には唯此場合には裁定に依て決すべきことを規定したるのみであつて、其家屋及び土地の占有者所有者及び制限的所有者等賠償を受くべき利害關係者が數人ある場合には如何なる方法にてこれに賠償すべきかの規定を缺いたのであるが本法に於ては之を補修して左の規定を加へた。

一、主法第三十八節に依て支拂はるべき賠償額が裁定に依て決せられたる場合には、裁定人は自ら定むる方法に依て其賠償額をば之を受くべき利害關係者の間に配分すべし。（第二八節第一項）

而して收用權を得たる地方廳が家屋、工場及び其他の建物の

一部分のみを妨碍建物として收用せんとするに當り、賠償裁定人は其一部分のみを分離するも他の部分には重大なる損害なしと認むる場合には其所有者は其建物全部を收用せられんことを主張することを得。但し此場合には、其收用せらるる部分の價格の外に、之れが分離に對して賠償を與ふることを得、裁定人は、妨碍建物の取毀ちの爲めに他の被妨碍建物の價格を增加したりと認むるときは、取毀ちに對して支拂ふべき賠償額中、斯る他の建物の增加額に相當する額は、之を斯る建物の間に割當つることを要す、而して各建物に對する此割當額は之を地方廳が該私有財産の改正の爲めに支出したる費用と見做す。隨て地方廳は此費用支辨の目的を以て斯る建物の所有者に增價稅を課することを得。

（六）財政事項に關する修正規定。

一、公共事業債委員が住居條例の目的上地方廳に貸付金をなす場合には、（イ）當時地方債基金より貸付くることを許されたる最低利率にて貸付くることを要し、（ロ）地方政務廳が適當と認むる場合には、貸付期限は他の條例の制限に拘らず之を八十年迄延長することを得（ハ）利率は期限長きを理由として短期のものよりも之を高くすることを得ず。（第三節）

一、公共事業債委員が公益組合に貸付金をなすに當り土地又は住家のみを抵當とする場合には、其價格の三分の二まで貸付くることを得（第四節第一項）

此所に公益組合と謂ふは一八九三年の產業組合法 Industrial and Provident Societies Act. に依て登錄せられたる組合にして組合規則により年五分以上の利子又は配當の支拂を禁ぜるものを謂ふ。（同第二項）

右產業組合法に依て登錄され得べき組合は、各組合員の持分をば二百磅を超ゆることを許さざるものに限られて居る（登錄されたる他の組合が其組合員となる場合は此限に非ず。）

尙ほ公益組合たると否とを問はず左の私團体及び一私人は、皆公共事業債委員より貸付を受くることを得るのである（主法第六七節）

（イ）鐵道會社、船渠會社、繫船場會社、勞働者を使用する商事若くは製造會社又は此種の組合若くは協會。勞働者の住居の建設又は改善を目的とし若くは之が建設又は改善を奬勵せん事を目的とする會社若くは組合又は協會。

（ロ）永代借地權又は五十年以上の未了期限を有する土地占有者權を有する一私人。

右の者に對する貸付期限四十年を超ゆることを得ず。

又永代借地權又は未了期限五十年以上の土地占有權ある場合に非れば、土地又は住家のみを抵當として貸付くることを得

す。土地又は住家のみを抵當として貸付くる場合には、其不動産價格の半分以上（公益組合の場合には上述の如く三分の二以上）を貸付くることを得す。

一、住家改修基金の不足は、地方政務廳が至當と認むる場合の外は、借入金に依て之を補充することを得す。（第三〇節）

住家改修基金は、主法第一編に依る改修計畫に使用する基金であつて、地方稅、借入金及び土地賣却代金等に依りて之を作るものであるが、濫りに借入金にのみ依頼することを許さぬ、土地の購入又は收用に要する費用、改修計畫の認可を得るに要する費用、其他改修計畫に當然伴ふべき費用の爲めの外は、政務廳は濫りに借入金を許さぬのである。

一、田舍地方區が主法第三編の爲めに支出する費用は、其地方區全體の一般的費用として之を支辨すべし、但し地方政務廳が、地方區會の請求によりて其地方區の或部分のみの費用として其部分のみが之を負擔すべきことを命じたるときは此限に非す。（第三一節）

一、主法第三編の目的上地方廳に屬する土地か同法第六十節の規定に依て賣却せられたる場合には其收得金は、同節の規定せる場合のみに限らず、之を借入金の償還及び其他地方政務廳の認許する總ての目的に充用することを得。（第三二節）

主法第六〇節の規定と云ふのは左の如くである。

田舍地方區は府縣會の同意を得て、其他の地方廳は地方政務廳の同意を得て、主法第三編の爲めに有する土地を賣却し、其收得金を其目的上一層適良なる土地の購入に充用することを得（又同樣の同意を得て、其土地を其目的上一層適良なる他の土地と交換する事を得）

一、一八四五年の土地條項法第百三十三節の規定は、地方廳が住居條例の爲めに占有したる土地には之を適用せす。（第三四節）

右土地條項法の規定に依れば、事業の企畫者が土地稅又は救貧稅を課せらるる土地を占有したる場合には、之に因りて生ずる土地稅及び救貧稅の缺損を補償するの義務がある。之が爲めに地方廳は住居條例を勵行することを好まず、隨つて住居改良上地方廳の活動を妨ぐること大なりしのみならず、又之が爲めに土地占有者は收入增加の必要大なるから、特に田舍地方にありては、少しにても高き家賃を拂ふ借受人あるときは、從來の借家人たる勞働者は忽ち立退を請求せられて困窮に陷れること多かつたのであるが、此の修正は此等の弊害を除く爲めに甚だ必要なりしものである。

一、勞働者に對して一夜に付き一人六片を超ゑ

する料金にて下宿として貸すことを目的とせる家屋に對しては、其使用及び構造は專ら適當なる下宿の供給を目的とし且つ衛生上適當なる設備あることの證明書を提出するときは之に住家稅を免除す。（第三五節）

住家稅は、一八五一年の家屋稅條例 House Tax Act, 1851 に從ひ、家屋の年價格即ち家賃を標準として課せらるゝものであつて、其後一八九〇年の歲入條例 Customs and Inland Revenue Act, 1890. にて家具附の下宿の場合には之に減稅をなし、更に其後修正せられたる同條例にては、數戸の個別住宅を含める年價格四十磅を超えざる家屋は、之に住む各家族又は各人に對して適當なる住居を供すべき構造を有し且つ衛生上適當なる設備を有するときは、家屋稅の全部又は一部を免除し得ることを規定したのであるが、本法は更に之を修正して免除の範圍及び程度を進めたのである。而して本法に依て提出すべき證明書は、右歲入條例の第二六節第二項に從ふものであつて左の如く規定してある。

地方區の保健醫員は、其地方に在る家屋の家屋稅納稅義務者の請求あるときは、之に上述の證明書を與へ得べきや否やを確むる爲め先づ其家屋を臨檢し、若し其構造及設備が上述の如き適當なるものなるときは之に證明書を附與すべし。（未完）

□法　令□

寛永八年（一二九一）德川家光諸弟の武人に令して曰く、家屋を營むに各分に過ぐる勿れと、同二十年（一三〇三）家光天下に令して曰く、民庶各分に應ぜざるの家屋を營造すべからず、但、市に在る商賈の家宅は定制無し、空しく其地頭代官の命する所に從ふべしと家光始めて武人及農商の家宅の制を出してより、工人之れに隨つて建築の法を立つ、後世に至るまで工人此の制を導守す。（工藝史料）



大阪市の屎尿處分問題（上）

大阪市技師　野田泰男

序言

大阪市最近十ヶ年の平均累年人口增加百分率は、三、〇四‰にして、又平均累年死亡千分率は一八、二六‰なり、各年を比較するに人口增加率と死亡率と其高低一致せず、ひとり人口の增加のみ著明にして死亡率は却て低し、本邦に於ける三十四年より四十三年迄の平均累年死亡率は二〇、九‰にして、又他の大都市に於ては四十二年より大正二年迄五ヶ年間の累年平均死亡率、東京市は二〇、七六‰京都市は一九、〇四‰を示し之等に比すれば大阪市最近十年の平均累年死亡率一八、二六‰は著しく低しと云はざる可からざるなり。然るに本市に於て近年消化器系急性傳染病竝に其死亡率は增加したるの事實ありて、其原因竝に豫防に就ては各方面より攻究するの必要あり、而して屎尿は實に之等消化器系傳染病の泉源たり、消化器系傳染病の豫防を講ずるに際し、吾人が第一着に考慮を要すべきもの實に適當なる屎尿處分の問題に在ること言を待たざるなり、本市に屎尿市營處分委員會の存する所以又實に茲に在り、

附記、本稿は野田氏が大阪市役所に提出せる報告書にして特に同氏の許諾を得て茲に揭載せるものに係る、都市計畫と市區改正問題の高調せらるゝ昨今に於て、貴重なる參考資料たるを失はず、永遠に亘る都市改良の根本問題は屎尿處分問題に在る也。

而して現今吾國に於て最も愼重に考究を要する問題の一にして早晩之が解決を講ぜざるべからざる機運到來しつゝあるなり、此時に當りて大局を打算し詳細に比較研究を遂げだる野田氏の意見は傾聽に値せずや。

編輯員

目次

一、屎尿市營處分の斷行
二、大阪市の屎尿量及其價格
三、屎尿の汚染度
四、屎尿の危險度
五、屎尿の成分及其の肥料的價値
六、屎尿廢棄處分が農業經濟に及ぼす影響
七、完全下水道の效果
八、附表竝に附圖
其一、最近十ケ年間大阪市累年人口增加率及死亡數竝死亡千分率表
其二、同累年チブス、赤痢、コレラ患者發生表
其三、同累年チブス、赤痢、コレラ罹病萬分率表
其四、同累年チブス、赤痢、コレラ死亡數表
其五、同累年チブス、赤痢、コレラ死亡千分率表
其六、同累年チブス、赤痢、コレラ患者死亡月別表
其七、參考最近五ヶ年間大阪市接續町村人口及死亡表
其八、參考同接續町村チブス、赤痢、コレラ患者及死亡表
其九、參考同接續町村チブス、赤痢、コレラ罹病萬分率及死亡千分率表

附圖

其一、全市一ケ年發生廢棄物量比較圖
其二、大阪市廢棄物が二十四時間內に發生する炭酸瓦斯量比較圖
其三、大阪市廢棄物全量より發生する炭酸瓦斯全量比較圖
其四、都市廢棄物汚染度比較圖

一、屎尿市營處分の斷行

屎尿市營處分の斷行は二ツの方面に行はる可きものなり。即ち

第一、汚物掃除法の改正

第二、屎尿を下水の一成分たらしむる決心

是なり。

第一、汚物掃除法の改正、明治卅三年內務省令第五號（改正四十三年第十三號）汚物掃除法施行規則に於て次の條項あり。

汚物掃除法施行規則第二十二條、屎尿には當分の內第五條の規定を適用せず、掃除義務者に於て之を處分すべし、但し土地の狀況に依

り地方長官に於て必用を認めたる場合には市をして處分せしむべし。

同法第一條に於ては汚物の範圍を塵芥、汚泥、及屎尿と指定したるも未だ屎尿を以て有價肥料として地主、家主の所得たらしむるを許せり、是多年の慣習亦止む可からざる所にして且當然の事なりと雖も人口稠密なる最大都會に於て此際外例たらざる可からざるは歐米大都市の實例に照し且次に述ぶる所の屎尿汚染度以下各章に述ぶる所の理由に依りて亦多言を要せざる所にして、大阪市の如き人口百五十萬を抱有し本邦内地總人口の三十六分の一を吸收せるが如き大都會に在ては屎尿を純然たる汚物として市自ら之を處分するの決心なからざる可らざるなり。

第二、屎尿を下水の一成分たらしむる決心—屎尿處分問題は農家にとりては純然たる肥料問題尙詳しく言へば單純なる一個の農業經濟問題に過ぎざれども、都會の市民にとつては重大なる生命問題にして市民と云ふ立場より見れば屎尿處分問題は肥料處分問題に非ずして自己の生命自己の保健に關する問題に外ならず、絶えず市民の生命と健康とを脅しつゝある所の屎尿は實に市民にとりては肥料として考ふるには餘りに危險なる汚物たるなり、都市屎尿の汚染度及其の危險に就ては次章に述ぶる所の如し、都市屎尿を純然たる汚物として廢棄處分を行ふは市民自己の生命と健康との爲めに寔に止む可からざる所なりとす。

凡そ人排泄物を都會より除去して都市の清淨を保持するに種々の方式あり此式を三大別する事次の如し。

一、厠圈式……住家附近に集合し、時々地上より汲去るもの

二、暗渠式……直ちに暗渠に放流し、地中より市外に運びさるもの

三、分流式……以上二者の中間に位するもの

厠圈式には其内に坑厠式樽厠式其の他の方式あり、且之等各式に就て種々なる學者の考案に依る種々なる特殊の方式あり、今より七十年前に於ては歐洲大都市に於ても屎尿は肥料として汲

去られつゝありたれども近年醫學の著しき進歩は屎尿の危險を示して一般に水便所使用の機運を促がし最初は之等の屎尿と汚水は運搬の勞をとりつゝありしも、到底其の煩に堪へずして妄りに河川に放流するの慣ひを致し、其の結果は漸次所在河川の汚度を高め、往年英國「ロンドン」「テームス」河畔に在りたる國會議事堂の如きは、窓外河水の惡臭の爲めに議事を中止したる例ありて、英國は第一に河川防汚委員會を設けて河川の防汚を講じ、終に暗渠下水道の完成を期するに至り次いで「フランス」獨乙「アメリカ」の大都市亦各々之に習ひて完全下水道工事を起工し併も一層の進歩したる跡なきに非ず、今や東京大阪の如き洋式建築の發達と共に水便所を有するもの漸次增加して所在下水に放流廢棄せらるゝ屎尿の量次第に多きを致しつゝありて、七十年前歐洲が逢着したる屎尿問題を正に解決せんとするの時代となりしなり、今世界に於ける人口百萬以上の主要文明都市に於ては屎尿が如何に取扱はれつゝありやは次の簡單なる一調査表によりて畧ぼ了解する事を得べきなり。

市名	人口	人口調査年次	屎尿處分一覽
ロンドン	四、五二一、六六五	一九二一	パザルゲットの計畫による合流式完全下水道ありて屎尿を此内に放流し石灰乳及硫酸鐵による藥物沈澄法を行ひて河川に放流す
ニューヨーク	五、三三、三九	一九一四	合流式の下水道あり屎尿を此内に放流し捷路を經て無處分河川中に放流す爲に近年河川海水の汚染甚しきを致し大下水道工事の計畫成れりと云ふ
パリー	二、八四七、三二九	一九二一	ミル及ベルグランドによりて計畫せられたる有名なる綜合式大下水道あり屎尿悉く此内に放流せられ該汚水處分は灌漑法にして市外一千五百萬坪以上の灌漑畠へ自然流又はポンプにより送達して全市の下水を肥料となしつゝあり
シカゴ	二、三九三、三五	一九一四	チエスブローウの計畫に依る合流式屎尿を含有する下水は一定の流速を有する運河中に放流せらる
東京	二、二四四、九六	一九一五	合流式の下水道あり市の一部に於ける屎尿を含む下水を無處分海河へ放流す大部分の屎尿坑厠式により今尙肥料として汲去られつゝあり
カンサーン	二、〇六、〇〇〇	一九〇九	全市の屎尿は下水中に放流せられ處分する事なく河中へ放流す
ベルリン	二、〇二、二一	一九一三	全市の屎尿は下水中に廢棄放流せられ全下水は悉くポンプを以て市外五千三百萬坪の灌漑畠へ灌漑せられ下水を肥料となす事パリーと同じ

フランクフルト	一、六七、八一〇	一九一四	大部分は合流式なれども目下分流式の下水道に變せんとしつゝあり
大阪	一、五〇八、六七	一九一六	下水は沈澱井を得て點滴濾過床より生物學的清潔法を施しつゝあり
ハムブルヒ	一、〇〇六、七四八	一九一三	市の一部の屎尿を含む下水は處分する事なく所在河中へ放流せられ大部分の屎尿は坑廁式により肥料として吸去られつゝあり
			全市の屎尿を含む下水は機械的濾過去を施したる後河川へ放流し殘澤は燒却しつゝあり

即ち東京大阪を除き世界に於ける人口百萬以上の文明都市にして屎尿を下水中に廢棄投入せざるもの一もこれあるものなし、歐米最大都市に於ては現在いづれも其屎尿を以て有價物と見る事なく全然下水に廢棄放流するするの止む可からざるに至れるを見る可きなり。

本市の如き世界的大都市が屎尿を純然たる汚物となし下水の一部分として屎尿廢棄處分を行ふは實に世界の大勢なりといふを得べく、最も進歩したる現代科學の基礎に準據すれば大都市屎尿處分問題は則ち下水處分問題に外ならざるを見るなり、大都市屎尿の廢棄處分を行はざるべからざる所以は次に述る屎尿の汚染度、屎尿の危險竝に屎尿廢棄處分が農業經濟に及ぼす影響等一二調査成績に就て見れば自ら明かなる所にして、市民は自己の生命自己の健康の爲めに屎尿廢棄處分に關して考慮と計畫を進めざるべからざるなり。

二、大阪市の屎尿量及其價格

人屎尿排泄量、本邦人の屎尿量に就ては未だ確然たる標準量の據る可きものなし、即ち隈川東京醫科大學教授の意見に從ひ横手同教授の計算を基礎として是まで本邦に於てなされたる森隈川、天谷、相澤、稻葉、谷口、大澤、舟岡其他調査成績の平均を算出し本計算に於ては之を以て本邦都會人大人一日間の屎尿量と見做したり。

米飯混食者米飯蔬食者平均大人一人の一日間排泄屎量　一三二、四五グラム

中等勞働者屎量　一三九五、〇立方センチ

而して性別老幼別に依る屎尿量の相違はウオルフ、レーマンに據れば次の如し。

性別老幼別による一日屎尿量百分率

	男	女	童兒	女兒
尿量	一〇〇	一三〇	七三	一七
尿量	一〇〇	九〇	三八	二〇

之によりて本市に於ける大正三年、四年、五年の三ヶ年間現在人口排泄尿尿量を算出するに次の如し。

大阪市一日間發生尿尿總量表

	男			女			兒童（十五年以下）		
	人員	一日尿量	一日尿量	人員	一日尿量	一日尿量	人員	一日尿量	一日尿量
三年	六〇八、一八〇人	八〇、五五三 吉瓦	八四八、四一一 リーデル	四七八、一二五人	一八、九九八 吉瓦	六〇〇、二七一 リーデル	一七七、一三六人	一七、一三七 吉瓦	九三、九〇〇 リーデル
四年	六三四、四三三	八四、〇三九	八八五、〇三〇	四九三、四四三	一九、六〇七	六二、九、五二六	一七一、七九	一六、六〇九	九一、〇六〇
五年	六五五、八九三	八六、八七三	九一四、九七二	五一一、八二〇	二〇、一三七	六四二、五九〇	一七五、七九九	一六、九九四	九三、一七〇
平均	六三三、八三三	—	—	四九四、四五九	—	—	一七四、八九一	—	—

	女兒（十五年以下）			以上總合計		
	人員	一日尿量	一日尿量	人員	一日尿量	一日尿量
三年	一六一、一六五人	三、六二九 吉瓦	六七、四四八 リーデル	一、四三四、五九六人	二一〇、三〇七 吉瓦	一、六一〇、〇三二 リーデル
四年	一六〇、五二四	三、六二六	六七、二〇〇	一、四六〇、二二八	二一三、八六一	一、六四二、七九七
五年	一六五、二〇五	三、七二〇	六九、一三八	一、五〇八、六七七	二二七、八二四	一、七九、八六九
平均	一六二、三二五	—	—	一、四六四、四九七	二二三、九九七	一、六四、二三二

即ち大阪市に於ける三ヶ年平均に見るに一日排泄尿尿量千六百二十四佛噸を容積に換算すれば百十六立方米餘にして、本邦量六百四十四石餘に當り、又尿量千六百六十四立方米を本邦量に換算すれば九千二百二十六石に當れり、即ち大阪市一日間發生尿尿量合計は本邦量九千八百七十石にして實際には一日約一萬石と計算して可なるものとす、之によりて本市一ヶ年間尿尿總量を見るに次の如し。

百排泄尿尿量百二十四佛噸一日排泄尿量千六百六十四立方米なり、此内尿量百二十四佛噸を容

大阪市一ヶ年間發生屎尿總量表

	屎量		尿量		屎尿總合計	
	重量（佛噸）	容積（立方米）	重量（佛噸）	容積（立方米）	重量（佛噸）	容積（立方米）
三年	四三、九一三	四一、一五五	六〇三、五二九	五八七六、六二五	六四七、四四二	六二八、八一七
四年	四五、二〇九	四三、三七〇	六三一、三〇八	六〇六、九二一	六七六、五一七	六四九、二九二
五年	四六、六五九	四三、七一七	六四四、七一三	六二七、七五三	六九一、三七八	六七一、四七九
三ヶ年間平均	四五、二五九	四三、四一七	六三一、八四六	六〇七、四四五	六七六、一〇五	六四九、八二二
三年間平均量ノ本邦換算	—	二三五、一四〇石	—	二三六七、〇六七石	—	三六〇三、二〇七石

之に依て見れば大阪市一ヶ年屎尿量は三ヶ年の平均三百六十萬石餘なるを知る可し、之等の總計の結果よりして市民の屎尿量に關する種々なる單位を計出し得例へば市民十萬人一年間の屎尿量單位市民一人一年間屎尿量單位又は市民一人一日の屎尿量單位等次に述る所の如し。

都市屎尿量單位表

	市民十萬人ニ付一ヶ年			市民平均一人一年間			市民平均一人一日間		
	重量（佛噸）	容積（石）		重量	容積		重量	容積	
屎量	三、〇九〇	一六、〇五九	吉瓦	三〇、九〇〇	八、二四〇	瓩	八五、〇	三一、七	汲
尿量	四二、五九八	二三九、〇九三		四二五、九七九	二八、九五九	リーテル	一、一六七、〇	三一、三	立方センチ七九
屎尿合計	四五、六八八	二四五、一四九		四五六、八七九	二、四五九		一、二五二、〇	三三、九	一、二六
									合
									〇、四三八
									六、三〇三

之に依て見れば都市屎尿量單位市民十萬人には平均一年二十五萬石、一人一年二石五斗、一人一日六合七四一と見るを得べし。今參考の爲に之等の結果を歐洲に於ける一二屎尿の量の計算に比較すれば次の如し。

市民十萬人一ケ年尿尿量効位比較表

（其の一）

調査者	野田	ウオルフアーレーマン	ペンドロート	バルツオアーアーレック	ヘムニッツ市報告（一八九〇）
尿尿量（佛噸）	四五、六八八	四六、二三六	三三、三四	二六、五〇〇	四〇、一五〇	三二、四五

市民平均一人一年尿尿量比較表

（其の二）

調査者	野田	ペッテンコーフエル
尿量	三一、〇 吉瓦	三四、〇 吉瓦
尿量	四二六、〇 貫 八	四〇〇、〇 貫 九
尿尿合計	四五七、〇	四三四、〇	一〇七 一二六

市民平均一人一日尿尿量比較表

（其の三）

調査者	野田	ペッテンコーフエル	フラレクランド	バークス
尿量（瓦）	八五、〇	九〇、〇	九〇、〇	七五、〇
尿量（瓦、）	一二六七、〇	一二七〇、〇	一二〇〇、〇	一二〇〇、〇
尿尿合計	一三五二、〇	一三六〇、〇	一二九〇、〇	一二七五、〇

右の内平均一人一年の尿尿量は重量に於て「百二十二貫」容積に於て「二石五斗」なり、之を從來本邦に於ける調査成績の一二に比すれば次の如し。

本邦一人一年尿尿量單位比較表

	山下		森		野田	
	重量（貫）	容積（石）	重量（貫）	容積（石）	重量（貫）	容積（石）
一人一年平均尿尿量	一二二	二、六七	九〇	一、八	一、二三	二、四六

凡そ本邦内地人口の年齢別を見るに十五歳未満のもの明治三十六年末三二、四八%明治四十一年末三四、二二%大正二年末三四、九四%（衛生局年報）にして大人二人に對し童女一人の割合なれども、大都市に於ける人口の年齢別は少しく之と趣を異にし本市に於ては大正三、四、五年の平均によれば十五年以下の童兒、女兒、總數は現住人口の二三、二%にして、略ぼ大人三人に對し童女一人の割合に當り兒童の數少なきを以て特徴とするが故に、尿尿量より見れば郡市に於ける平均一人一年尿尿量は本邦全國の平均數と多少の差あるべきは當然なる可く、先づ都市に於ては平均一人一年尿尿量二石五斗と見るを以て適當とすべし。

以上は凡て排泄量に關する計算にして若し尿

尿を貯藏する場合日々蒸發竝に分解に依て失はるゝ尿尿損失量は次の如し。

貯藏尿尿損失量測定竝に水の蒸發量測定表

		重量（瓦）ノ測定	廿四時後ノ減量	三日間後ノ減量	四日目ノ減量	五日目ノ減量	六日目ノ減量	七日目ノ減量	七日間ノ累計減量	平均一日間減量	平均一日間原量ニ對スル百分率	單位面積（一平方センチ）ニ於ケル平均一日間減量
室温十五度	尿	二九、六〇三〇	〇、一四三〇	〇、五七一〇	〇、二二〇〇	〇、一六一〇	〇、〇八五〇	〇、一三〇〇	一、一五〇〇	〇、一二四六	〇、一七九	〇、〇〇六八 瓦
	水	二九、三三三〇	一、〇九〇〇	三、九四〇〇	一、七九〇〇	一、三四〇〇	一、〇九〇〇	一、〇五三〇	一四、五三八〇	一、四三九九	二、〇九九	〇、〇六八八
廿二度	尿	二九、七三〇〇	〇、一四三〇	〇、五七一〇	〇、二二〇〇	〇、一六一〇	〇、〇八五〇	〇、一三〇〇	一、一五〇〇	〇、一二四六	〇、一七九	〇、〇〇六八 瓦
	水	九九、〇九二〇	一、〇九〇〇	三、九四〇〇	一、七九〇〇	一、三四〇〇	一、〇九〇〇	一、〇五三〇	一四、五三八〇	一、四三九九	二、〇九九	〇、〇六八八
廿七度	尿	二九、八六四〇	〇、一四三〇	〇、五七一〇	〇、二二〇〇	〇、一六一〇	〇、〇八五〇	〇、一三〇〇	一、一五〇〇	〇、一二四六	〇、一七九	〇、〇〇六八 瓦
	水	二九、三三三〇	一、〇九〇〇	三、九四〇〇	一、七九〇〇	一、三四〇〇	一、〇九〇〇	一、〇五三〇	一四、五三八〇	一、四三九九	二、〇九九	〇、〇六八八
廿四時後ノ減量	尿	一、四三〇	〇、五七一〇	〇、二二〇〇	〇、一六一〇	〇、〇八五〇	〇、一三〇〇	一、一五〇〇	〇、一二四六	〇、一七九	〇、〇〇六八 瓦	
	水	一、〇九〇〇	三、九四〇〇	一、七九〇〇	一、三四〇〇	一、〇九〇〇	一、〇五三〇	一四、五三八〇	一、四三九九	二、〇九九	〇、〇六八八	
三日間後ノ減量	尿	〇、五七一〇	〇、二二〇〇	〇、一六一〇	〇、〇八五〇	〇、一三〇〇	一、一五〇〇	〇、一二四六	〇、一七九	〇、〇〇六八 瓦		
	水	五、四四〇〇	一、七九〇〇	一、三四〇〇	一、〇九〇〇	一、〇五三〇	一四、五三八〇	一、四三九九	二、〇九九	〇、〇六八八		
四日目ノ減量	尿	〇、二二〇〇	〇、一六一〇	〇、〇八五〇	〇、一三〇〇	一、一五〇〇	〇、一二四六	〇、一七九	〇、〇〇六八 瓦			
	水	一、七九〇〇	一、三四〇〇	一、〇九〇〇	一、〇五三〇	一四、五三八〇	一、四三九九	二、〇九九	〇、〇六八八			
五日目ノ減量	尿	〇、一六一〇	〇、〇八五〇	〇、一三〇〇	一、一五〇〇	〇、一二四六	〇、一七九	〇、〇〇六八 瓦				
	水	一、三四〇〇	一、〇九〇〇	一、〇五三〇	一四、五三八〇	一、四三九九	二、〇九九	〇、〇六八八				
六日目ノ減量	尿	〇、〇八五〇	〇、一三〇〇	一、一五〇〇	〇、一二四六	〇、一七九	〇、〇〇六八 瓦					
	水	一、〇九〇〇	一、〇五三〇	一四、五三八〇	一、四三九九	二、〇九九	〇、〇六八八					
七日目ノ減量	尿	〇、一三〇〇	一、一五〇〇	〇、一二四六	〇、一七九	〇、〇〇六八 瓦						
	水	一、〇五三〇	一四、五三八〇	一、四三九九	二、〇九九	〇、〇六八八						
七日間ノ累計減量	尿	一、一五〇〇	〇、一二四六	〇、一七九	〇、〇〇六八 瓦							
	水	一四、五三八〇	一、四三九九	二、〇九九	〇、〇六八八							
平均一日間減量	尿	〇、一二四六	〇、一七九	〇、〇〇六八 瓦								
	水	一、四三九九	二、〇九九	〇、〇六八八								
平均一日單位面積（一平方センチ）ニ於ケル平均一日間減量	尿	〇、〇〇六八 瓦	〇、〇〇六八 瓦	〇、〇〇六八 瓦								
	水	〇、〇六八八	〇、〇六八八	〇、〇六八八								
平均一日間原量ニ對スル百分率	尿	〇、一七九	〇、一四九	〇、一四八								
	水	二、〇九九	二、〇四九	二、〇四八								
平均一日間減量	尿	〇、一二四六	〇、一七九	〇、〇〇六八 瓦								
	水	一、四三九九	二、〇九九	〇、〇六八八								
廿七日間ノ累計減量	尿	一、一五〇〇	〇、一二四六	〇、一七九	〇、〇〇六八 瓦							
	水	一四、五三八〇	一、四三九九	二、〇九九	〇、〇六八八							
七日目ノ減量	尿	〇、一三〇〇	一、一五〇〇	〇、一二四六	〇、一七九	〇、〇〇六八 瓦						
	水	一、〇五三〇	一四、五三八〇	一、四三九九	二、〇九九	〇、〇六八八						
六日目ノ減量	尿	〇、〇八五〇	〇、一三〇〇	一、一五〇〇	〇、一二四六	〇、一七九	〇、〇〇六八 瓦					
	水	一、〇九〇〇	一、〇五三〇	一四、五三八〇	一、四三九九	二、〇九九	〇、〇六八八					
五日目ノ減量	尿	〇、一六一〇	〇、〇八五〇	〇、一三〇〇	一、一五〇〇	〇、一二四六	〇、一七九	〇、〇〇六八 瓦				
	水	一、三四〇〇	一、〇九〇〇	一、〇五三〇	一四、五三八〇	一、四三九九	二、〇九九	〇、〇六八八				
四日目ノ減量	尿	〇、二二〇〇	〇、一六一〇	〇、〇八五〇	〇、一三〇〇	一、一五〇〇	〇、一二四六	〇、一七九	〇、〇〇六八 瓦			
	水	一、七九〇〇	一、三四〇〇	一、〇九〇〇	一、〇五三〇	一四、五三八〇	一、四三九九	二、〇九九	〇、〇六八八			
三日間後ノ減量	尿	〇、五七一〇	〇、二二〇〇	〇、一六一〇	〇、〇八五〇	〇、一三〇〇	一、一五〇〇	〇、一二四六	〇、一七九	〇、〇〇六八 瓦		
	水	五、四四〇〇	一、七九〇〇	一、三四〇〇	一、〇九〇〇	一、〇五三〇	一四、五三八〇	一、四三九九	二、〇九九	〇、〇六八八		
廿四時後ノ減量	尿	一、四三〇	〇、五七一〇	〇、二二〇〇	〇、一六一〇	〇、〇八五〇	〇、一三〇〇	一、一五〇〇	〇、一二四六	〇、一七九	〇、〇〇六八 瓦	
	水	一、〇九〇〇	三、九四〇〇	一、七九〇〇	一、三四〇〇	一、〇九〇〇	一、〇五三〇	一四、五三八〇	一、四三九九	二、〇九九	〇、〇六八八	
廿七度	尿	二九、八六四〇	一、四三〇	〇、五七一〇	〇、二二〇〇	〇、一六一〇	〇、〇八五〇	〇、一三〇〇	一、一五〇〇	〇、一二四六	〇、一七九	〇、〇〇六八 瓦
	水	二九、三三三〇	一、〇九〇〇	三、九四〇〇	一、七九〇〇	一、三四〇〇	一、〇九〇〇	一、〇五三〇	一四、五三八〇	一、四三九九	二、〇九九	〇、〇六八八
廿二度	尿	二九、七三〇〇	一、四三〇	〇、五七一〇	〇、二二〇〇	〇、一六一〇	〇、〇八五〇	〇、一三〇〇	一、一五〇〇	〇、一二四六	〇、一七九	〇、〇〇六八 瓦
	水	九九、〇九二〇	一、〇九〇〇	三、九四〇〇	一、七九〇〇	一、三四〇〇	一、〇九〇〇	一、〇五三〇	一四、五三八〇	一、四三九九	二、〇九九	〇、〇六八八
十五度	尿	二九、六〇三〇	一、四三〇	〇、五七一〇	〇、二二〇〇	〇、一六一〇	〇、〇八五〇	〇、一三〇〇	一、一五〇〇	〇、一二四六	〇、一七九	〇、〇〇六八 瓦
	水	二九、三三三〇	一、〇九〇〇	三、九四〇〇	一、七九〇〇	一、三四〇〇	一、〇九〇〇	一、〇五三〇	一四、五三八〇	一、四三九九	二、〇九九	〇、〇六八八

之に依て見れば蒸發竝に分解に依て失はるゝ尿尿損失量は溫度に依りて大差あり、溫度高き程其減量極めて著明なり、本市の明治十六年より大正五年に至る三十四ケ年間の平均累年氣溫は一四、九三度（大阪測候所による）なるを以て恰も其十五度に於る尿尿損失量を以て標準とすれば前表示す如く尿尿平均一日間の損失量は二、〇四%なり、若し尿尿汲取が毎十日目に行はるゝものと假定する時は、汲取より汲取に至る十日間の平均損失量は二〇、四〇%に達するを以て尿尿を肥料として論する場合には尿尿排泄量より約二割を減ずるを以て實際の事情に近きものといふを得べし、例令ば本市一ケ年尿尿排泄量三百六十萬石を若し肥料として取扱ふ場合には其二割七十二萬石餘を避くべからざる損失量となし、一ケ年全市肥料量二百八十八萬石餘といふを以て適切なりといはざるべからず。

三、尿尿の汚染度

松下竝にズックスドルフによれば人体より排泄せらるゝ新鮮尿一ミリ瓦中に含有せらるゝ細

菌數次の如し。

新鮮尿一ミリ瓦中の細菌數表

	松下（室温培養）		松下（血温培養）		ズックスドルフ
	好氣菌數	嫌氣菌數	好氣菌數	嫌氣菌數	
平均	六五二、九八八個	八九三、〇七一個	七七五、五二四個	二、三三〇、四四〇個	三八一、〇〇〇個
最小	三八、二六八	二七、三三三	一〇、二九〇	一六六、二五〇	三五、〇〇〇
最大	三、八六九、一九〇	二、八四四、〇一〇	七四六〇、七五〇	一六、二一七、九二〇	二、三〇〇、〇〇〇

如上は新鮮尿に關する調査成績にして都市公共便所の如き糞池に在ては、其糞池成分たるや、唯の尿尿に止らず、尿尿に加ふるに血液あり咯痰あり紙片あり塵芥あり、又各種の生殖腺分泌液竝に之等器管よりする有形成分あり、凡そ腐敗菌にとつて糞池ほど滋養に富みたる汚物はあらざるなり、糞池内の汚染度到底新鮮尿の比に非ざるや論なきなり、本市公共便所の内梅田停車場、京阪電車停車場、奈良行電車停車場、箕面電車停車場、阪堺電車停車場、阪神梅田停車場、道頓堀公共便所、新世界公共便所、天王寺公園公共便所、四ツ橋公共便所、大阪商船客待合所、信濃橋交叉點、中の島公園、玉造終點、天滿橋北詰公共便所、湊町停車場其他の糞池に就き其の尿尿中に於ける腐敗菌數を檢するに其の結果左の如し。

公共便所糞池内尿尿汚染度一覽表

	大正六年六月（十一月七月（二十三ケ所）尿尿一ミリ瓦中ノ細菌數	以上三十五ケ所平均尿尿一ミリ中ノ細菌數
平均	九四九、四四五個	七七、六四一、九二七個
最小	二三五、五〇〇	二三五、五〇〇
最大	二、一七七、一〇〇	八八四、三七五、〇〇〇

三十五ケ所の檢査中尿尿一ミリ瓦の内に一億個以上の細菌を有するもの八ケ所あり、尿尿一ミリ瓦中の細菌總數平均七千七百萬餘個最も少なきものと雖も尚十三萬五千個を藏す。

公共便所糞池成分の汚染眞に驚く可く之を松下ズックスドルフの調査成績に比して平均に於て實に百倍乃至二百倍に達する汚染を見るなり

四、尿尿の危險度

市民の生命と健康に及ぼす尿尿の危險度一々擧ぐるの煩に堪へず。其の主なるもの次の如し。

第一　尿尿より有害瓦斯の分解發生

第二　消化器性傳染病原菌の保有
第三　傳染病を媒介する蠅類との關係
第四　土地竝に地底水の汚化
第五　寄生蟲病との關係

之等の危害の内一二の實例を示せば次の如し

第一、屎尿より有害瓦斯の分解發生（空氣の汚染）

屎尿は九五%の水を含み〇、七%内外の窒素を有し、且腐敗菌の多數を藏し、腐敗菌の作用に依り絶えず有害瓦斯を分解發生し空氣を汚染するものにして「エリスマン」によれば屎一尿三の混合物一立方米より適當の溫度適度の換氣に於て廿四時間内に發生する有害瓦斯の量次の如し

都市廢棄物より二十四時間内に發生する炭酸瓦斯量比較表

	一リーテル（五合五勺）餘より廿四時間内に發生する平均炭酸瓦斯量（六月）	同上（七月）	以上二回の平均	平均量の本邦換算	河水より廿四時間に發生する炭酸瓦斯を一としたる比較的發生量	摘要
屎尿	二、八三リーテル	六、六一九リーテル	四、七五五リーテル	二六二升	九三倍	大阪市内三十五ケ所の公共便所汲池より得たるもの
塵芥	—	〇、九三五	〇、九三五	五二	一八六倍	同塵芥蒐集場二ケ所の塵芥渣
河水	〇、〇〇三	〇、〇〇九	〇、〇〇六	〇三	一倍	市内三十四ケ所の河水
下水	〇、〇一九	〇、〇五六	〇、〇三七	二〇	七三倍	同二十一ケ所の抽水所竝に下水溝下水

屎尿より發生する炭酸瓦斯は七月は六月の二倍半量にして、之を河水の發生炭酸量に比すれば河水よりも多き事六月は其千四百十五倍、七月は其七百三十四倍、平均量に於て河水より

炭酸	三一七リーテル
アムモニア	一四八リーテル
硫化水素	〇、九リーテル
沼氣	五九〇、リーテル
合計	一〇五五、九リーテル

且之等の有害瓦斯生機轉の爲めに、周圍の空氣は二十四時間内に

酸素　五三八リーテル

を失ひて、二重に空氣を汚化すといへり。

大正六年六月及七月市内三十五ケの公共便所より得たる屎尿に就いて塵芥河水と下水と水同時に凡べて同一條件の下に各々同一の分量より發生する炭酸瓦斯量を比較したるに次の如し

も九百二十二倍多し、又更に六七月二回の平均數より見れば屎尿は二十四時間内に平均其容量の四、七倍餘に當る炭酸瓦斯を發生し、塵芥は其容量と殆んど同量に當る炭酸瓦斯を發生し河水は其容量の二百分の一に當る炭酸瓦斯を發生し、又下水は其容量より二十七分の一容に當る炭酸瓦斯を發生し、其發生量は河水最も少なく屎尿最も多し、若し河水より發生する炭酸瓦斯を一として比較すれば、下水は河水の七、三倍塵芥は其一八倍屎尿は實に九百二十二倍に當り、大阪全市一日屎尿量一萬石よりしてよく四萬七千石の炭酸瓦斯を發生して空氣を汚染す、郡市汚物中に於ても屎尿が嶄然一頭地を抽いて有害物たるの性狀を見る可きなり。

屎尿より分解せられて發生する有害瓦斯は獨り炭酸瓦斯に止らずして尚「アムモニア」硫化水素「メタン」其他の揮發性脂肪酸の類を發生し且不快なる惡臭を有し、如斯にして汚染せられたる空氣は或は直接瓦斯中毒の危險に陷らしめ、或は間接に食慾減退若くは嘔吐を來さしめ、且つ知らず〳〵呼吸の淺薄となる事によりて自ら肺結核の誘因となり得る事あり、實に屎尿に依る空氣の汚染竝に其一般健康に及ぼす惡影響堪ふべらざるなり。

コレラ菌排泄日數表

コレラ菌永久排者

報告者	コルレタンダトニ	ツアホロビュルゲルス	モンテフスコ	北島	スチユウレル	チンドレル	レンツ	クレツシヤ
コレラ菌排泄日數	四九	五八	五七	六九	七八	七九	九〇	九〇以後 二三〇	一年—一年半

第二、傳染病源との關係

「チブス」「パラチブス」赤痢、「コレラ」の如き消化器系傳染病の流行は屎尿實に其の泉源たり、之等各種病原菌の內一例として「コレラ」菌の屎中に於ける生存期限竝に患者恢復後の排泄日數等一二の報告を示せば次表の如し。

報告者	本所病院（大正元年）			北島（元年）			酒井（五年）			野田、野村、原田、（五年）		
	平均	最長	最短	平均	最長		平均	最長	最短	平均	最長	最短
實際	—	八	一	三	一四		—	二一	一	一四	一	
推定	二	三	三	一三			推定	二九		推定 九	一九	三

之に依て見れば「コレラ」患者は九十日間糞便中に「コレラ」菌を排泄するものあり、永久菌排泄者に在ては、一年半に達するものあり、又「コレラ」保菌者に在ては四十一日間菌を排泄するものあり、殊に患者は看過せらるゝ事なしと雖、流行期に於ける「コレラ」保菌者は非常なるを注意を要すべく、且排便中に於ける「コレラ」菌も亦体外に出でる直ちに死滅するものに非すして、一定期間腐敗菌的性狀を以て屢々生存増殖をなしうるものにして、此事は一昨年本市「コレラ」流行に於ける次の實驗に依て確實なり。

大正五年本市「コレラ」流行の際五〇九八名の市隔離所收容者中より發見したる「コレラ」保菌者は一〇一名にして現住人口に對し〇、〇〇七%「コレラ」患者總數に對し九、三六%隔離總員に對し一、九八%に當れり即ち「コレラ」保菌者は人口十萬に付七名「コレラ」患者十對し一名隔離者五十名中に一名を發見したる割合にして、流行病學上重視すべきものなるが、是等保菌者の内九十名二百五十二個の糞便内に於て「コレラ」菌の生存日數調査成績次の如し。

保菌者數	糞便内			糞池内			尿内		
便中コレラ菌生存日數	平均	最長	最短	平均	最長	最短	平均	最長	最短
	二日間	七日間	一日間	二日間	九日間	一日間	二日間	一〇日間	一日間

「チブス」「パラチブス」赤痢、「コレラ」の豫防に對し病源保有の屎尿處置が是等の報告に依りて如何に重要なるかは明瞭なり。

第三、屎尿と傳染病を媒介する蠅類との關係

糞便はそれ自身各種病源菌の保有者たるのみならず、又傳染病を媒介する處の蠅類にとりて絶好無二の好下物にして、且好產所たり小林によれば人糞便中より發生する蠅の種類次の如し

人糞便中より發生する蠅一覽表

蠅の種類	いへばへ	(ひめいへばへ變種 ファウニア、スカラーリス)	おほいへばへ	にくばへ	くろばへ	しやうじやうばへ
一回產卵個數	百—百五十個	四十個	百—百六十個	胎生	三百 四百個	
發育期間	七—八日間	二十五日乃至一ヶ月間	十七八日間	發育期 十七—十九日間	二十日間	十日間

其他人糞便中より發生する事なくして、而も好んで人糞に集り之を嘗め喰ふ種類あり、之等の蠅は糞便内の「コレラ」菌「チブス」、「菌バラチブス」菌、赤痢菌、結核菌其他の傳染病源菌は傳播するものなるが、其傳播方法は(一)病源菌が糞便と共に体外面より傳播せらるゝ事あり(二)蠅の消化器管内に入りて然る後蠅糞便中に排泄せらるゝ事あり(三)蛆期より既に体中に攝取し蠅となりて後排泄せらるゝ事あり、たとへば蠅肢の「コレラ」菌は藤井によれば三百回以上止りたる先きへに「コレラ」菌を殘すといへり若し今極めて少量の「コレラ」菌が糞便と共に食物面上に持ち來されたる場合「コレラ」菌の運命は奈何二三飲食物に於ける調査成績を示せば次表の如くして蠅と糞便蠅と傳染病との關係それ如斯く屎尿の危險たるや知る可きなり。

飲食物の上に於ける保菌者糞便内の「コレラ」菌生存日數表

食品種類	味噌汁	吸物	澤庵斷面	パタ	食パン斷面	ウマニ芋	廣島菜	海老天ぷら	蛤佃煮
飲食物上に於けるコレラ菌生在日數	三十時間	五十五時間	二時間	五十五時間	三十時間	三十時間	三十時間	七日間	二時間

食品種類	饅頭燒	玉子燒	米飯	煮魚	鰹浸し物	奴豆湯	番茶	飲料水
飲食物上に於けるコレラ菌生在日數	六日間	五日間	五日間	三十時間	六時間	五十五時間	十日間	十一日間

（未完）



紐育のウールウオース・ビルヂングと高等法院

會員　中榮徹郎

ウールウオース・ビルヂング　と紐育高等法院は、紐育市商業區に於ける注目に値すべき二大建築である。ウールウオース・ビルヂングは千九百十三年四月に竣工したのであるが、高等法院は同年同月、設計の懸賞募集を終り、工事に着手の準備中、交戰狀態となつた爲め今は中止して居る。

紐育市マンハツタンの地はハドソン河とイースト河との間に在る細長き土地であつて、最近同市の急激な發展に依り、土地の關係上己むを得ず高層建築を無暗に建設した爲に、今や高層建築は紐育の名物となつて居る。而して事務の激烈なる土地柄とて寸尺の空地をも利用して、他を顧みざる有樣であるから、殆んど競爭的に高層の事務所建築が續々出來上つたのであるが近來に至つて漸く市街の風致と密集生活の不便を感じ初めたのは事實である。其證據にはボストン市やヒラデルヒヤ市等にては、高層建築を造らざる事を以て、自慢とする樣になつた。『紐育市の高層建築を見て、如何に感ぜらるゝや』とは、彼の地に於て必ず尋ねらるゝ質問である程に、今日は高層建築は都市の美觀より見て、感心出來ないものとなつて來たのである。此の際に偉大なるゴシックの尖塔高くマンハツタンの空に聳え立つ新建築ウールウオース・ビルヂングは計畫されたのである。

然るに全く特種の着想の基に、圓形の平面に依つて更に新らしく計畫されたのが高等法院である。近來米國の公共建築は、大抵古代建築の簡單にして、壯嚴なる特徴を其儘利用して建設しつゝある際、古羅馬のコロヂユムの偉觀に着想して計畫されたのが高等法院である。畢竟此種の建築に對する趣味變遷の新傾向として両者の對照が、誠に面白いので挿繪に掲げたのであるが、序に両建築の概要を述べて見たい。

世界最高の建築として既に有名なるウールウオース・ビルヂングは五十五階、高さ七百九十二呎敷地廣域百五十呎に百九十七呎、工費實に千三百萬弗、內敷地買收費四百五十萬弗、地形費百萬弗、建物費八百萬弗と注せられてゐる。設計者はカッス、ギルベルト氏である。そして此の宏壯なる事務所建築に日々出入の人員は、約壹萬人を算するといへば一小都市の人口に比敵するのである。

塔のイルミネーションにはナイトロヂン電燈の反射鏡裝置に係かる投光照明法に依り、其光力は二千萬燭光と稱へられて居る。第二地下室に動力裝置を設けてあるが、全建物の採光、換氣、昇降器等に使用して居る動力全体が一千五百キロワット餘といふのであるから、人口五萬の都市に必要なる市街電鐵、及び點燈の原動力に使用し得られる割合である。換氣用として十六箇の大モートルを用ひ空氣は五階以上の上層から吸收し、完全なる洗滌裝置を設けてあるのである。夏期は冷却器を通過せしめ、冬期は熱管を通過せしめて遺憾なからしめてゐる。

此建物の地形は歩道面以下百十呎平均グーゾン六十九箇に依つて岩盤に達して居る。此岩盤の上に受ける總重量は毎平方呎約二十五噸である。そしてケーゾン以上の建物の總重量は約廿三萬三千噸と稱へられてゐる。風壓に對しては二百哩の颶風に安全に抵抗し得る構造としてある。此の宏大なる建物の所有者ウールウオース氏は米國の如き物價騰貴の甚しき土地に於て、十錢店を初め遂に成功したる富豪である。同氏は千八百七十九年に一箇の商店を所有し初め現今は合衆國の各地方に於て八百七十箇所のストアを所有して居るのである。依つて此の建物の

事をテンセント・ビルヂングと稱して居る。

此建物の最も便利なる二階全部をアービング銀行が借用して居るが、聞く所によるとウールウォース氏は元アービング銀行の行員であつた關係上最良階を貸與したのだといふ事である。臺灣銀行の出張所が第三階の一部を使用して居つたが、此頃擴張の必要に迫られ支店とするに及んで他に移轉した。

紐育高等法院は市廳舍の北方レオナルド街とヒーヤル街との間にある六角形の敷地に建築されるべき、圓形建物である。此の建物建設の後は周圍に巾百四十呎の圓形街路を造り、更に巾百二十五呎の並木街道に依つてマンハッタン橋に接續せしむる計畫である。圓形平面の徑七百呎、建物高さ二百呎に達す。四箇の主なる入口は巾四十三呎あつて、同じく十三呎の入口と共に、徑百五十呎の中央廣間に通ずる樣になつて居る。中央廣間から昇降器は上階と交通する設備であり、昇降器と法庭との間に巾十六呎の環狀中庭がある。各階には十六箇の法庭を有し、天井高さは二階を打通しになつて居る。

建築費の豫定は敷地買收費七百五十六萬八千五百弗、建物工費は千七百萬弗至乃二千五百萬弗に上つてゐる。設計者はゲイ、ローウイル氏である。設計は懸賞にて募集し第一回に於て十名の當選者を選定し、更に十三名の知名の建築士を指名して、最後の懸賞に應募せしめたのである。當選者には一萬弗の賞金を與へ、當選者以外のものは第二回設計者に各壹千弗を贈られたのである。

當選建築士は工事施工の任に當り、且つ工費の百分の六に當る金額を報酬として請取らしむる事になつてゐる。

米國の建築平面は簡單を主とし、成るべく敷地を利用する目的の爲めに、自然の採光や換氣には餘り重きを置かぬ傾がある。暗い所は晝間でも電燈を點じ、通風は人工換氣法に依る方針である爲めに平面としては概して巧妙とは申されぬが普通である。此の建築のみは一異彩を放つた圓形である爲めに、平面としては頗る巧妙なる計畫といはねばなるまい。(終り)

附記　次の二文はウールウオースビルヂングに關する注文者並びに主任技師家の抱負を知る上に便宜であつたから特に抄譯して讀者の參考に提供した。

▲ウールウオース氏の述懐▼

中世紀の畏敬すべき教會堂を建立した多くの建築家は崇高な公共的精神を表現せしむるに努力して居る、彼等は彼等の利益に一致し美に對する一般の愛によつて結合し彼等は其當時の高雅な思想と憧憬を無爲の石塊に注入するに融合して働いてゐる。

今日の時勢では此種の効果を奏する協力融合は至難である樣に思はれる。吾々の時代の商業主義は或一群の人々の前途に問題を提供して居ると謂はれてゐる、其人々は彼等の共同の勞力によつて美しい目的の効果を得る爲めに全力を盡して居るのである。此の証據のためにウールウオース館の建立に力を注いだ受負者及職人の驚くべき努力を紹介するのは適當でないかもしれないが忘るべからざるものである。

土の一塊を掘取つた起工式の其日から、高塔の最上の尖端を仕上ぐる迄に幾百の人々は主任技師から日傭職工迄殆ど能く馴練された精鋭の軍隊を見る樣によく調和しよく協力して働いて呉れた、計畫を司る人、實施に當る人、頭で働く人、手を勞する人此等は凡べて主任技術家の俱体的の圖面によつて劃策し研究協力して呉れた。

乍然此等經驗ある建築家や技手やそれから現場監督に至る迄も感謝して居たのは各部を命ぜらるゝ儘に擔當せる各受負者の忠實なる行動であつた。各部受負者は其分擔の仕事をよく了解し、そして各自の責任を實現するに努力して呉れた、尙又受負者相互にも連絡を執り全体が一つの有機体の樣に働いてくれ此世界的大建築の完成に努力し甚しき間違も失策もなく働いて呉れたのである。

勿論斯くの如き天晴の準備は全く此の偉大なる事業を成就する事が出來だ程善く組織されたる有機体であつだ。而してウールウオース館の工事には受負者の選擇について最も忠實に實行されて居るのである、彼等は此建築界に於ける最眞のものであつた彼等の主張する最眞の材料であり仕事に於ても最眞の熟達に成りたるもののみならず、彼等の背後には最も完備され最も有效な能率を得らるゝ組織が出來上つて居つたといふ事が一番大切な事柄であつた。

個人として私はウールウオース館の完成に從事した受負者や職工を信頼する、だから彼等の分擔せる工事については其仕事の分量の大さ丈でなく、其要求された條件を完全に仕上げた事を誇る權利がある、乍然工事や材料の性質や其速度と手配とに於て各受負者が凡ての條件を充實したのは主任技師者の正しい光榮ある手腕に依つたものであると信じてゐる。

フランク　タプリユー
ウールウオース

一千九百十三年

▲カッス・ギルベルト氏の祝詞▼

今日の建築物は恐らく前世紀に存在しなかつた程の完全な組織を保つてゐる。各種の材料は世界の各方面から收集することか出來る時代である。例へば鐵、銅、鉛、錫、亞鉛、白銅、銀及金等の如きものである。石材を數百哩の遠方の採掘場から運搬するし、大理石は北伊太利のアルプス南麓からもベルモンの雪の山からも或は又希臘群島の暖かい島々から採掘されてゐるから困

る事はない、南米のアスファルトや吾國の森林からはピッチもタールも得られるし、外國産の各種セメントに加へて内地産の多額な製品や、油は遠く支那方面から、オ！クは英國から、マホガニーはカリビアン海の島々から、ウオールナットはサーカシアン山脈から、グラスはオハイオ地方やポヘミヤ並びにペニスの各工場から、要するに殆んど無數の材源地から此等の各種の材料は蒐集されるのである。又各地方から集つた熟練なる職工等は此等の材料を加工し製作する爲めに雇はれる、模型屋、彫刻師、鍛冶工、金具工、木工錠工、織工、左官、モザイク工、塗師工、建具工、錺工、衛生工、電工、機械工、石工、配線工其他多くの裝飾家や助手等は夫々に各種目的の材料を準備して、目的の位置に取付ける、幾千枚の圖面は建築家及監督者の側から用意され交附されなければならぬ、そして此等の材料のみでない殊に裝飾と注文品に關しては充分に準備するの必要がある、最高度の熟練と組織が絶對に必要である。そして此以上は道德上及び肉体上の勇氣が共に成功の土臺となる―注文主や建築家や技術家や受負者か夫々の立場に於て道德上の勇氣を振興して大業を統し、完成迄努力を經續するの好意がなければならぬと同時に肉体上の勇氣は正に砲火の洗禮を受けつゝある兵士と優るとも劣るまじき英雄的行爲である。何となれば坑内や採石場に於て或は發掘工事や沈床工事に際し又は危險なる高所に在つて仕事に從事し、構架鐵材やテラコッタや屋根の被覆材を運搬するものや此等に關連せる職人等は隨分と恐ろしき肉体上の危險に毎日毎時相遇してゐる、そして此等の仕事は「特別なる危險」と別稱してゐるが誰が見てもそう思ふに違いない。此の共通の努力から共通の利益が生れる、そして人々は連絡によつて協力結合し、彼等の豫期しない力を發揮するのである。

此共通利益の確認は注文主にしても被雇人にしても共に將來の協力作業に對する最良の保證である。何となればそれは單に資本と勞力との利益の結合によつて組織ある協力が成効しつゝ存在するに過ぎないからである。吾々の從事した此建築物は誠に都合よく勞力の統一と此の建設に關與した凡ての人に利益の統一とを代表せしめ得たと信ずる、此の建物は幾十の借屋人を收容し、館内では宏大な範圍にて重要な商業を處理する事が出來るのである。注文主の賢明な雄大な計畫には此建物は壯麗でありたいそして此建物を觀る幾百萬の人々に快感を覺ゆる丈の美觀を備へたいとの要求があつた、則ち彼の要求は單に商業的建築物としてゞなく、更らに之れに加へて大紐育市の價値ある裝飾物としたいとの事であつた。要するに此の目的が如何に達せられたかは他の判斷に任すの外はない彼はダニエル・カエスター氏の雄辨なる期待を成就したのである。氏の獅子吼は斯ふである。

「吾々は吾々の各資源を發展せしめやうちあないか、各實力を發揚し、各組織を完備し、多大なる利益を增進しやうちあないか。そして吾々はいつ迄も現在の儘であるか或は吾々の時代として後世に記憶せられ得べき價値あるものを殘し得られるか什うかを視やうちあないか」

吾々は此の努力を寄與し得た事に正當なるプライドを持ち得るのである。

私は此機會を利用して、此建物の完成に努力した受負者、下受負者又材料と勞力とを供給してくれた凡ての人を祝福する、そして此の大工事に當初から完成迄の協力精進せる人々に感謝する。私は此の祝文の主意を裝飾家の人々や設計に從事した人々や職人や職工や人夫等の人々並びに受負側の責任を負ふた人々にも傳へて欲しい、何となれば何處迄も私は各人が夫々に負ふた責任を成願し彼の能力と彼の機會を應分に寄與し得た事を信じて居るからである。

カツス、ギルベルト。



亞米利加の建築

會員　大廬生

北亞米利加合衆國は太平洋を隔てたる東隣の國である。今日快速の定期船に投ずれば二週日にて彼岸に達せらる、『太洋は両國を隔つといはんよりも、両岸の民を一層近づけつゝある』のである。從つて我の一擧一動は彼に傳ふる所多く、彼の一顰一笑は忽ち此地の問題となる、かうして日米關係は日に月に密接なると同時に複雜となり更に紛糾しつゝあるのである。

彼れは大陸の民である、此は島國の民である。彼は自由の民である、是は愛國の民である。彼は無遠慮無鐵砲の國である、是は禮儀三百位儀三千の國である。彼は何處迄も積極的氣風の漲る處であり、茲は不思議にも消極的枯息的氣分の溢るゝ地方である。彼れの世界的米國魂に對して此の島國的大和魂在り、日米國民の將來の關係は、正に二十世紀の謎であると思ふ。

されど半世紀前に於て、我は彼の好意的忠言に促されて新文明の彼に新たなる航路を開拓し得たことを忘れざる以上は彼は何處迄も吾等の先輩であることに異議のあるべき筈がない事實に於て彼等の開拓し行く新文明は、宛も一日の仕事を終へて太平洋に沒しゆく亞米利加の太陽が再び笑顏を見せて東の空にさし昇つて吾國を照す樣に、我國の文運に偉大なる影響を與へてゐるのである、あらゆる點について吾等は彼等を師とし兄とし學ぶべき場合であることを忘れることが出來ないと同時に彼等の努力を多としなければならない。

彼等は後輩の吾々に就て大なる期待を保つては居なかろう、彼等は後を省みる暇もない位に前進をしてゐるのであるからである、彼等は今や世界を相手に活歩してゐる新興國である富裕の國である。何といつても日東の貧乏國は彼と足並を揃へて居ることが出來ぬのである。彼は悠々一歩一歩を運んで居るのに我は全力を擧げて走つて居るのだ、それでも彼と歩調を整へる事が出來ない。

そこで時々無遠慮な彼は見苦しい姿の我を顧みて注意を與へてゐるのである。彼に好意があるかどうかは別問題として同じ樣に世間に顏を出して居るなら顏を洗つて來いと忠告をしてくれるのである。忠告は難有いが目下勉強中の我は正眞正味の生活をしてゐるのだから見苦しい姿も止むを得ぬ、天下に恥づる處はない譯であると自問自答をしてゐるのだ、果して恥づ

る處がないだろうかどうかは別問題として明かに彼は我よりも偉い先輩である。

■ 今回の大戰亂に際會して彼は手一杯の活動をやつてゐる舞臺が大きい丈に、我の活動とは比較にならぬが、隣から見てゐると呑氣な樣には見へるけれども、やる丈のことはやつて居る。唯時々無遠慮な聲を出して隣の男の痩腕を笑つて居るのだそして力瘤なら御前の方が得意ちあないかと相談を持掛けてゐるのだ。此の痩男が空服を抱へて苦笑の昨今は世界の活劇として面白い場面である。

■ 彼が吾々の先輩國としての位置から見れば、我に對する侮蔑の体度は無遠慮の然らしむる處と見れば怨すべき點がないでもない、それと同時に彼が後輩としての我を視る眼が今少し同情あつて欲しいものである、双方に相當の理解があつたら、日米問題は立派に解決がつくであろう、双方で他の缺點を考へてゐる間はとても駄目であるが、我としては平然と爲すべきを爲し止まるべき處に止まり、進むべき時に進むあるのみである。

■ 後輩の我から見れば彼のあらゆる文明の光には誠に讃歎の外はない、殊に科學的文明の快潮に活躍する彼の努力は後輩の學ぶべき處であると思はれる。それと同時に後輩としての我の努力は果して恥づる處なき迄に行つて居るだろうか、吾人は茲に建築界に於ける彼等の偉業について聊か述べておきたい事實が甚だ多い事を感ずるものである。

■ 亞米利加の建築といへば、今日では立派に一種の風格を所有してゐる。換言すれば立派に一つの型を成してゐる、そして建築界の流行語を以ていへば『アメリカンスタイル』の建築といふ名を付け得る丈の内容と外觀と構造とを持つてゐる、吾人は彼等の建設し得たる亞米利加が型の建築に就いて一言したいものである。

■ 建築は人間の努力によつて、其の思想、感情、才能を發揚し得たる作品を殘したる場合に立派に藝術として取扱はれる、そして夫れが其國民の代表的作品として尊重せられる場合に於て其建築の有する風格構造並びに形式美は、往々其國民の思想感情及才能の表現を示す一つの尺度となるものである、此の尺度の記錄が乃ちスタイルであり、型であり又は樣式と稱せられる。

■ 尺度の記錄が完全なる系統を追いて發達したものは之を大スタイルと稱へて居る。從つて大スタイルの記錄には必ず大なる國民の思想、感情、才能が遺憾なく表現される。此の場合に於ては個人だの個性だのといふ少さな解釋は消滅して國民性といふ大きな意義が建設せられる、そして國民といふ一つの大きな團体が養ひ得た藝術の光を後世に誇るものである。

■ であるから一國の建築の樣式を窺はんとするには仔うしても其根蒂として横はる其國民の思想、感情、才能を理解してかゝられば駄目であると同時に一國の建築が一國の風格を大成せんとする場合には仔うしても、其國民の思想、感情、才能の統一ある馴錬と圓滿なる發達を順致しなければ駄目である。徒らに形式に囚はれ構造に囚はれて、建築の本體を知らぬ間は到底成就は覺束ない。

■ 亞米利加の建築を大觀して讃歎の聲を發するを禁ずることの出來ないのは、彼の國民が有する雄大なる思想を具象したる上に於て、彼の特種なる感情を發露せる上に於て、彼れの偉大なる才能を實現せる上に於て些の無理もなき、しかも急速なる大發達を遂げ、大國民の建築として天下に恥づるなき大なる風格を建設し得たにある。

■ 吾人は屢々從來執拗なる英國流の尺度で、亞米利加の建築を批評するのを聞いてゐる。殊に彼の突飛なる摩天閣を無中になつて建設した彼等を、『藝術を解せざる技術家』と見做し『美の眞髓を體得せざる建築』を建てたるものと一笑に附することは出來ないと思ふ。彼等は新しい時代に新しい舞臺に新しい國民として新しい意義のある建築を打出し得たのだと叫びたい。そして理解ある眼を以て意義深長の此等摩天閣を眺めたいものである。

■ 實に偉大なる事業や、偉大なる建設は其の成るの日に成るに非ずして其源や遠く其因や深しと云ふことがある。吾人は米亞利加の建築を理解する上に於て其幼稚なる當初の建築を忘ることは出來ない。亞米利加で建築の修養をしてくる技術家は盛んに、『コロニアル、スタイル』といふ事を振り廻す。『コロニアル、スタイル』とは其名の如く米國當初の殖民國時代の建築を一括したる一種の型を指していふのである。そして米國の歷史が新しい丈に此等の建築は今に完全に保存せられてゐるのが多い。

■ 有名なる大統領の官舍白堊館（ホワイトハウス）、自由の鐘を衝き鳴らしたる費府の獨立閣さては國父ワシントンの生れたる家、フランクリンの住み慣れたる家、などは此コロニアル、スタイルに屬する、そして此等の建築が亞米利加の建築の源をなしたる事實は多くしなければならないと同時に、米國人が此殖民地時代を偲ぶの情が盛んなるは點については輕視する事が出來ぬと思ふ。

■ 生れ故郷のなつかしさは何處の國民でも同じでなければならぬ、十三州の新天地に眞箇の自由鄕を建設し得たる彼等の祖先があらゆる艱難と苦闘を續けて殘したる努力の跡を彼等が尊重し、保存し、追懷するの情は吾等日本國民が明治維新の偉業を偲ぶの情と同樣であらねばならぬ。

■ そして彼等は彼等の祖先の殘したる數多の建築物を保存すると同時に幾多の古蹟に幾多の記念物を建設してゐるのみならず、力めて小國民の頭腦に此等の記念物を通じて彼等の建國の歷史を注入する事を忘れない。『コロニアル、スタイル』の米國民に於ける關係は一朝一夕の問題ではないのである。

■ 世界の建築史上から見ると此等のコロニアルスタイルの建築物は大したものではない。英、佛、伊、西、から輸入された粗雜なるルネッサンス式の木造或は煉瓦造の建築に過ぎない米國人がコロニアル式と別稱する程の價値のあるものでない。乍然彼等の今日の建築の源泉をなしてゐる點に於て、彼等の建國の史上を飾る點に於て、彼等の回顧の情を湧起せしむる點に於て彼等は他國民の理解し得ざる情緒を此等の建築物に結びつゝあるのである。

■ 新日本の國民が明治初年の建築物に對する情緒は大正の

今日に於て忠君愛國の古い臭をいやがる變手古な思想の現はれと同樣に冷々淡々たるものである樣である、そして一つは此等の建築物があまりに組造にして瓦礫と大差なき爲でもある樣である。一つはまだ後を省みる暇がないのかもしれない。乍然將來新日本の建築史を編するものは此等の建築物を逸してはならない事と思ふ。

『コロニアルスタイル』に現はれたる風格は大したものではないが、建國史を色どる簡單精純な清敎徒的氣品の漂ふてゐるのは見逃す事は出來ないと思ふ。そして此等の簡單組造の建築物から出立して大亞米利加主義の現代的思想を俱象する二十世紀の亞米利加建築が什うして生れたかと思ふときに、彼等の努力の偉大なるを歎稱せざるを得ないではないか。

建築は其根底に動かすべからざる思想の流れがある。これといふて形なき思想の源泉に元より執へ處もないが、十九世紀の北米史を繙くものは什うしても大亞米利加の大天地が養い育てた米國魂の存在を否定する事は出來ない。その初め自由の鄕國を新世界の邊地に夢みた彼等の祖先は何等の野心も何等の俗塵もなかつた、彼等は人間の爭鬪に倦いて、歐州の天地を逃れ新大州の自然の懷中に飛び込んだのである、從つて彼等の思想は新しい北米の自然の野に培はれたのである。

『米人は所謂る野人也、敢て野蠻人と云はざる也、然も彼等は庭苑に移植せられたる園丁の剪刀を經たる頗る人工の掛りたる樹木にあらずして野生の樹也、米人の特色は其野趣に在り若し米人より其野趣を取り去らん乎、剩す所幾許もなかるべし乃ち此の野趣が米國をして偉人ならしめたる也。』とは理解ある批評家の觀察する處であるが、彼等は彼等の人工的努力を遺憾なく自然の畫布に繪き出したのである。

今日の亞米利加建築の風格を觀察するに二樣の方面がある。一つは其科學的努力の偉大なるにあり。他は其大陸的思想の橫溢する具体的風格にあり。前者は何處迄も建築の內容を充實し、後者は飽くまで其外容を完成したのである。そして此の兩者を融合統一し得たるは米國人の偉大なる國民性が然らしめたのでなければならぬ。

彼の摩天閣の突飛なるに驚く人々は須らく眼を轉して彼等の建設したる停車場を見よ、旅館を見よ、學校を見よ、裁判所を見よ、市廳舍を見よ、國會議事堂を見よと云ひたい。彼等が組育の一角に競ふて亂立せしめたる摩天閣の奇觀のみを觀て他の諸都市に建設し、成就し、經營しつゝある亞米利加建築の壯觀を知らざるものは未だ以て亞米利加の建築を知つたとはいはれない。

彼等は壯大無双の北米の天地に國父等の涵養したる亞米利加魂を益發揮せしめて、野生の天然を征服し得たる餘力を以てあらゆる大仕掛の人工的努力を劃策して止まないのである、實にや彼等は此の勢を以て『パナマ』運河の開鑿に從事したのである。彼等は此の勢を以て無遠慮なる新帝國主義を兩太洋の波の上に實行せんとしてゐるのである。

何事にも世界一たらんとする野心は彼等の頭腦を支配してゐる、必ずしも野心といはず彼等の理想は世界一たるにある

此の覇氣を以て彼等は摩天閣を建設したのである。此覇氣を以て國會議事堂の大建築を完成したのである、されば彼等の建築には雄大無双の覇氣の横溢してゐるのを見逃すことが出來ないのである。

■ 乍然彼等は雄大なる覇氣横溢の思想を如何に實現するかに就いてはあらゆる努力を拂ふに躊躇しないのである、彼等は理想を抱いて居るのみならず之を實現するの努力を惜まない。徒らに夢を畫いて『棚の餅』を待つのは彼等の執らない處である。彼等は如何にせば其理想を實現するかについて絶大なる勇氣を振い之を實行してゐるのである。彼等は徒らに結果の計算を夢みないで實行に忠實なる工夫を積んでゐる。學ぶべき點であると思ふ。

■ 亞米利加の建築が其形式外觀に於て雄大無双の思想を横溢させてゐると同時に、其構造設備の考究に絶大の精力を拂つて居る、蓋し彼等は彼等の理想を實現せんために其構造設備の工夫に眞味の苦勞を厭はない。彼等は構造のために構造をしたのではないのである。彼等は彼等の理想を實現せん爲めに構造の完結、設備の充實に眞劍の努力を積んだのである。若し其結果のみを見て彼等の思想と目的と苦心を理解することが出來なかつたら、眞に彼の構造の精巧を知るものといふ事は出來なかろう。

■ 形体をのみ觀るものは、形体に偏し、構造をのみ觀るものは構造をのみに囚はるゝ事がある。亞米利加の建築が其形体に於て其構造に於て統一ある所以を理解しなければなるまいかと思ふ。尤も彼等は實行に勇なる國民なるが爲めに鐵骨構造の新時代建築に有用なるを知つては鐵骨構造の研究實施に全力を注ぎ、鐵筋コンクリート構造の價値を知つては萬難を排して其研究に盡したのである、而して其結果は彼等が此等の構造に卓越の技能を發揮し得たに過ぎないのである。

■ 彼等が從來の形式を破つて高層建築を打出したのは一面に實際上の必要に驅られたのであるが、反面に物好きな奇想を實現して見たのである、而して『フヲラトアイアン』舘の試作に成効した彼等は愈々其眞價を認めて益々實用の範圍を擴張したのである、此時に當つて彼等の技術家は競つて理想の實現に努力して他を省みない位の活動をした、自由の國民の一致せる行動其處に白熱の光を發するのである、彼等は善と信じ眞を解し美を感ずる建築に向つて駒を並べて進軍したのであつた。

■ 之を要するに偉大なる抱負と理想と、絶大なる努力と實行と、而して雄壯なる情緒と感激を抱懷して完成し得たる亞米利加の建築が彼等の思想才能感情を遺憾なく發揮せるは自然である無理がないと同時に讃歎の聲を發するを禁じ得ない、小なる天地に蹐蹐しつゝある我民は彼の偉大なる事業の結果を觀て學ぶべき點を考一考するの必要はないだろうか、徒らに彼の結果に驚いて彼れの形体構造を學ぶ丈でなく眞に彼の長所を理解するの必要はないだろうか。



紐育市の交通問題 (二)

會員 伊藤正文譯

■紐育市に於ける乘車交通の趨勢及び其輻輳

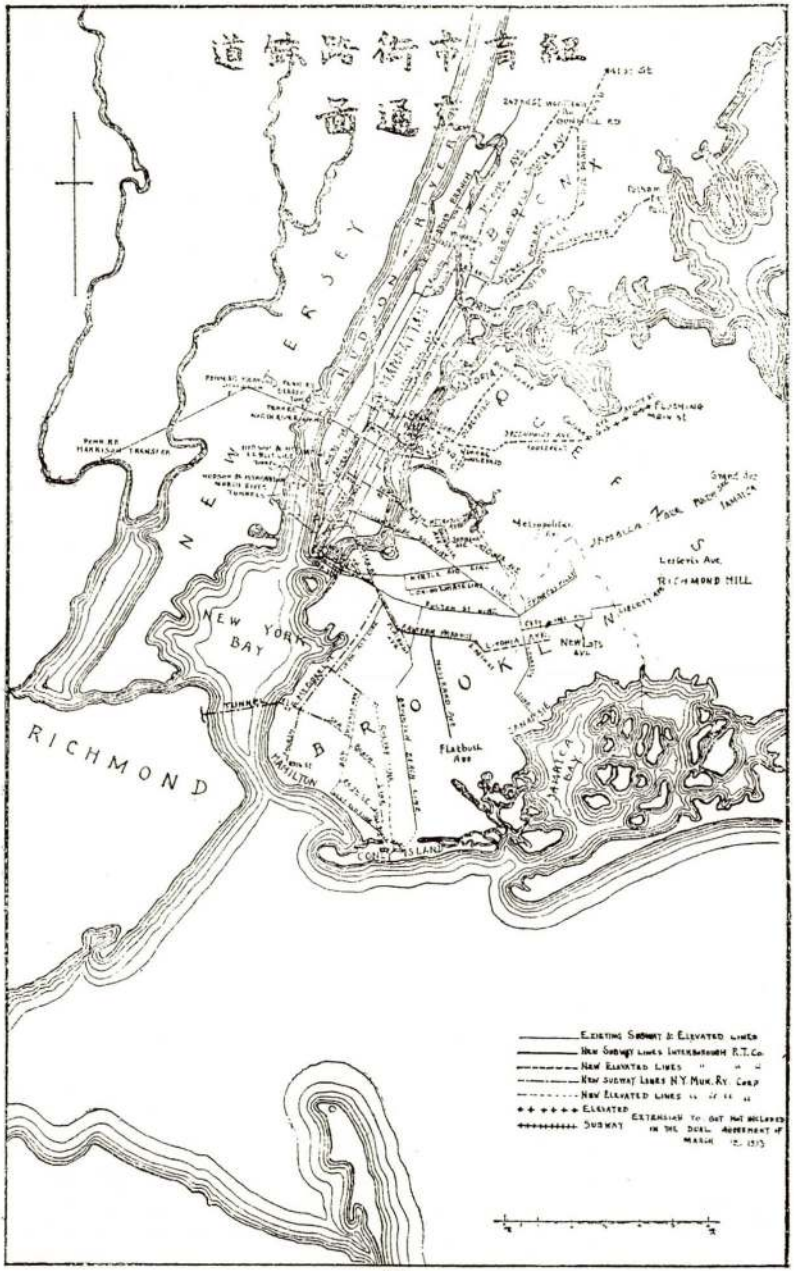
紐育市交通機關輻輳の序幕は、最初の交通機關が乘客の收容數に限度を置いたことから初つてゐる。當時に於てはその規模の大小に關せず什うしたならば公衆の望みに叶ふことが出來るか云ふことが唯一の研究問題となつてゐたのである。當局者は公衆の交通を初めその必要品其他需要のある商品の輸送に迄此研究を怠らなかつた。紐育市に初めて乘合馬車が出來た時分には人口も極僅かであつたし、此等の交通機關も馬車の數の多きを誇ることも出來ぬ程微々たるものであつた。併しその當時の交通機關は云はば今日の交通機關も及ばぬ程の特權を有してゐたのである。それは當時では何所と云つて購入する特許地域もなければ、布設す可き軌道の路床やレイルの必要はなし、彼等が丁度適當と思ふ割合に賃金を定め、如何なる都市の形態にも左右され羈束されることなく極めて自由な立場にあつたのである。しかし記錄は此交通機關の窮狀を物語つてゐる。

茲に到つて述べ來たつた大紐育急速交通問題の條々を一括するの必要を認める。此大紐育の人口六百萬密度から云ふならばマンハッタン島上の一エーカーに就き七百人其他の區も殆ど之に近い數を示し大紐育全体としての人口密度平均エーカーに就き二十八、六、斯の如き大都市は建物に於て生計に於て、又徒歩乘車共其市街

交通に於て、謂所熱鬧の巷である。同時にあらゆる面倒な問題はマンハッタン島に群生する傾向があると云ふことも事實である。此問題にたづさはる技術者は專門に此研究をつゞけてゐる位であるから、此紐育市が希望通りに發達して行く爲には適當な交通機關の便利が與へられて急速交通問題が解決された曉でなければならない。その爲に當局者が如何にして此望を到せしめようとしたか、又何んなに苦心して布線に就て研究したかと云ふことは過去の歷史と現在の記錄が之を顯著なる一事實として示してゐる。布設した線が竣工すると直にその鐵道會社の支配人が、彼の腹心の屬僚と共に自分等自から試乘の上、結果が良ければ公衆の交通に提供し、運轉することにしてゐる。從て必然的に多大の研究と經驗とを重ね、漸次完全の域に進みつゝあることが解るのである。

急速交通機關の新設線の輸送狀態は什うであるかと云ふことを推測するには特別に考慮を巡らさねばならぬことがある。それは新に急速交通機關が出來又は在來の交通線の改良が行はれると共に、當然それに伴ふ社會の進歩とその範と擴大とが齎らされると云ふことである。それ等の線が布設された後に到つて若しも會社が公衆の要求を分充に滿すには最早や手遲れであつたと云ふことがわかつても、毎日多數の人々を家庭と執務場の往復に運び、運轉は其日其日に順序よく繰返し、交通機關として出來るだけの方法を講じ危險を除き安全を保つ樣にしてゆくならば、手遲れになつたと云ふ事實その事は公衆の利益を計ると云ふ立場から見たならば決して悲觀す可きことではないのである。そんな譯であるから、マンハッタン島ばかりではないブロンクス區に於ても又非常な人口增加をしつゝあることがわかるし、記錄にも明な事實を示してゐる。

大紐育の過去千九百〇四年迄を逆上つて考へて見ると、當時地下鐵道布設の計畫者は『現に行はれつゝある市內及び區間の交通機關に必要としての色々の計畫は未だ未だ先の時代の爲に


紐育市街路線道
交通圖
NEW JERSEY
MANHATTAN
BRONX
QUEENS
BROOKLYN
NEW YORK BAY
RICHMOND
JAMAICA BAY
Flushing Main St
Jamaica
Richmond Hill
New Lots Ave
Flatbush Ave
Hamilton Ferry
Penn R.R. Harrison Transfer
Existing Subway & Elevated Lines
New Subway Lines Interborough R.T. Co.
New Elevated Lines " " "
New Subway Lines N.Y. Mun. Ry. Corp
New Elevated Lines " " "
Elevated
Subway
Extension to be not included in the Joint Agreement of March

貫通する仕事である』と云ふ考を持つて居た位である。然るに此新しい地下線開通以來數年を出でずして『此隧道では充分でない、更に擴張せねばならぬ』と云ふことを目のあたり見せつけられたのである。若し當時の人の先見が、後で覺る程明であつてくれたならば決してこんな間違ひは起るまいにと思ふのである。併しながらこんなに公衆の交通が增加し、同時に交通機關の必要を增し現狀の不足をかこつ樣なことにならうとは夢想だに出來なかつた。地下線開設後もう直に隧道設計時代にはまるで思ひ及ばなかつた程の交通輻輳の狀態となり、止むを得ず市の漠大な經費を支出して地下線の收容量擴張を計つたのであつた。こんな狀態は何も交通問題解決の行腦を示すものではないと云ふことを斷つて置く。けれども之は說明も出來ず豫測も出來ぬ心理狀態の結果と見なければならぬ。此急速交通問題に關する民衆の日々の習慣上、色々の心理學的傾向を以つて研究される可き事が澤山あるが、之は後に編を改めて述べることゝする。

人々が交通機關の速度に對する要求は益々鋭くなつて來た。現在ある狀態の高架線が千八百七十八年から千八百八十年の間に當市に布設されたが此の布設の計畫者は多分今日の交通問題の一つをさへ解決する樣には考へ居なかつたらしい、千八百七十五年の一般交通取締規則に準じ、千八百七十七年から千八百七十八年にかけて紐育高架鐵道會社が第三及第四街に擴張及び布設の工事に取かゝつた。所が間もなくメトロポリタン高架鐵道會社が名義上ギルバアト高架鐵道會社の繼續者として立ち、千八百七十二年の法令の第八百八十五條の下に結合してしまつて、之が紐育市の第六街と第二街に布線し初めた。更に千八百七十九年九月には紐育市のすべての急速高架線は、永久に市民の爲を計り且つ市當局の干渉をうけぬ一つの大會社の下に併合されたのであつた。此大會社はマンハツタン鐵道會社と命名された、現今ゼ、マンハツタン、デイビジョン、オヴ、ゼ、インタアボロー、ラ

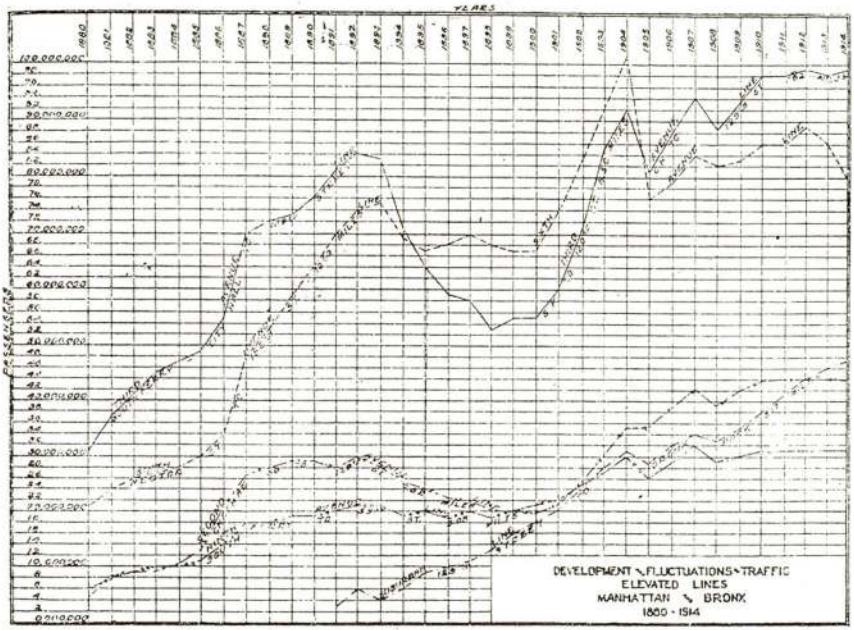


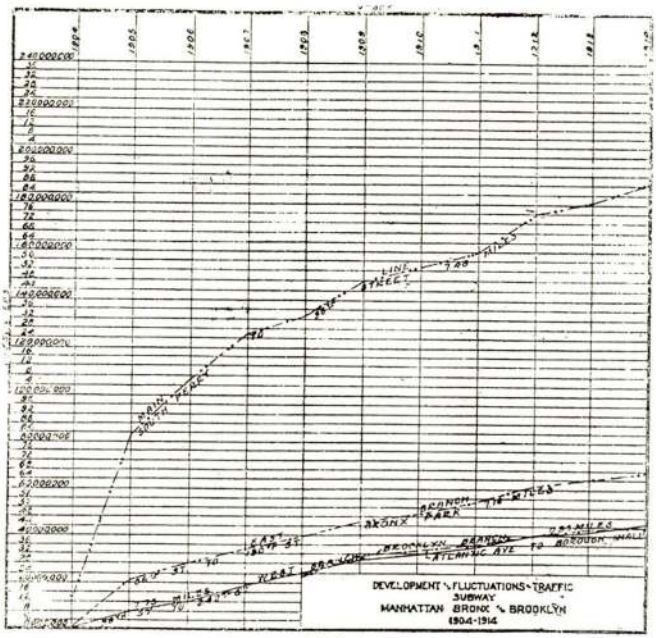
Plate 1.

ビッド、トランシット會社として知られてゐる會社がある。此會社は千九百〇三年四月一日から九百九十九個年を限つて、紐育市内のすべての高架線の土地借入をしてゐる。

高架線交通狀態の毎年の比較を見ると如何にその改良と擴張とにより、又は競爭機關たる地下線の勃興と路面軌道の改良とによつて、影響さるゝ所が大であるかゞ解る。次に挿入したダイアグラムを參照するとその高低が明瞭になるであらう。

第一表に於て千八百八十年を切りにしたのはマンハッタンの各線がすべて同年に一樣に運轉したためである。千八百九十一年はブロンクス郊外線が開通した年で以前に千八百八十七年から運轉してゐたものゝマンハッタン鐵道會社の手で初て開通したのである。第三及第六街線はマンハッタン區を東西に貫通す

る幹線と考へらるる可きものである。此二線は開通以來終夜運轉であつて第二及び第九街線の如き盛であると云つても之には遠く及ばぬ有樣であつた。此樣な理由で表に於ける曲線に大分差がついてゐるのである。第二街線、第九街線は曲線の高低の變化はないが確實に乘客收容數の上に進歩を見せてゐる、つまり此等の線はその線の勢力圈内で相當の地歩を占めて進み行くことがわかるのである。郊外線の輸送狀態は千八百九十一年以前には殆ど效果が擧らず、その前は單に輸送の運動をしてゐると云ふ丈の程度であつた。又表に於て千八百九十一年にはブロンクス區の内外を通じて三百四十三萬三千五百六十二人の乘客を運んだことを示してゐるがその時ブロンクスの人口は約九萬であつたのに千九百〇二年迄には二十萬に增加してゐる。此增加は極めて速であり、同時に此交通機關が各地方の發展にどれ程餘裕のある進歩的な影響を與へたかと云ふ實證になる。千八百九十一年から千九百〇二年迄の間に、郊外急速鐵道會社はマンハッタン鐵道會社の支配下となり千八百九十六年八月にはマンハッタン區の各高架線は實質上結合し、各區間の均一



賃金を五セントと規定した。それ位であるから誰でも、千八百九十六年から千九百〇二年迄の急激な進歩を認めぬわけにゆかぬ。併し此結果如何なることが起つたかと云ふに、二區の市街線が此等の高架線との競爭の立場に置かれることになり、此等の市街線は全部電氣運轉に改めたのである、がこれが交通問題に一つの新しい刺激となつたのである。それが爲に蒸氣機關で進行してゐた高架線の運轉法は時勢遲れだと云ふことにされ、新競爭機關の爲に打擊をうけ之に肩を並べる爲には急速高架線も矢張千九百年から電氣運轉に改めなければならぬ羽目になつたのであつた。その爲に交通上の便利がどれ程增したかと云ふことは表を見ても明白であらう當時即ち千九百一、二年頃高架線がトレメントからブロンクスパーク迄延長線を加設した爲に新しい地方を開發し、非常な繁華な狀態に迄進歩させてしまつた。新競爭線と歩調を合せる爲に高架線が電化され、その爲に危險事故が非常に減少したことは喜ばしい結果である。マンハッタン區に於けるすべての高架線は競爭機關の新しい運轉法によつて壓迫を受けたけれども、一方に郊外線の交通狀態は寧ろ向上的傾向を保つてゐた。千八百九十八年から千九百年にかけて、他の高架線の乘客數は甚だしく衰退を示し年々の輸送人員數は全高架線を合して一億七千四百萬から一億八千三百萬迄であつた。所が千九百四年頃にかけては非常に增加して、その年の記錄は二億九千百十四萬七千四百八十七と云ふ數を見せてゐる。此交通狀態に與へられ衝動が新しい擴張、運轉法の更新等を計るに就いて一つの保證になつたのである。而して此等の改革は大紐育市に於ける急速交通線輸送歷史上に一時代を劃したのであつた。

此は一つの急速交通問題が如何してに解決されたかと云ふ實例で、その交通機關の活動が靜止し、沈滯した期間は改良される可き設備と計畫の企圖を必要ならしめる準備時季であると云ふ結論に到する。かくして大紐育市の急速交通機關による影響は他の區、他の都市に及び益々

その進歩の理想に近づくのがわかる。

千九百四年に第六街線のみで一億二百萬餘の客を運び第三街線は殆ど之に近く第二位を占めてゐるか、他に斯の如き多數の客を收得した線はない。けれども期待したゞけの收得はあつたのである。それより少し後れて千九百〇四年以後、紐育の急速交通線は極度の盛況を示し却て乘客過多になり構造上も線路擴張も最早や手の出し樣のない仕末になつた。それが爲に急速交通線擴張の要求は益々鋭くなり、火の手が上つた、そして又實際に新擴張線の布設は豫期されてゐたのであつた。

當時交通狀態の成行を推測した言葉に——『地下鐵道が布設されたから最方や高架線の要は僅になるであらう。』——と。所が加何程此等の線が客を滿載してゐたかと云ふことを表が示してゐるので此豫言は誤りであつたとわかつた位である。

區間急速鐵道會社（I. R. T. Co.）のマンハッタン線の全乘客數が千九百十四年には三億〇百六十七萬〇七百三十七で、之を分けるとマンハッタン區内で二億五千四百二十九萬八千四百三十九、ブロンクス區内四千七百三十七萬二千二百九十八と云ふ數になる。——『乘客交通量の牛耳はマンハッタン區が握つてゐる。』——と云ふ事實を表が示してゐる。

經驗によると急速交通機關がもつと出來れば出來る程役に立つ、何故ならば多くの交通線は或中心地から此等の線の需要を增す樣に延びてゆくのである。だから多くの交通機關は大なる敎育であり、大なる建設家であると同時に、社會の利益とその發展に共通にして重大なる要素である。千九百〇四年の暮れに市營地下鐵道がマンハッタンで運轉され初め後にブロンクスにも布設された。表を見るとその年に第三街線及び第六街線がまるで不消化な輸送をしてゐるのは注意す可き現象である。

再び競爭機關に壓迫された高架線はその刺激により却て新しい便利な設備とし乘客に多大の餘裕を與へ、且つ其時分迄の耐え難い程であつ

た雜沓を覺らしめた。此時にすべての急速交通線は一支配下に一括せられ、高架線で失つたものは地下線で收得すると云ふ樣なことになり、實際的に利益の融通によつて勘定の平均を示して來た。しかるに千九百〇八年には紐育市の財政上の不景氣に伴ひ各線の輸送率が減少したことが表にあらはれてゐる。世間の景氣の影響はひどいもので、人々は必要上愈々仕方がない時の他は乘車しない樣になる。表で千九百〇八年から以後マンハツタンの高架線は第六街線を除く他は皆舊の景氣に復しつゝあるのがわかる。第六街線は回復の見込のない樣に見えるが、此線が千九百十三及十四年の曲線で下向になつてゐるのは、その輸送地帶であつた大事業中心地が移轉したのが原因である。千九百十五年の四月の或日に於ける輸送量の實例を據げると高架鐵道のマンハツタン線はマンハツタンとブロンクスとに於て二十四時間に收得客（定期客を除く）百萬七千八百八十四人を運んだ。

新設地下線の工事が初つた。そして競爭の各會社はマンハツタンの廣大な急速交通機關競爭場裡に入つたのである。彼等から刺激向上された高架線は改良發展の爲に今や三十万弗以上を支出し全線に完全な急速機關を與へた。

地下線。

高架線がマンハツタン、ブロンクス、ブルークリン各區に盛になつた頃丁度地下線も非常な盛況で『速かで新しい交通法によると』非常な利益であると高唱する連中の爲に、收容限度以上の負擔をかけられ、元來日に四十萬人の客を收容する見込の所を一日平均百萬を運んだ。最近の記錄では百二十四萬七千五百三十六と云ふ數字を示してゐる。元は八臺連結の急行車が二分半毎、五臺連結の普通列車が三分毎に出てゐたが現在では十臺連結急行車が一分四十八秒毎に運轉され停車時間を含めて一時間二十五哩の速度で走り、六臺連結の普通車も同じ時間の割合に出されてゐる。

すべての列車及車輛は現時最良の裝置を有し又トンネル裝置も同樣である。而して現時世界

に於て之に次ぐものもない程の交通歴史を形成してゐる。又大紐育市の交通狀態が如何に世界的の興味を呼び起したかと云ふことも注意す可きことだ。乘車賃は一人五セントで今では十七哩半を五セントでゆける譯である。會社を困らせる氣なら巨離は無限である。千九百十四年六月三十日の同年前半期の調べによると全交通乘車人員數（定期客を除き）六億六千百八十八萬六千六百七十一人であつた。前年に比し千七百五十七萬〇百五十五人の增加を示す。此增加に就き地下線は千二百九十四萬千五百九十三、マンハッタン鐵道が四百六十二万八千五百六十二であつて、その增加は市の塲末の發展した反映であると見られる。同時にマンハッタン線は想像されたり理論上考へられた程の損失はなかつた、それは人々が交通機關を擇び、地下線の雜沓を厭い、もつとコンフォトな交通線を望んだ爲である。

地下線の交通狀態の表は歸着する所次の樣なことを示してゐるわけで。その線でどれ程交通狀態が進んだかカーヴの補足の部分で示された支線の狀態がどれ位布偏されてゐるか、交通の大動脈になる要路はマンハッタンの幹線であること、等である、交通問題の中心はマンハッタンであり、此區が各方面への線に仕事を提供してゐるので、多數の乘客はマンハッタン區內に流込む、そして人々がどれ位出勤の往復に此急速交通線を利用してゐるかを證明してゐる。

若し塲所さへ許すならば、此等の莫大な群集を如何に高架線地下線が、充分に安全に且つ速に運ぶかを語りたい。問題は多種多類であるが要するに宜しきを得た判斷と、敏捷な決定を以て解決されたのである。而して公衆はより速により遠方へ、より安全に、乘り得る樣になつたことゝ、昔時の馬車と同賃金でコンフォトな交通が出來る樣になつたのは注目に値することであらう。（未完）



都市と建築

都市研究生

都市計畫と市區改正

一、輿論の勃興

近時急速に勃興しつゝある都市計畫の輿論は吾人の最も愉快に感ずるところであつて、其機運は正さは我國民の第二維新の發端とも見ることが出來る。然しながら其の輿論なるものも實は甚だ薄弱なる基礎の上に立つものなるを知る時は、吾人は此機會を逸せず都市計畫の眞髓を更に十分に敷衍して其輿論の基礎を强固になすの急要なるを感せずには居られぬのである。近來に至るまで都市計畫の重んにして且つ緊急なるを唱へしは主として關西地方に於ける人士であつた。東京の市區改正が其計畫を誤り來りしを指摘し、且つ我國の重要都市も一般に市區改正の時期に迫りつゝあるを高唱して之を社會一般に愬へしが如き、或は實現に其計畫案調査に取係りしが如き、或は又改良法草案を作成して

之を當路に申達せしが如きは凡て關西の大都市たる大阪を中心とせるものにして、此次の都市計畫の輿論の先驅をなせしを證明するのである。又都市政策の確立を盛んに唱へしも主として關西地方の新聞紙にして、其意見の根底は凡て都市計畫を背景としたのである、三都中產業其他の活動に於て最も後れたる京都市が、率先して接續町村を合併せしが如き快擧は、之れ全く都市計畫の重要なるを感せし爲めである。一昨年來吾人が我國の重要都市の從來進み來りし苟且主義に對し警告をなせし際、當路の大官は之を一片の理想論として揶揄せしを甚だしく遺憾に感じ、斯かる忌斷的態度の一變せんことを希望したのであるが、幸福なるかな近時當路の有司諸氏の賢察は民間の輿論と共に吾人の意見と稍一致するに至り、本年の第四十議會に於て東京市區改正條例の改正法案、大阪及京都の市區改正法案及都市計畫調査の三案は、政府より提出さるゝの順序となつた。其等の三案は已に兩院を通過して今や法律となり又勅令となりて發布さるゝも近きにあるべく、一般社會も其實現されんことを望むや切なるものあるは、吾人の最も愉快に感ずるところである。茲に於て問題は急轉直下して其計畫の良否、實施の難易等全く現實の性質を帶ふることゝなつたのであるから、今後吾人の努力は主として其輿論の緊張力を彌が上にも大ならしめ、又其計畫をして永遠的見地より出立するものたらしめる方に盡さねばならぬようになつて來たのである。而して都市計畫の眞髓なる交通、衞生、防備及美觀等の根本計畫を十分に審議して遺憾なからしむる爲めに、其委員組織を十分に研究するの要がある從來の東京市區改正條例の委員組織規則及其運用の不充分なりしは已に世に定評あり、今や第二の計畫を立て直さねばならぬ苦境にあるが如きは全く計畫立案の練達者を有せざりし爲めである。當路に於ては今後の市區改正委員撰擇に際し、唯徒らに官名に拘泥せず、學識經驗共に此難問題を解決し得る人物を標準とすべきである。若し市民の聲を聞くと言ふ意味より、市會議

員の多數を選任するが如きは餘程深く注意を要する点である、現時の我國都市の市會議員は必ずしも凡ての問題を、國家百年の長計より打算するもののみと見るを許さぬのであるから、餘り之を壓迫せざる程度に調和を計りて其人數を制限せねばならぬ。市區改正委員會の如き比較的強大なる權利を有する會議をして、多少なりとも公正の意味を失はしめんか、其結果や寔に恐るべき害毒を社會に流し、後世子孫を苦しむるのであるから、其詮衡には十分なる注意を要することを警告せざるを得ない。

二　市區改正の意義

市區改正なる熟字は明治二十一年の勅令發布以來一般に流用されて居るけれども、其眞實の意味は近時頻りに使用さるゝ都市計畫と少しも變らぬのである。都市計畫の文字は英語のCity Planningの直譯にして、都市の科學的合理の改造計畫を意味するのである爲めに、何となしに從來の市區改正の造り口と異なるが如き感を與へたのは事實である。故に現今市區改正なる熟字と相並行して都市計畫の文字が使用され、其意味の異れるかの如く一般に見做されて居るのは寔に謂はれなきことである。

東京市區改正條例の基礎たる勅令第六十二號を見るに。

> 朕東京市區會ノ營業衛生防火及通運等永久ノ利便ヲ圖ル爲メ東京市區改正條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム。

とありて、正さに近代都市計畫の最大目的とする

一交通系統　二街路系統　三建築法規
四下水系統　五給水事業　六公園設備

を全部網羅するは明かである、然るに從來東京市區改正委員が其一部に過ぎざる街路擴築にのみ沒頭して、大數を見遁したる爲めに、一般社會は市區改正の事業を單に街路擴築と言ふ意味に解釋しつゝあるは無理からぬことである。吾人は此際むしろ市區改正なる文字を抛擲するの便利なるを考ふるものである、何となれば今回內務省に於て都市計畫調査會なるものゝ置かる

なことも發表され、大阪市役所にては昨年來都市改良計畫調査會なる名義の會議あり、而して一方市區改正法なる法律が存續するは假令直接取扱ふ事務に區別こそあれ、同一平面の同一事業を異名を以て呼ぶが如き矛盾は、何としても面白からぬことである。吾人は當局の大官に於ても或は此兩熟字を多少異なるものゝ如くに解釋されて居るのではないかと思ふが故に、此際殊に此意見を發表して其批判を求めるのである幸に我建築學會は本月の大會に於て**都市計畫**と言ふ題目に於て各會員の意見が發表さるゝのであるから、此の字句の解釋も十分に討議さるゝことゝ信じ、吾人は其正しき態度を決定し得るを待つのである。

三　市區改正と建築法令

市區改正の街路系統計畫實施は交通上至大の問題にして、現代都市の趨勢より打算するも益々其計畫の重大なるを感ずるのであるから、市區改正事業の根底は正さに其街路系統の大改造にあると言ふも過言ではない。現に東京市が從來交通上十分なりと信じたる大通りの系統及其計畫は、已に其缺點を暴露しつゝあるような次第にて、將來激增し來るべき交通量の處置に關しては、殆んど何等の見込も付かぬ窮境に陷つて居ることを想像すれば、市區改正の根本計畫は什うしても其街路系統の永遠的施設でなくてはならぬのであつて、之を一動物に譬ふれば街路系統は其骨骼に相當するのである、故に吾人は市區改正事業の中に就て最も重きを置くべきは其街路系統の研究であることを承認するものであるけれども、同時に其骨骼をして十分に其價値を發揮せしむるものは其肉体たるべき**建築**であることを主張せざるを得ない。

都市建築の眞實の目的及其價値は言ふまでもなく其都市の經濟的活動と密接なる關係を有し、同時に災害防備及衛生設備の根源なるが故に、若し街路系統に於て十分徹底したる計畫を樹て、其實施が出來ても、其街路に沿ふ建築が**眞實**に經濟活動に利便を與へざるものであつたり、或は災害に抵抗力なく、衛生上不用意のも

のであつた場合には、市區改正の目的は少しも達せられぬのであることを知らねばならぬ、固より建築固有の衛生上の設備は公共下水の完備と給水事業の行き渡ることを前提とせねばならぬから、其等の設備と並行するを要するのは勿論である。又一方都市の美觀と言ふ問題も其處に附隨するのであつて實質の充實は即がて其外觀に表現されねばならぬのは言ふまでもない。歐米各國の都市計畫論者の中には都市の美觀と言ふ問題には、可なり深き注意を拂らひ其の點に甚だしく力を注ぐようであるけれども、吾人の觀る處では都市の美觀の如きは都市建築が科學的に又經濟的に合理的なる以上自然に之に附隨するものである如くに思はれる、必ずしも美觀を基礎とせずとも其街路に面する建築に對し合理的の制裁を加へて之を一法令の下に支配するならば、軍服の一定せるもの丶如く、之を大觀すれば環境の一致調和を發現して其間に宏壯雄大なる感想を抱かしめ、自然に都市の美觀を感ぜしめるのである。吾人は建築の如き固定的永久的の複雜なるものを、正裝せる軍人の一列と比較せることの誤れるを知る。然れども從來都市建築を唯箇々に、環境や都市の全体と切り離して設計されたる時代の誤れる遺物を見る毎に、其建築一箇は可なり念の入りたる藝術的價値を發揮するものであつても、都市の美觀として之を見る時には何等の價値なきものであることを發見するのである。況してそれが科學的に見て近代の都市建築たる實質に缺ぐるものあるに於ては、都市としては之を排斥せざるを得ないのである。

都市建築の法令は、主として其構造を取締り其形態に制裁を加へるを理想とする、其美觀の如きは決して之を强ふの要はない、唯街路の幅員と調和を保ち、通風採光の共通的利益を互に妨害せざる爲めに其高さと空地との關係を規定するを第一義とするのである、乍併更に一歩を進めて其樣式の亂雜を防ぎ、色彩の不調和を相當に取締る如きは、市の中樞區域には望ましきことであるけれども、此等も必ずしも法令の取

締に待つの要はなく、設計者の自覺により十分に其目的を達し得るのである。特に公館の建築に於て其環境の核子たるべき配置と其樣式意匠を塩梅する如き努力は都市將來の爲めに尤も望ましきことであるが、在來の都市に於ては此の緊要なる要求も數次省みられなかつたのは事實である。近時亞米利加都市の經營者は盛んに公館設計に注意を拂ひ、大なる自覺を以て大膽なる永遠的計畫をなしつゝあるを見る、我國は幸に過渡時代にして未だ公館の配置を確定せざるもの多ければ、將來其計畫には十分の注意を拂ひて都市建樂の中樞核子たるべきものを建設するの覺悟を要するのである。

從來我國に於ては朝野共に都市建築に制限を加ふることの緊急なるを知らなかつたようである、維新當時の混屯時代にては左もあるべきであらふ、然れども今日世界的文明國の中間入りをなして居ながら自由放任主義に之を見遁しつつあるのは、什うしても不都合千萬のことである殊に明治二十一年以來東京は我國の首都であると言ふ意味に於て市區改正條例を適用して着々街路系統の改良計畫を實施しながら、其街路に面する建築には何等の制裁を加へなかつたのは全く先覺者の手落ちであつて、社會一般の無自覺たりしことを證明するものである、七八年前東京市理事者は東京市に施行すべき建築條例の草案を我建築學會へ諮問したことがある、學會にては專門家の團体でありながら其諮問に對して四ケ年の日子を費して漸く草案を作成したのである。大体斯かる緊急なる問題を四ケ年間も費して漸く答申したと言ふことの已に滑稽であるのに、其條例草案は東京市の現狀改善に餘り觸れざる實行不可能のものであつたことや、其の法令實施の急要なるを社會に向つて敷衍するの勇氣を缺ぎたる態度は、餘り賞讃出來ないものであつた。

我關西建築協會は我國重要都市の建築改善に關する法令調査を目下の緊急事と認め、建築學會、日本建築士會及都市協會と相提携して其調査會設置を當局大臣に建議したことは本誌前々

號に之を報導した通りである。政府は其意見を容れ本期議會に都市計畫調査會設置の案を提出して兩院の認むるところとなつたのであるから早晩其調査會の組織は出來るであらふ。唯憾むらくは何故に建築法令調査會と言ふ單獨の組織とせざりしや、之れ多分都市計畫全體の調査會の部分會として審議するを至當とする系統的の考より斯かる組織となつたものと思はれる、何れにしても我國の重要都市は市區改正斷行と共に一刻も早く其建築法令の大綱決定を望むものである。

四　市區改正と接續町村併合

市區改正の實績を擧げんには其接續町村を除外しては如何なる計畫も畫龍點睛を欠く如き結果に終るのである。殊に其衛生設備に於て痛切に缺陷を暴露するはあらゆる統計に於て之を明かに知ることが出來る、本誌前々號に掲げたる大阪市及附近町村の傳染病發生の統計地圖は其事實を最も明白に說明して餘あるものである。即ち大正二年より同六年に至るまで五ケ年を平均して傳染病發生率を見るに、大阪市及附近全体を通じ其最多率は市の北部へ接續する中津町及豐崎町にして次位は城東の北新開莊村と其南部なる鶴橋村である、又市內にても塲末なる外圍帶を凡て高率傳染病發生地とし漸次中心に向つて其率の低きを見る。之を東京に見るも京都に見るも、市の衛生狀態は外圍地帶に著しく低劣にして其結果は常に市中心地帶を脅かしつゝあるような狀態である、又市中心地帶と雖も徹底せる公共衛生設備を有する譯ではないから其脅迫に對して十分の抵抗力はない。若し全体を通じて市區改正の眞意義を發揮し其衛生設備を行届かしめるには、接續町村を併合して、之を全く市の中に包含して統一せる組織の下に計畫を立てねばならぬのである。

京都市は本年三月に入りて其接續町村全部を市に併合し、其理想的計畫を立てんとして居るが、東京や大阪は接續町村併合の問題に觸れることを避けて、唯交通と衛生の設備を接續町村にまで及ぼすを得る法律上の權能を以て滿足せ

んとして居るようである。乍併唯一時の便宜上からならばそれにても差支なきも、所詮併合は免かれ難き趨勢であるから、市區改正の大計畫を立つるに際し此問題を解決し置くことは最も必要なることである。

五　市區改正と其財源

市區改正の計畫を立つるには唯紙上の空論や實行不可能の理想案でなく、實際可能性を帶びたものでなくてはならぬ。之れ即がて市區改正をして姑息的ならしめ現狀瀰縫主義ならしめる所以であつて、計畫者の最も深く注意を要する陷穽である。古來多くの計畫者が數次其陷穽の爲めに不覺を取つたのは、大低は實際可能の程度と都市永遠の畫策との釣合を十分に研究しなかつたか、或は研究をなしても其將來を達觀し得なかつたか、其何ちらかである。而して其理想的改良案が實現上可能であると言ふ程度の計畫を立つることは吾人の最も深く慮からねばならぬところであるにも拘らず我國現時一般風潮は、理想的の計畫案は實現上不可能にして實現上可能なるものは部分的修正位に過ぎずとなすようである、東京市區改正が三十年間を費して漸く不徹底なる街路擴築をなしたに過ぎないのも全く其等の誤れる考から來たものと言はねばならぬ。

市區改正を斷行するに際し最大の難關と唱へらるゝのは其財政問題である、我國の如き貧弱なる富力を有する都市が市區改正に要する費用の爲めに苦むのは當然であつて、よし其計畫に於て適切のものを立案するも其計畫を實現し得ない場合の多いのは已むを得ないのである。都市財政の問題は自治機關の基礎であるから、都市の凡ての施設は凡て財政狀態より割出すようにせねばならぬことを考ふれば、市區改正の計畫も矢張り其都市の財政狀態を十分に考慮して然る後に其立案に取懸るを至當とする。乍併都市の財政狀態と言ふも唯現時の狀態にのみ拘泥するの要はない、宜しく將來の增富率を打算し其都市發展の未來を推定して計畫立案の基礎とすべきである。

東京市區改正は今日まで約三千萬圓を支出したのであるが、其經費支辨には左の特別稅を賦課することを許されて、其收入を目的とし五十ケ年以內の起債をなしたのである。

一地租割　地租百分の十二半以內但し耕地を除く。
一營業稅並雜種稅　地方稅十分の四以內。
一家屋稅　同上。
一其他勅令を以て指定したるもの。
一淸酒を區內に輸入し又は區內に於て釀造販賣するもの一石に付き金五拾錢以內。

其他東京市區改正の費用を補助する爲め東京府區部の基本財產として即今官用に供せざる東京府區部內の官有河岸地の下付を受け、其河岸地より收入する金額を利用し得ることゝなつて居たのである、固より其收入金額は他の事業に支出することを得ざるのみならず、其河岸地は已むを得ざる場合の外賣却する譯にはゆかないのである。而して勅令に依りて別に特別稅を指定したるもの（明治四十三年第一八八號）國稅營業割營業稅百分の十七以內をも更に追加されて居る。

上述の如く東京市は今日まで市區改正の經費の爲めに可なり五月蠅き徵稅法を許されて、其方法にて漸く事業を遣り來つたのである、然しながら我大阪市は市經營の電鐵事業の純收益のみを以て市債を起すものとするも、近き將來に於て二千萬圓位の元利償還は容易なるものあるべく、其他特別稅を徵集するとしても、もう少し合理的の方法は之を發見するに難からぬのである。要之將來に發展せんとする大都市の積極的改善計畫の經費を唯國稅の歩一や營業稅の歩割を以て支辨せんとする消極的徵稅によるのは少しく時代の遲れた思想である。吾人は市區改正事業の經費支辨の起債に關しては更に其意見を發表するの時期あるを思ひ、唯茲には其問題の重大なるを敷衍するに止める。

物價騰貴と都市建築

一物價騰貴の現狀

大正三年此次大戰亂勃發の前後は我國の諸物價は近年を通じて最も平靜なる時であつた、若し戰爭が長引くようなことがなければ、我國の物價は騰貴するよりもむしろ低下するの方が多かつたかも知れない、現に或る二三のものは其氣配さへ見へたのであつた、乍併戰亂の影響は初めの想像と反對に漸次緊迫して漸次に騰貴を告げ、今や一般物價は戰前に比し平均約二倍となり、社會各方面の生活難は可なり甚だしくなつたのである、固より海運業者、製鋼業者その他或る特種の資本家側に於ては、資本家のみならず其使用人に至るまで、莫大の收入を得て所謂成金生活の福々たるものあり、物價の騰貴などは何のものかはと言ふ態度である其反面に、普通月給生活のものは日々其生活難の壓迫に追擊されつゝあるような次第である。之を直接交戰國たる英佛露獨等の諸國に比すれば、必すしも驚くべき現象ではなく、むしろ生活の暢氣なるの觀あるとも見られる、即ち物價が騰貴する爲めに次第に苦しき生活狀態に追ひこめらるゝと言ふことは、餘りに此世界大戰亂を無視した話であつて、大体戰時氣分を諒解せざる生活法で遣り通ふそうとするのがそもそもの誤でなくてはならぬ。

政府に於ては物價調節令や船舶管理令を發布して、各交戰國が取り來りし物價の騰貴取締法を勵行せん所存なりしも、國民一般が其の氣分にならぬ爲めか、其法の運用も出來ないのが目下の狀態である。而して其騰貴の狀態は如何と言ふに、米價の一升三十錢少しく以上なるを始めとし、薪炭、野菜、味噌、醬油、魚類等生活の必需品は漸次に騰貴するのみにして、凡て戰前の五割以上十割の騰貴であつて、今後も騰貴こそすれ先づ下落の見込は付かぬのである。其主なる原因は歐米方面の戰時の大破壞大消費が

東洋にまで影響し來る爲めであるけれども、直接の原因としては我國の凡ての產業組織が小規模であることを擧げねばならぬのである。吾人は今此處に其產業組織の小規模なることや、歐洲大戰亂の影響を仔細に吟味するの餘白を持たぬのであるし、又餘白があつても到底的確なる結論には容易く到達出來ぬことであるから、其問題には餘り觸れぬことゝして、唯現時の物價騰貴の實際を數字に現はすのみに止める。

一般物價の騰貴は新聞紙に於て又一般家庭に於て日々其狀況を知り得るところであるが、建築に關係ある材料及人工の價格は其實際を知る機會少きものなれば、左に其主要なるものを擧げて如何に其騰貴率の大なるかを示す。

	現在相場	大正三年相場
煉瓦(並燒)	千箇に付き 拾八圓內外	八圓內外
同 (燒過)	同 拾八圓五十錢內外	八圓五十錢內外
セメント	一樽に付 七圓內外	二圓五十錢內外
木材(松材)	一才に付 二十二錢以上	八錢內外
同 (杉材)	一才に付 二十錢以上	九錢內外
同 (檜材)	一才に付 四十錢以上	二十五錢內外
同 (欅材)	一才に付 七十錢以上	四十錢內外
石材(花崗石)	一才に付 壹圓貳拾錢以上	六十錢以上
鐵鋼材	一噸に付 參百五十圓以上	千圓迄八拾五圓以上
銑鐵材	同 參百五十圓以上	參拾圓以上
砂利	立一坪に付貳拾七圓內外	拾壹圓內外
川砂	同 六圓以上	參圓內外
銅板	百斤(十六貫目)百拾圓以上	五拾圓內外
鐵鍍金波板	(二十八番)二圓八十錢以上 一枚に付六尺もの	八十錢內外
石灰	一俵(八貫)に付六拾錢內外	貳拾貳錢內外
スレート	並板一坪 拾壹圓以上	四圓五拾錢內外
屋根瓦	(谷川一等品) 千枚に付 拾圓以上	五圓五拾錢以上
同	(淡路セノ並品)同 四圓五拾錢內外	貳圓內外
ペント原料	(白亞鉛)一罐 拾壹圓以上 (二十八所)	六圓內外
硝子(並一分)	一函に付 拾八圓以上	九圓內外

大正三年は最近の年度中物價の最も安き時であつたと言ふけれども、其當時の建築材料の價格と現時の相場とを比較するに、大數に於て丁度倍額以上となり居るを發見する。殊に鐵材のみは四倍乃至拾貳倍の高價にして之を戰前の平和相場と戰亂相場とのみに解釋出來ないので、全く米鐵禁輸の國際的關係より生じた

珍現象と言ふの外はない。何れにしても鐵材自給の方策を樹てざりし我國官民の誤り來れる方針は、兵器造船の獨立を不可能ならしめたのみならず、建築にまで甚大の苦痛を與へたことは今更ながら恥かしい次第である。

職工賃金の騰貴は一般工業の勃興に連れ、又生活費騰上の影響を受け、已むを得ざる現象ではあるが、建築工事の如き戰時工業と何等關係なき事業には甚しき苦痛と言はねばならぬ。

人工種類	現在	大正三年
煉瓦工	壹圓五拾錢	壹圓拾錢
石工	貳圓	壹圓參拾錢
大工	壹圓五拾錢	九拾錢
建具工	壹圓六拾錢	壹圓
左官	壹圓七拾錢	壹圓拾錢
塗師工	壹圓五拾錢	壹圓拾錢
鳶職	壹圓拾錢	七拾五錢
土方	壹圓貳拾錢	六拾五錢
手傳人足	壹圓	六拾錢
錺師	壹圓七拾錢	壹圓貳拾錢

之を平均すれば人工賃は大低四割以上七割までにして、倍率に達したものはない。之れ全く建築其ものが永遠平和を基礎とするものであるから、これ以上騰貴するは實際的事情としては許すことが出來ぬのである。他の戰時工業にては倍額以上のものは數多之を發見するけれども建築工業には上記の數字以上に上ることは今後と雖もあり得ないことと思はれる。

二、都市建築改造の大打擊

我國の都市は今や其文明的建設の機運に達し、都市計畫調査の議は朝野を通じて大なる輿論となつて來たのである、大阪と京都は本年より市區改正條例を適用さるゝようになり、今は唯其實行委員組織の官制發表を待つのみである又內務省內に於ける都市計畫調査會も吾人の建議に基き着々其實行の組織立案中であつて、不日其委員の任命を見る筈である。殊に大阪市にあつては永久的計畫の基礎たるべき壹等道路と貳等道路は、一擧にして築造さるゝ準備中であつて、其沿線の建築は凡て永遠的文明式の構造

物築造を期待しつゝあるのである。吾人の今日まで三十年間の我國建築實施の經驗は、正に恒久的建築の建設を最も經濟的にして合理的のものと斷定せしめたのみならず、其の斷案が一般社會の間に認知さるゝに至つたのは、市區改正と共に我國大正維新の第一歩として見るべきものである。然るに上述の如き建築材料と其工賃の著しき騰貴は此大革新の爲めには確かに一大打撃であると言はねばならぬ。

我國の都市建築が木造の半永久的不經濟の構造物より恒久的の永遠經濟の堅牢なる建築に轉化すべき運命にあるは、誰しも疑はぬところであるが、問題は其到來の近きか否やにあるので吾人は今日まで全力を盡して其到着を計りつゝ漸く其曙光を發見した此時期に於て、俄然として建築工費騰貴の大打撃を受けたのである。上記の如く一般物價に連れて建築材料と其工賃が騰貴した爲めに、漸く經濟的に其建設の見込の付きたる都市建築が、當分又其建設の基礎を失ふに至りたるは、甚だ殘念の次第であるけれども、現時の甚しき物價騰貴は全く大戰亂の影響であるものとすれば、平和克復と共に其の建設機運は直ちに復來して、吾人の失望を回復するものと思つても差支はない。

現時の建築工費は大体に於て戰前の貳倍と見積り得るのである、戰前に於て吾人の到達せし經驗上の結論によれば、科學的に完全に近く又經濟上にも合理的の都市建築の工費は大約左の通りであつた。

鐵骨煉瓦造（床、屋根鐵筋コンクリート）
　床面積一坪に付き貳百五十圓乃至參百圓
鐵筋コンクリート造
　同　同　貳百圓乃至貳百五十圓
普通煉瓦造（床、屋根は木造）
　同　同　貳百圓内外

以上の單價は最も一般的のものを標準としたるに過ぎないから、其建物の階數、面積又は特種の配置等により著しき差等を生することを忘れてはならぬ。若し都市建築として經濟上に最も適當であり、構造上にも望ましき程度を概說

するならば、建物の總面坪は最小限壹千坪、階數は五階内外、實質は全部鐵筋コンクリートにして其工費は床面積一坪貳百五拾圓を標準とすると適當とする。之を歐米各國の戰前の建築工費に見るも大体に於て此標準に合致するのである。而して其建築工費と地價とを合算して其利廻りを年七朱とし、それに修繕費、諸税、設備維持費、差配雜費等を加へて其賃貸料を割出す時は、其實用床面坪一坪に付き一ヶ年六拾圓乃至八拾圓に過ぎない計算となるのである。今假りに五拾坪の事務室又は店舗を借入るとして其賃貸料金一ヶ年三千圓乃至四千圓であるから、借り手の方は必ずしも苦痛を感ずるものではない。又建築建設者の側に於ても相當の利廻りとなるのでから、多々益々便するの順序に其建設を繼續し得るのである、斯くして我國の大都市も遂には吾人の理想とする文明的組織を具備するように改造される運命を開拓し來つたのであるが、近時の建築工費大騰貴は上述の採算上の平衡を打破して其建設を經濟的に不可能たらしめたので、吾人は今更ながら其打撃の不幸を嘆つのである。乍併近時著しく勃興したる我國の都市改良計畫の機運は建設費上騰の爲めに多少其發展の氣勢を阻害こそすれ決して決定的の打撃を受くるものではなく、其進展の順風に幾何かの曲折波瀾を附加するに過ぎないと見るを至當とする。

都市建築の美觀は主として其環境の調和より來ること猶ほ吾人の衣服の如きものがある、其實用上の凡ての條件を充たすことが根本的要求であつて其要求の最後に色彩、形式が現はれて來るのである。又之を人体に譬ふれば眞正の美は肉体全体に平衡なる健康の發露であつて局部的の美醜ではないと同じく、都市建築の美は街路に面する建物全体の釣合よき堅實なる構造物であることによりて發現さるゝのである。



建築博覽會開催に就て

會員　准　敬　生

太陽誌三月號に東大敎授鴨居博士の『建築博覽會の開催を希望す』と言ふ論文を載せてある今其大要を紹介して然る後吾人の意見を開陳する。

鴨居氏は我國の建築學とか建築技師と言ふものを批評するにはあらで、現時の我國の建築を主題として其希望を述べられたのであるから、吾人は之を非常に有益な社會の聲として迎へざるを得ないのである。仝氏曰く

『一般の家宅は殆んど數百年前のものを其儘用ゐて居るかの樣である、從來の日本風建築は從來の儘で繼續し、近來建築せられたる西洋風の建築は西洋風其儘で建築せられ、各自隨意の進行をして其間に一向聯絡調和が無い樣に見へる、……強て折衷を加へなければならぬとは申さぬが、日本風のものには大に研究改良を加へんことを希望するのである。』

と言つて第一に現時我國の建築が一も進歩とか調和とか言ふ意味に於て見るべきものなきを嘆き、次に我國の地震國なる恐ろしき運命は、今日如何なる程度まで解決されて居るか甚だ心細き次第なれば、せめて此等の考案に關し博覽會に於て、其圖面なり模型なりとも陳列して之を公衆に示し、其實行を勸誘すると共に猶ほ新考案を募りたいものであると敷衍して居る。

又『火事は江戸の花だと云つて東京は誠に火

事速い所である』、然るに何時まで其儘に任して置くのであらふか、今日でも猶ほ火事を以て花と心得る彌次馬的愚見を以て滿足して居るのであらふか、即ち防火構造の上に明治五十年間果して如何程の進歩を見たであろふか『故に博覽會を開設して是等に關する總ての考案を出陳し其實行を奬勵したい、消防設備の出陳したいのも勿論である』

次に防寒設備の不完全なる現時の我國家屋の狀態は未開人のそれよりも、更に一般劣れるものなるを嘆き、むしろ朝鮮の溫突の進歩的なるを說き、冬期に十分働くことの出來ない爲めに我國の進歩が如何に阻害されつゝあるかを述べて、防寒構造の非常に必要なることを認め、此等は博覽會に其考案を多數に出品せしめて其進歩を促すべきものであると言はれて居る。又此と相關連して盜賊豫防上我國の家屋は殆んど無能力と言ふべきであるから、此点も相當の考案を要すするは言ふまでもない。

次に建築のプランニング即ち室の配置の優劣が如何に大切なるかを圖面と模型にて、一般の人士の頭腦に注ぎ込むことは甚だ肝要である、殊に勝手元に於ける棚の配列や器具整頓の方法などに種々の工夫のあることを十分に知らしむるの要がある、と言つて大に建築技術家の領分にまで立入つて辯明の勞を取られて居る。

其他白蟻の被害及其善後策、材料の防腐、通風、採光等の工夫は博覽會出品によりて如何に多く社會を開發するやは十分に想像し得らるゝ殊に建築材料、室內裝飾品、點燈、衛生設備等の出品に至りては、其出品はむしろ最も徑庭にして一般社會を稗益すること甚大なるものあるべしと言ふ、最後に以上の出品は多少の資金を要するならんも、建築材料商及工事請負業者建築を專門とする人士は揮つて此擧に出でられんことを渴望すると結んである。

以上は鳴居博士の建築博覽會開催を急要とせらるる論文の要點であつて、吾人建築專門に從事するものは確かに頂門の一針であるような心地がする。其論点に於ても何等間然するところ

なく、むしろ吾人の言はんとするところを代辯されたようにも思はれるけれども、其根本思想に於ては甚しき欠陷あるを見出さざるを得ないのである。即ち仝博士は我國の建築改善を比較的輕易に見て居られる爲めに博覽會の如き雜駁なる觀物場に於て

一耐震構造の建築
二防火構造建築消防と機關
三防寒設備
四家屋プランニング(設計圖案)
五材料の防腐、採光、通風、防蟻害法。

其他建築の重要項目を一齋に陳列して、一般人士の建築常識を向上せしめ、以て我國の建築を進歩せしめんと考へられるのである。

乍併更に之を深刻に考ふるに、以上の項目は一として深遠なる學理と豊富なる經驗を要せさるはなく、殊に社會經濟や個人經濟の嚴密なる司配を受け、都市行政の重要なる部分を形造るものなるが故に、博覽會の陳列に於て一般人士にそれらの常識を多少養ひ得ることありとも、それが直ちに我國の建築改善の發端となるものではなく、又建築改善の基礎たることは到底不可能である。吾人は建築の常設博覽會を希望するものであるけれども、鴨居博士が期待さるゝが如き効果を之に望むものではない、建築の常設は主として市民博物館の中に包含さるべき性質のものであつて、市民博物館が陳列し得さる大規模のものは現在都市が有する建築の凡てであると言ふことが出來る、之を詳しく言へば都市の時々刻々建設しつゝある建築物は其外觀內容共に公衆の面前に陳列さるゝのであるから都市建築は一括して之を陳列物と見做し得るのである。

【第一】耐震構造物　の如きも吾々技術者の間に於てさへ深き理解なきものゝ多き時代に、博覽會場の陳列場に模型又は寫眞にて示されたる貧弱なる材料を以て、之を觀たるのみの一般公衆に我國都市建築をなるべく耐震的ならしめねばならぬと言ふ感想を抱かしめることは全然不可能である。若し又專門技術家へと一般先覺の士にのみ其感想を抱からしめる爲めならば或

は多少有効ならんも、それでは博覽會場を利用するの要なく、むしろ吾人の唱ふる我建築協會の努力の方が、どの位か有効であることは疑ふの余地はないのである。文部省の震災豫防調査會は明治貳拾六年來鋭意其研究を續行し、地震の學術的研究と耐震構造の實際的研究とを發表して居るから、專門家にして志あるものは其大体の結果は知つて居る筈である、乍併如何なるものが耐震構造として上乘であるかは單純なる理論や限りある建築技術家の貧弱なる經驗又は其決斷位にては、容易に決定すべからざるものであるのみならず、建築工費の增大するとか建築内外の配置、樣式、利便に拘束を加ふる等の事情を生ずるのであるから、所謂耐震構造の如き非常に復雜なる方程式を一二の設計案や模型にて一目瞭然たらしめ之を相當の專門家をして首肯せしむることは事實上不可能である、震災豫防調査會は十數年來色々と實際の單純なる構造物や模型を造りて之を斯道のものに發表したけれども、唯多少の參考材料たるに止まり、我國將來の建築構造に光明を與へたと言ふ譯にはゆかないのである。故に吾人は我國今後の耐震構造物の適當なる解決案を見出す爲めには、更により以上深き學理的研究と、より以上緻密なる實際的構造の改善法を考案し其良否を專門家の組織する調査會に提出して、互に論難批判し一步一步と解決の途を求むるより外に方策がないのである。之を素人見物の愚評に委せて置くには余りに不完全であつて何等直接の印象や刺擊を與ふるものではない、即ち博覽會や常設市民博物館にて耐震構造の一般常識を養ふ前に先づ專門家の耐震構造研究會を組織し、震災豫防調査會と相待つて我國將來の建築構造に動すべからざる斷定的解決を與ふるの要がある、之れなくして唯徒らに博覽會陳列を開催するも遂に何等の得るところなきは明かである。然れども吾人は博覽會や常設博物館に於て我國の震災襲來の可能率を示し併せて古來の震災の恐るべきものであつたことを十分に一般人士の腦裡に印刻するは、或る程度までは緊要の事柄であると

信ずる点に於ては、鴨居博士と少しも意見を異にするものではない、むしろより以上に其必要を感ずるものであるけれども、唯其恐るべきを知らしめたとて直ちに我國建築の耐震構造を解決し得ると認め得ざるのである。故に吾人は我國民一般をして震災に耐ふる建築物を要求せしめる運動を起すに先ちて耐震構造の實際的解決の途を講究するの更に緊急なるを憩ふるのである。

【第貳】 火災防備 の完全なる構造物に至つては其要求は更に適切なるものがある、連年我國が被りつゝある直接損害は言はずもがな、其間接損害に至つては實に容易からぬ嵩さのものである、又今後我國の經濟力の發展するに從ひ益々其損傷の度合は高まらんとするを考ふる時は、一朝の火災の爲めに建築物が全部烏有に歸するが如き我國現時の狀態は決して此儘に過ごすべきものではないことは、鴨居博士の言はるゝ通りであつて、「江戸の花」たる火事を以て帝都の誇りとするが如き野次馬も今は全く影を竊めたであろふが、悲しきかな我國民一般は未だに今日あつて明日なき此の木造建築の改善を緊急と考へて居ないのは事實である。茲に於てか博覽會を利用して防火構造の建築を一般に理解せしめるようにしたいと言ふ理由は一應尤ものことである、併しながら吾人の見るところでは我國一般人士に防火構造の建築を採用せしめるには、斯かる手緩き方法にては到底其目的を達し得られるものではない、此目的をなるべく早く大都市の建築に徹底せしめるには、建築法令の實施と火災保險業者の嚴正なる態度と此二者より外に途はないのである、而して今日は火災が都市に於て恐るべき大破壞者であると言ふことを態々博覽會にて示すが如き手段は餘りに幼稚であつて、僅かに市民博物館の一教育資料としか見る譯にゆかない、火災防備に關しての法規は我國に於てこそ何等の制裁なしと雖も、今や世界各國の都市に於て其防禦に就きて嚴重なる拘束なきものはないのである、火災保險業者の態度にしても我國の當業者の加く火災防備

上無能力なる建築を無暗夜に保險しつゝ來りし無謀なる遣り方は世界中何處にも見出す事は出來ない、火災保險業者は其業務本來の性質上、被保險物たる建物の罹災率を低下する爲めには全能力を盡すべきであるのに、我國の保險業者は自己の危險なる狀況をも打忘れ、又社會經濟の保護者たる立場をも考へず、唯徒らに同業者の競爭にのみ沒頭し來りし態度は偖りに現代の科學や數理を無視したものであつた、近來料金の協定成り無謀の競爭は之を中止せしと雖も未だ建築の改善を促すと言ふが如き積極的態度に出づる程にまで內容の充實を計つて居ない。けれども火災保險業者の嚴正なる態度は其効果非常に著しきものがあるのは北米合衆國などの實例を見ても十分に了解出來るのであつて、建築法規の勵行以上に其効果を收めること必ずしも不可能ではない、假令へは大通りの呉服店などの建物及商品に對し、木造の建築の場合には絕耐に其保險を謝絕するか、或は非常に高率の保險料を規定せば、彼等は一擧にして鐵筋コンクリートの不燃質構造物に改造するに至るべく、同時に其構造の內容等に就ても殆んど保險業者の命令する如くに設備を施すであろふ。固とより保險業者は同時に重大なる責任を生ずるに至るべければ其要求は最も嚴正にして合理的のものを作成し、一般輿論及社會經濟と好良なる融合の理解あるものでなければならぬ。

建築法規に至つては其實施の緊急なること今日より甚しきはないのであるけれども、我國の政治家は黨爭に忙はしく、未だ建築改善の如き建設的の永遠計畫を樹つるに暇なかりしゆへ、維新以來五十年後の今日まで未だ一回も議場に討議されたことはなかつた、吾人は本年二月建築法規の制定を最大緊急の事なりとして其制定調査會の設置を政府當路者に進言したのも、全く待ち草臥れた結果已むを得ず建議したのであるが、幸に大体に於て採用されたと見へ今期議會に都市調査會設置の案は提出されて、已に兩院を通過したのである。吾人は今後其調査會に於て一刻も早く成案を造り之を來るべき議會に

提出して、國法とならんことを期待するや切ならざるを得ない。

火災の恐るべき損害を與ふることを一般に理解せしめる爲めに博覽會を利用するは、必ずしも不都合の手段とは思はれざるも、之によりて防火構造の建築を促進せしめ得ると言ふ直接の効果はないものと思はねばならぬ、此意味に於て吾人は不幸にして建築博覽會開催の理由を見出し得ないのである。若し過失を少からしめて失火の度數減少を計る爲めならば、學校家庭工場主等に於て常に其子弟に火の要心の講釋をなさしむるを更に適當の方法と言はねばならぬ、消防機械及び其使用法等の進歩は近來非常に著しきものありて、博覽會を利用して其大要を一般に示すは策の得たるものならんも、此等は主として機械博覽會に屬するものにして、建築とは殆んど別種のものであると言ふことが出來る

【第三】防寒設備　は矢張り我國在來の建築に於ては全く欠けて居つたのである、僅かに爐を切り巨燵を設け或は火鉢を用ひ木炭の貧小なる火氣にて手の平足首を溫めて、冬期漸く寒を凌ぎ來りし在來の日本建築は防寒上世界中最も遲れたる設備である、然しながら之を朝鮮の溫突や露西亞のペチカの如きものと爲んとは比較的容易であるが餘り賞讃は出來ない、而して此等の問題はむしろ住宅改良の方面に於て多少研究の價値はあれども、我國の建築大改善の問題の前には殆んど論ずるの價値さへもない、何となれば今日は蒸氣溫水電氣瓦斯等を利用し又は直接なる石炭燃燒により室内暖房の設備は十分に其目的を達せらるゝようになつて居るのであるから、之を無理に木造開放式の從來の家屋に適用せんとする努力は、徹頭徹尾無駄事でなくてはならぬ、若し之を利用して相當の溫度を保たしめんには、家屋の構造に於て多少の修正を加へ、放散面積の縮少を計れば好成績を得ること必ずしも不可能ではない。要するに暖房法の研究は今や長足の進歩を遂げ、如何なる家屋と雖も十分に之を利用し得るに至つて居るのであるから、建築博覽會に各種の考案を陳列した

とて、敢て我國建築の防寒設備を急速に進歩せしめ得るものと認める譯にはゆかない、唯我國民が未だ一般に住宅改良の急要なるを認めず從つて在來の不完全なる採温に甘んじ冬期中餘り勤勉ならざる習慣を養ひ來りし惡弊を取除く爲めには、防寒設備の進歩せる狀況を觀覽せしむるのも一方法たるを失はない。

【第四】 家屋のプランニング を一堂に陳列して優劣や變化の趣味を一般人士に味はしめることは、建築圖案の展覽會にして西洋は勿論我國に於ても最近數次行はれたところである。建築藝術は他の一般形態藝術と同樣に、一美術館内に於ける陳列に於て十分に其趣味を發揮し得るのみならず、其實質的計畫の大要を展開して其優劣を確定的に品評し得られるから、其出品されたる圖案は觀るものをして十分に其建築竣工の曉に有すべき價値を判斷せしめることが出來るのである、此の意味に於て建築圖案の展覽はあらゆる技術界の計畫中、最も容易に又最も明了に其効果を示し得るのである。港灣の計畫機械の設計、兵器の新工夫等は圖面に於て之を明示し得るけれども、建築物程に通俗平易に之を觀者の腦裡に印刻する譯にはゆかない、同時に又建築なるものは機械や兵器のように實物を出陳することは實際に餘程困難であることを知らねばならぬ。左は言へ實物展覽が出來るならば其効果は更に著きものであるべく博覽會としては最も望ましき事である。英國の田園都市經營の會社にて理想的住宅の實物共進會を企てゝ効果を擧げたと言ふ先例は、已に幾回も報告されて居るのである。要之家屋の圖案展覽は其出品さへ時期に適合したる立派なものであり、又其設計が十分に緊張されたる誠實のものであるならば、我國現時の不徹底なる建築の改善促進に多大の貢献をなすものであることは一點疑ふの餘地はないと言つても差支がない。乍併我國の建築を改善するには、可なり根本の深きところより出發せしめねばならぬ特種の事情があるから、圖案展覽の一事を以て其動機を作る譯にゆかないことを考慮せねばならぬのである。特

種の事情とは我國在來の建築が凡て木材を中心として發達し來りし其時代錯誤を此際一擧にして脫却せねばならぬ現代の趨勢を言ふのである

【第五】 建築材料の保存法　や採光通風其他各種の附屬物件の研究を一般に知らしめる爲めに博覽會を利用するは最も便利な方法であるけれども、此等は古くより已に各種の博覽會や展覽會に實行され來りしものにして、今更事新らしく言ふべき問題ではない。殊に建築材料としての天然産物たる木材、石材を始め、人工品たる煉瓦、セメント、各種塗料、疊表、敷物類建具、金物類より日用品たる什器家具裝飾品等に至つては、如何なる博覽會にても大なる面積を塡充せざるはないのである採光通風その他衛生上の設備に關しては余は其展覽を見る機會に出會せざれども此等は今後衛生行政の進歩と共に十分徹底せる常設展覽の組織を見得ることゝ考へられる。

以上の所論を結合すれば、建築博覽會の開催を甚だ緊急の事の如く考へられるに拘らず、實は餘りに其範圍廣汎に過ぎ、何等纏りたる効果を擧ぐることは出來ないのである。若し强いて其開催の必要を唱ふるならば、都市住宅とか郊外の職工住宅とか或は事務所建築とか言ふ局限されたる問題を擇び、我國の有爲有能の技術家を全部網羅して、緊張せる態度と、眞摯なる誠意とにより之に賛同せしめ、相當の準備期日を存じて之を開催するようにせねばならぬ、若し然らずして二三物數寄なる人士の圖案を蒐集し展覽を公開したとて何等社會に貢獻するものではない。吾人は建築博覽會の或る程度までは我國の建築改善に有効なるものと信ずるものであるが、其開催の內容を十分に研究して之に從事せねば、全く無効のものとなり終る場合多きを考ふるものである。建築博覽會の細密なる條項に就きては他日更に論ずることゝし、此處には唯一般的建築博覽會の無意味なるを述べるに止める。

□□□　□□□　□□□



婦人と衣食住

會員　葛野壯一郎

（一）

吾々建築家として住居新營或は修理模樣換等の問題にふれる毎に、それが主人よりは寧ろ主婦としての婦人に最密接なる關係が有るにも係らず、大抵は主人單獨の趣味意向で決定せられ婦人は是れに何等の參與するところが無く至極ノン氣に、何ンナ家が出來しやうが一向利害相關せずと深くも意に止めないと云つた風に見受けられるので有ります。是はひとり家庭に於ける婦人のために甚だ惜むべき事で有る計りではなく、建築殊に住宅建築の向上發展といつた方面から觀ても、吾人建築家の頗る遺憾を感せざるを得ない事實で有ります。

私は平素から吾邦住宅建築の改良進歩の遲々としてすこしもはこばないのは舊來の因習及び貧弱なる國民的經濟等その素因は種々有るには有つても其大部分が、吾が一般婦人の居住の問題に甚だ冷淡なるこう云つた態度にあると觀察するのが至當の樣に考へて居るので有ります。住居に關して日夕最切實に利害を感ず可き筈の婦人が何等その方面の素養も研究も趣味も抱負もなく、住家建築の如きは全然是を男子の仕事に一任して、つとめて其ンナ問題には寧ろふれない樣な態度をとるのは全体如何した譯のもので有りませうか。主客顚倒の甚しきもので吾人の甚だ了解に苦しむところで有ります。

（二）

衣と食と住の三ッの内で婦人の趣味性が最著しく衣の一事に傾いて居るといふのは至極明白な事實で有ります。百人の内で九十九人迄の婦人は何はさて置いて衣服と裝具が最大切だと考へて居ります。殊に若い婦人にあつては其頭腦の六割乃至七割を支配し左右するものは一に衣服と裝具の問題で有ると觀てまちがひは無いので有ります。甚しいのになると是を命から二番目に考へて居るつと云つた有樣で、然も此傾向は時代とともに益々增加の嫌が有るので有ります。

私は衣に對するかくの如き婦人の態度については必ずしも是を無理だといわないのみならず寧ろ同情を以て觀察するもので有ります。由來女性は男性に比して元から裝飾的で、その身邊を出來るだけ美くしく立派に奇麗に着飾る事を以て本能とするが如き特性を持つて居るばかりで無く、是を一面多數男性の側から觀ても進んでソンナ風に美くしく着飾つた婦人をより多く觀迎する傾向の有るのが先づ人情普通の事で有ります。

此問題を單純に道學的見地からして華奢だ淫逸だと一概に排斥してすこしも顧みないのは甚だ皮想の考方で、ソコには男女兩性間に通じて動かす事の出來ない一道の情脈から自然と流れ出る止を得ざる追求から、勢ひ左樣云つた傾向を生ずるものと觀察せらるゝので有ります。

由來大自然は或場合は女性よりも男性に、また或場合は男性よりも女性に精神的或は肉体的優越性を、一見甚だ不公平に與へて居るが如くみへるので有ります。獅子とか鹿とか孔雀とか鷲鳥とかの類について觀ると雌より雄の方が遙かに威容の堂々たるものが有るが、中には是れと反對に例令ば昆虫類のあるものの如き特に女性に著しき優越性を附されて居るものも有り、また兩性間にそれ程大差のない一眼觀ただけでは容易に雌雄の區別の出來ない類のものも鮮くはないので有ります。とに角此點に關しては自然は甚だ町々で公平でないかの如く感ぜらるゝ

事だけは何人も容易に認め得る事實で有ります

是を人間に就て觀るとヤハリ如上の相異が有つて一般には女性に比して男性が體力も智力もすぐれ其威容に於ても甚だ多くの優越性を具へて居るので、私は婦人の先天的裝飾性は其基點をこういふところから發して、つとめて其欠點といつては語弊が有るが兎に角男性に比してより劣つたる資性天分の一部を補ふ可く自然が命ずる努力の結果ではあるまいかと想像するので有ります。婦人が何よりも先に衣服裝具に憂き身をやつし進んでは是を命より二番目に大切に考へるのも、女は其天分の裝飾性を發揮して先ず奇麗に立派に着飾らなければならぬといふ自然の約束からする結果で、是を以て直ちに虚榮心の發露だとか華奢だ淫逸だとしりぞけて仕舞ふのは甚だ酷で、男子として自然界の消息に通じないまた甚だ同情のないはなしだと思はるゝので有ります。

尚此外に婦人の衣服追求欲については、その智力の男子に比して劣等性なるところから歸因する、女性の社會的地位の欠乏に因る事をも併せて考へなければならぬので有ります。即ち婦人は男子に比して著しく社會的に個性を表現す可き地位名望の欠けて居るといふ目下の事實で有ります。

勿論少數の婦人は醫師となつたり敎育者となつて主婦といふこと以外に『先生』の尊稱もうくれば官吏となつて判任何級俸かも賜り、高貴に奉事しては立派な高等官の列にも入つて居るが其數甚だ僅少で、婦人界全体からすれば眞に九牛の一毛に過ぎないので有ります。つまり婦人の殆んど全部は『夫人』と呼ばれるか『奥樣』『おかみさん』といふか其稱呼の如何を問はず一家の主婦といふ地位以外或はまた善良なる妻として賢明なる母として以外何等社會的に認められ可き地位も名譽も無い、ただ單に其等の名望に隨順する外はないので有ります。したがつて女性が獨立せる自己の何物か優越性を表現せんがために身邊直接の衣類裝具を以て出來るだけ立派に奇麗に着飾り、形式的威容を以て他に誇示

せんとするが如き觀念を知らず〳〵助長するのは、一面からみて是亦止を得ない自然の數で是れを啓發し適當に指導する事が最緊要の事を信せらるゝので有ります。

（三）

理由の如何を論せずとにかく婦人は衣を以て其第一義とする事の事實は至極明白で有りますが、是れに次ぐものは食で有ります。主婦として一家を處理する必要上食の問題には左樣呑氣に是を傍觀する譯には行かない、身分の相異家庭の如何によつて元より樣々では有りますが何れにせよ全然是れに關與しないと云つた樣な場合は頗る稀で、大抵の婦人は生涯是れと距る事を許されないので有ります。然し此事實が婦人をして特に食事に趣味を喚起し其頭腦の殘二三割を全く此問題に沒頭せしむるかといふに決して左樣では無く、實際には私共の想像するよりは是亦遙かに其趣味性も淺く特種の研究の如きは殆んど閑却されて居る樣に察せらるゝので有ります。

女は美くしい衣類さへ有らば案外廉食でも滿足すると認めらるゝ位、此方面には全く冷淡な類の人もすくなくは無く、眞に食事に趣味と意見を有し日本人として將來の國民的食事の調理方法如何の如きは、すべて男子の考可き問題として婦人の世界から取殘されて居る樣に觀察せらるゝので有ります。家庭に於ける食の問題は同時に一家の經濟と密接に關連し男子としても全然是を放任する譯に行かない事は勿論では有りますが、是を唱導し研究し趣味を以て其解決向上を計る事は主として婦人の努力に待つ事甚だ大なるものゝ存するは明らかで有ります。

家庭以外の食事即ち料理店に於ける場合の如きは其九分通り迄は男子の領域で、婦人の是れに出入するが如き場合は甚だすくない、從がつて其調理の如きも全然男子の趣味を基礎とし婦人は何等顧慮せられて居らないが如きは、現代の吾が社會組織の欠點とはいへ、食の問題に附隨して婦人としては相當の研究を要する事實の如く私は信ずるので有ります。

（四）

最後に住の問題で有りますが是れは食の問題と同樣婦人としては日夕切實の關係を有し其利害の及ぼすところ甚大なるにも係らず、同樣全く是を男子の世界に放任して多く顧みられない有樣で有ります。一家の主婦として其大少を問はず家事を處理し兒童を哺育して行く上に於て其住居が如何に密接に是れに影響するかは是非とも忠實なる主婦の頭腦に映じて來なければならぬ事で有ります。尙進では各室の配置如何臺所の設備小供室の構造物入戸棚の準備洗濯物干便所湯殿の末に至るまで男子だけの考へでは如何にしても滿足な解決を得られない、是非とも婦人が是れに參與するといふよりは寧ろ主となつて專門家を啓發するところが無くてはならぬと思はるるので有ります。

元來住宅建築の進歩改良の如き問題は理智一邊の男子の頭だけて決定しやうとする事かすでに非常な間違を生ずるもので、吾邦從來多く唱導せられた此方面に關する論議も、其大部分が實行に至らない主因は一ツに婦人が是れに對して何等關與しないといふ弊に歸すると觀らるゝので有ります。事實終日實社會に活動する男子の頭を以て、眞に居住問題の凡てを理解し得ない事は勿論、その一分すらも到底滿足な解決を得ないと云ッた方が至當で有ります。

單に住宅を新營或は改築の場合にのみ限らず其時々の修繕增築模樣換の如きに遭遇しても、是れが管理の全責任が婦人に在るを當然とする以上、是を如何に處理し經營するかは是亦最多く婦人を煩すを以て至當としなければならないので有ります。最淸潔に完全に其家を保管し四季折々の內外裝飾は勿論の事、生活上實際必要の是れに增補模樣換を加へ、最經濟的且つ愉快なる住宅の樂天地を實現する事は是を婦人の仕事として最ふさわしく且つ頗る興味ある事で有るので有ります。居住の問題の大半或は大部分が夫人と令嬢と建築技師との間に合議せられて最理想的なる住宅の實現せらる歐米の實例に觀て私は更らに一層此感を强くするので有ります

（五）

是を要するに衣と食と住の三ツに於て衣の一面に著しく偏して食と住は甚だ閑却されて居るのが現代婦人界に於ける實際で、殊に最後の住の如きは全然忘れられて居る有樣であります。婦人が特に衣の一面に趣味を有し是れに執着する事は女性の天分より或はまた其社會的地位の現狀より全情を以て觀る可きもので有るとしても是を適切に誘導し開發するだけの必要なる事は勿論で有ります。

食と住の二面に關しては新らしく婦人界の趣味を喚起し今後大ひに其改善進歩に充分なる努力を煩さなければならぬので、是等の点に於ては勢ひ女子普通教育に關與する識者の一考を要する次第で有ります。私は教育といふ事には餘り知識を持つて居ない一技術家に過ぎないのでありますが、女としての女、善良なる主婦、賢明なる母としての婦人を養成することが、女子普通教育の第一義であるならば、それは婦人を最多く煩はさなければならぬ直接衣と食と住の學問でなければならぬので有ります。

讀むといふ事と書き記す事の以外に主婦として社會が要求する婦人は、眞に衣食並に居住の問題について正しい理解と豊富な趣味理想と相當な豫備を具へたもので有る事で、現代の教育者は果して是れに滿足な解決を與へ居るや否や私は甚だ疑問を有する者で有ります。

國家の健全なる發達は國民の衣と食と住の改善向上から創まらなければならぬので、國家としては最緊要なる問題で有ります。然も吾邦現狀の如き其何れも不安全を極め和洋の二形式互に混同重復して何人も其繁雜不經濟に忍び得ざる今日、進んで其改善歸決に努むるが如き事業は最重大なる國家問題の一ツで婦人のまさに奮起す可き時では有りますまいか。現狀のまゝ是を今後猶幾十年か繼續するやうな場合となるならば日本を亡すものは其衣と食と住とでは有るまいかと私は心ひそかに患ふるもので有ります

（完）



大阪市の細民住宅に就て（三）

會員　U・K・生

細民居住地域　大阪市内に於ける細民住居の個々に就て、その規模内容を説明せんがため、前號に於て統計的數字と二三の實例を圖示したが、尙これらの集團則細民居住區域に就て見多少記述して見たいと思ふ。

一般に細民部落貧民窟と稱するのは何れも都市に於ける最も悲慘なる細民居住地域に與へられたる通稱にして、その區域を明瞭に區劃線を以て限ることは殆ど不可能であるが、大都市に於ては必ず大小各種の集團が土地の地勢により經濟上の關係により、幾方面にも渉つて散在して居るのである。

東京の土地がその一半に起伏あり自から高燥濕潤の差も生じ、從つて從來細民居住區域がある程度迄これら地勢上の關係を離ること得なかつたのである、然るに大阪の土地は東南の一隅は丘陵に跨ると雖も、殆どその大部は縱橫に貫流せる河川を經緯とし、坦々たる平地に延び、勢同區域も特種の地勢關係を有せず、只當時の市の塲末則郊外接續地帶の一部に限られて居つた樣に思はれる。

紀州街道を狹んで行人を惱ましたと稱する南部舊長町方面（第四號本篇參照）及北部北野の一部等何れも近き過去に於ける市郡の境界に沿ふて居たのである。急激なる都市の膨脹は數年ならずして此等の地域を包み、地價の昂騰延び

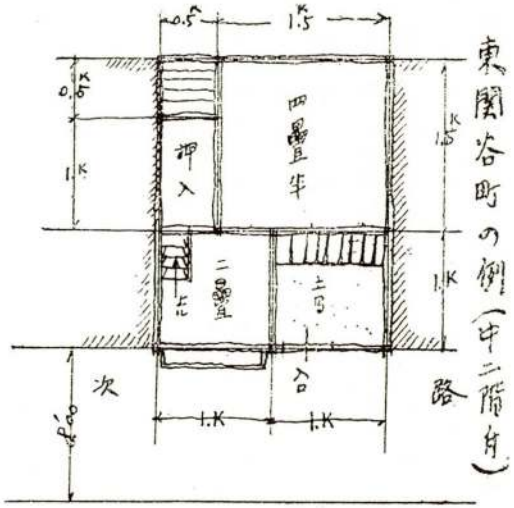
ては家賃の騰貴等彼等は更に移住を要議なくせられ、今日の今宮木津西濱長柄等が塲末にその居住區域を求め得た譯である。

尙又細民住居區域が塲末であると同時にその居住の大部分が常に裏家であることは古來少しもかわらぬのである、殊に大阪に於てはこの各種の裏家を通じて一種特別な型にはまつて居る樣に思はれる、大正五年末大阪市内の家屋數は二十一萬七千七百十軒餘にして内表家十四萬千九百七十四軒、裏家七萬五千七百三十六軒、則平均表家二軒につき裏家一軒强に當つて居る、尙これを町別について見るに東南西區の一部則ち大阪市の中心點に近き部分は殆ど裏家の影を止めず中心點をはなるゝに依て裏家の表家に比しての率を增加し、比較的新しき市輪劃線部に及んで最もその率の高きことを發見するのである、官公衙學校兵營工塲等の大建築物が所々に布在して、表家裏家の率に少なからぬ變動を與へて居ることは無論であるが。

大阪市内の細民住居はその地域が市部の境界線に近く且裏家の多い方面に限られて居ることは事實である又細民も生活難に追はれ少しでも經濟上の負擔の少ない方面に家を求めて數をなし群衆の勢を以て社會上の各種の壓迫を幾分なりとも輕減せんとするのは同然の勢と見ねばならぬ。

大阪市南區東西鬮谷町、廣田町、日本橋筋東丁目、下寺町、推寺町等の裏家は、現時決して極貧者を收容して居るものばかりではない、然し細民居住區域としては幕末以來の歷史を有し明治三十七八年頃迄は尙南部塲末の一部を形成して居つたのである、長町當時の面影はこれを偲ぶことは出來ないが、裏家は細民長屋の型とせられ爾來各方面に出來るものこれに準じ決して、これ以上のものが出來て居るとは思へない、かゝる諸點よりして同方面の裏長屋は尙研究する餘地もあり、また今日でも市内に於ける貧民部落として一般に紹介せられて居るにをいておやである。

地域は一區劃大概二千坪乃至五千坪位にて、



街路に沿ふ表家を除いて、内部は凡て一戸當り地積十坪以下の裏長屋が狹隘なる通路を圍んで雜然と配置せられ今日にはて僅少なる餘地をも發見することを得ない迄に建込んで居る。

長屋は一戸建坪六坪位迄を標準とし、中二階付のもの比較的多く一棟四五戸より十戸位迄に仕切られ、間取構造の如きも至極簡易にして殆ど千遍一律である。

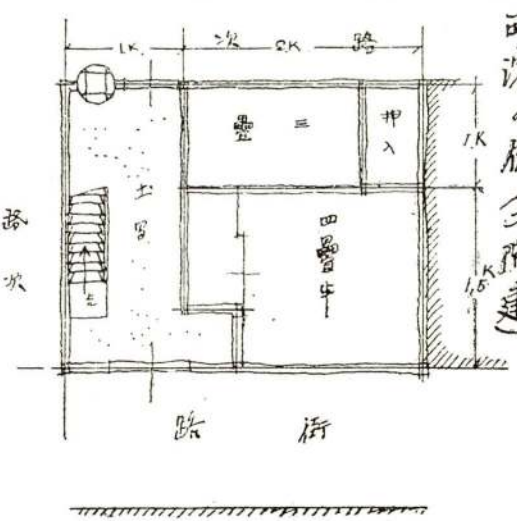
一戸軒別の建築上の施設に付ては考慮すべき點は何れの家を通じてもこれを發見することは出來るが個々の家屋問題よりも、この區域に於ては先その集團に對し周到なる注意が最も必要であると言ふ事柄は實地を一見したものゝ直に想到し得らるゝ事實である、一戸の間取構造等に於て生活上多大の不都合も感せず家庭の城廓となることが出來ても、陸續建築せらるべき長屋集團の取扱ひが不適當であつたならば、採光に通風採溫に直に缺陷を生じ最も非衛生的なる家屋の集團となるばかりでなく各種の災害に對して最も危險なる區域となり果てるのである

從つて同地域內に於ける通路（路次、私道）の配列、家並、街路との連絡、共同使用物の配置等は最も注意すべき諸點である、東關谷町の一區劃地は約四千七百坪の面積は表家九十三戸裏家百八十三戸合計二百七十六戸の家屋を有し、裏家一戸平均十三坪位に相當して居る、この面積は決して僅少なりと稱することを得ざるが、

事實は通路の不秩序、家並の不規則等により、地所の空費頗る多く裏家一戸當りの坪數八坪を超ゆるもの至極僅少である、若し建設當時に於て上記の事項につき今少しの注意を拂つて居つたならば、優に三割強の戸數を增加し、陰鬱なる通路の擴張を實施することが出來得たに相違ない、地所の經濟から考へても今日大阪の各方面に尨大しつゝある細民居住區域に對し充分研究する價値があると思ふのである。

尙街路と通路との連絡は、通路に沿ふ戸數の多少地形の良否等により、適當なる通路を開き安全なる交通を計らねばならぬのは勿論である然るに今日この方面に限らず、木津西濱其他の區域に於もて單に通路の幅員狹少であるばかりでなく、大概表通りの家並の軒下を通過して始めて裏家區域へ到達するのである、(軒下通路は幅員半間乃至一間半長さ表家の奥行に準じ少なくとも四五間稍々長きもの七八間に及び、その大半は仕切戸又は目隱し板塀の類を取付く。

此の建築上の風習は舊幕時代街路の整善及火災防備の第一策として、各戸の棟高軒先の參差高低を禁じ、尙町界、路次に毎に木戸を設け自身防衛を奬勵したる遺風の今に存するものと見

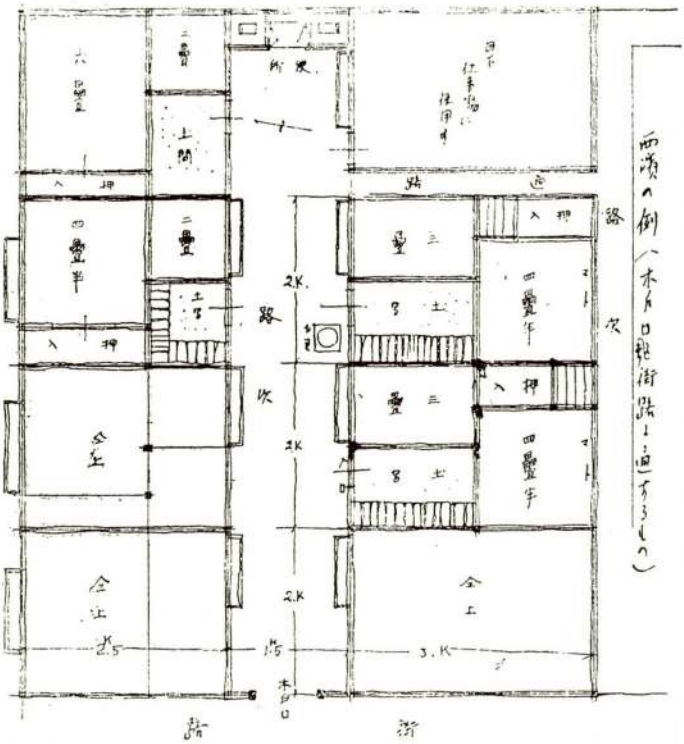


西濱の例(二階建)

ることが出來る。

從來の慣習必ずしもこれを打破すべきにあらざれども今日迂曲屈折したる路次を圍みたる數

百の裏家に對し唯一の交通路としては、萬一火災震災の刹那を想到したならば思ひ半ばに過ん



と思ふのである。

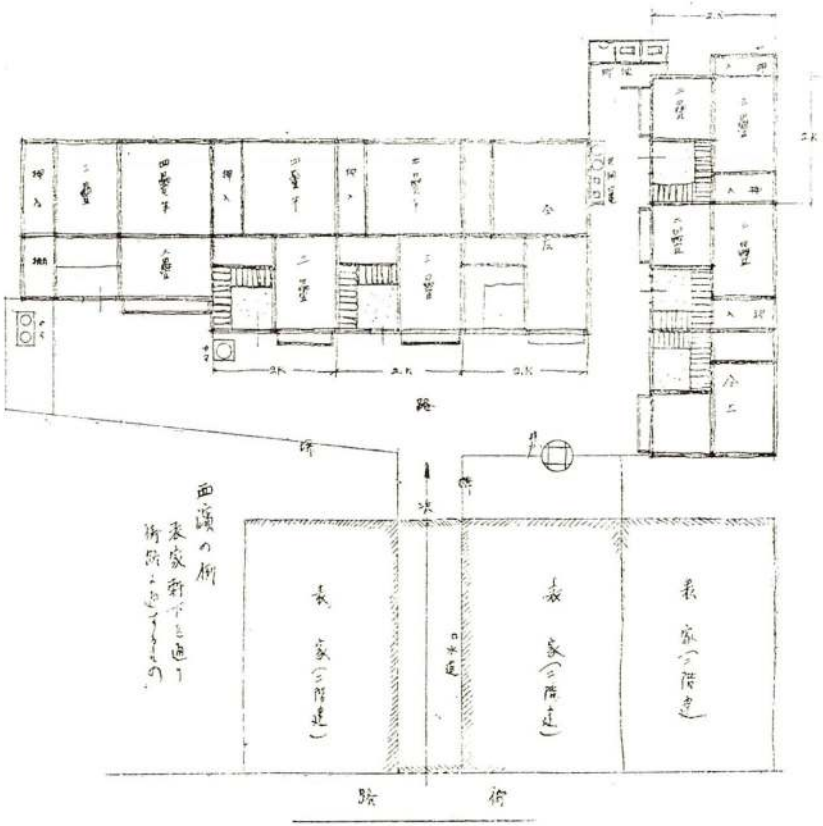
火災は木造家屋の免るゝことを得ざる災厄である、悲慘なる境遇に日夜呻吟する住民をして最も危險なる淵に臨ましむることは決して策を得たものと思へない、防火構造の應用は單に資産階級の建築にのみ法せらるべきでないと言ふことを憚らない。

街路と通路との連絡路かく窮窟なる以上通路もまたその幅員概ね狹少にして六尺前後を最多とし、二間に及ぶもの實に僅少である、便所專用の長屋に對しては屎尿處分のために幅員二三尺の所謂肥取通路を更に網目に編み込むのを常として居る、路面は無論何等の鋪裝を施さず（稍古き通路には往々瓦又は煉瓦敷となせるものあり）兩側の長屋より日々吐出す塵芥のために著しく高上しつゝある從つて家屋床高との關係を益々不良ならしめ雨期に際しては、著しく區域内の衛生狀態を損ふ例は甚多いのである

通路は此の種の區域内にあつては、單に交通

路とのみ考へることは出來ない實際住民は炊事場洗濯場仕事場乾燥場とあらゆる用途に供し殆ど屋内と撰ぶ處なき位である、また一面日光と空氣との唯一の射入路である以上は現在の六尺前後の幅員にては實に心細い譯である、通路の幅員擴大はやがて家屋の高さを或る程度迄增加し得てその容量を多くし氣領を充分ならしめ得る所以である。

大阪市南部の裏長屋二階建平家建を通じ凡そ其の標準となるべきもの數十戸（屋内容積約一千立方尺乃至四千立方尺）につき、屋内容積と現住人員との比率を算定せるに一人當りの氣領二百立方尺を越ゆるもの至つて尠く、百九十



乃至百八十立方尺を最多とするのは東京のそれと殆ど同率を示して居る、西濱北通り某家二階建建坪七坪半現住人員五所帶十九人にて、これをその容積二千九百十六立方尺を人員に割當て一人の占有する氣領僅かに百五十三立方尺となるが如きは、最も慘悲なる一例と見て差支ない

氣領關係は衛生上の見地より、道義上の問題より各國何れも嚴重なる制限を置き、如何なる場合にても二百立方尺未滿に低下することを許されないのである、本邦木造住宅にてはその構造上同一にこれを律することを得ないが、陰鬱なる居室沈滯せる空氣は密集居住せる住民をして益々健康狀態を不良ならしめ尙又精神上の惡弊を根蒂よりこれを絕つこと更に至難と言はねばならぬ、然しながら細民住宅改善の意義もまたこゝにあることを知るべきである。

□大　火□

いぬる安元三年四月二十八日かとよ。風烈しく吹きて靜ならざりし夜、戌の時ばかり、都のたつみより火出で來りて、いぬゐに至る。はてには朱雀村、大極殿大學寮、民部省まで移りて、一夜が程に、塵灰となりにき。火元は樋口富小路とかや、病人を宿せる假屋より出で來るとなむ。吹き迷ふ風に、とかく移り行くほどに、扇をひろげたるが如く、末廣になりぬ。遠き家は煙にむせび。近き邊はひたすら焰を地に吹きつけたり。空には灰を吹きたてたれば、火の光に映じて、あまれく紅なるなかに、風に堪へず吹き切られたる焰。飛ぶがごとくにして、一二町を越へつゝ移り行く。その中の人現心ならんや。或は煙にむせびてたふれ伏し或は焰にまぐれて忽に死にぬ。あるはまた、僅に身一つ辛くして遁れたれども、資財を取り出づるに及ばず七珍萬寶、さながら灰燼となりにき。（方丈記）



佛寺建築の將來

會員　波江悌夫

（一）緒　言
（二）佛寺建築の意義
（三）佛寺建築の現狀
（四）佛寺建築の將來
（五）結　論

（一）緒　論

宗教の權威一度地に墜ちてより、科學的文明の光はあらゆる宇宙の不可思議を說明し、究明し、閃明し盡しつゝあるかの樣である。幾多の學者は宇宙の眞理を觀測考究し、幾多の發明家は大自然の征服に必要なる武器を工夫し、幾多の技術家は人工の精妙を盡して心界の靈妙を機械に實現しつゝある、幾多の藝術家は自然の眞理を感得して人間の世界を開明するに努力しつゝある樣である。斯くの如き科學的文明の隆盛時代に於て建築界は最早中古時代の樣な宗教建築の隆盛を見ることは出來ない事になつてゐる。

事實は何よりも雄辯である。兇猛なる獨軍が射撃の精妙を誇りつゝ北佛蘭西の歷史的著明な寺院を破壞しつゝあるのは何を語つて居るのだろうか。各都市の寺院の時鐘は永い間の宿を追はれて砲兵工廠の窩の中に抛げ込まれて居るではないか。羅馬法王も今は手を束ねて世の成行を傍觀するの外はないのである元より今日の世界的大動亂は二十世紀に於ける大變態であつて今後の世界の思潮に大なる激變を與ふる結果を齎らすに相違ないにしても、人間の爭鬪に倦み果て宗教の全盛時代の到來すべき事は信じられない。從つて寺院建築の勃興は期して望まるべきもないのである。

今日は所謂公共建築の全盛時代である。銀行、會社、官衙學校、病院、劇場、公會堂、青年會館、各種事務所「デパートメントストアー」工場倉庫等に至る迄、社會的公共的性質を帶びぬ建築は殆んどないと思はれる位である。畢竟今日の時勢は科學的文明の齎らした人間の努力實現時代であつて、人間と人間

との衝突、交渉、共同、協力を實行して居るのだ、幾多の君主政治や或は憂人政治が破壊されて、民主的公衆的、共有的政体の實現されつゝある時代である。從つて人間本位、國民本位公衆本位の建物が經營され、計畫され實現されつゝあるのである。

斯くの如き時勢に在つて、我國の數多の佛寺建築が日に月に滅亡し行くのは止むを得ぬ現象であらねばならぬ。佛寺建築の破滅燒失頽朽は必ずしも佛教の破滅頽朽を暗示しつゝある譯でもあるまいが、佛教の權威は明治時代に於て一先づ失はれ、大正の今日は其善後策に苦しみつゝあるの時代である、東洋の文明を代表して居る佛教が今日の見慘な狀態に沈倫して居るのは佛教其者の惡い爲でない、時勢の然らしむる爲めといへば申譯もつくが、要するに佛教徒自身の招いた因果であられねばならぬ時勢に順應することの出來ぬものは敗殘の身となるのは止むを得ぬ眞理である、優勝劣敗、適者生存の原則に從つたのである。

乍然今日の佛教界は漸く目が醒めて來た樣である。生存するがためには適者でなければならぬ眞理を悟つて來た樣である。大正の佛教は明治の佛教とは既に時代が異つて來なければなるまい既に覺醒して來た佛教の前途は只改善あるのみである、新しい意義を樹立し、新しい天地に新しい解譯を下さなければなるまいではないか。此時に當つて佛寺建築の將來を考究して新時代に順應するの策を立つること必ずしも、不必要ではあるまいと同時に、豈に佛教のため乍りでなく、社會國家の爲である。自分は佛教信者ではないが社會的建築觀によつて聊を研究かして見たいのである。

佛寺建築の意義

吾國に於ける佛寺建築は我建築界の覇王であつた、我國の建築史を繙くものは驚膽の外はあるまい。佛教が三韓を經て渡來した時代にも時の政府の有力者の經營した寺院は相當に在る。佛教が隋唐の文明と同伴して直接渡來してからは國家を擧げて佛教の光に浴する樣になつてしまつた、聖武天皇が畢生の事業とせられた總國分寺の建立や各國分寺の增設時代には國庫を空ふして佛寺殿堂の計畫實施に日も足らぬ有樣であつた。

此等の時代の佛寺は曾に宗教建築として取扱ふことは出來ない樣である。由來建築は凡ての藝術の母であるとせられて居るが奈良朝以前の佛寺建築には宗教建築の目的以外に別途の意義がないでもない。當時の佛教は實に支那文化東漸の急先鋒であつたが大和朝廷は佛教の渡來と同時に隋唐文明の光に打たれたのである。佛教其物の難有味よりも、燦爛たる支那文明の精粹

に驚嘆せざるを得なかつたのである一世の識者は擧けてこれが輸入に努力する様になつた、佛敎は大手を振つて神國の靈界を活歩する様になつた。そこで反動が忽ち起つて新文明の輸入に賛成の徒輩も、宗敎上の嫌厭の情に驅られて世のハイカラ黨と戰ふに至つた様である。

それも奈良朝に入つては最早輸入文明の權威と光とに壓倒されて國粹保存論者の一派は全く聲を潜めてしまつた。そして利巧なる佛敎界の先達は新文明の利器を利用して愚民細民の救濟に努力し、飢ゑたるものにパンを與へ病みたるものに施藥するを忘れなかつた。そして彼等佛敎徒の恩惠は啻に心靈上の問題ばかりでなく、道路の修築、橋渠の架設、家屋の改善、溝渠の開鑿等社會生活に必要なる新智識を活用敎授するを忘れなかた。彼等の社會的地位からいへば九重の雲深き處に專横を逞ふせる徒輩の威力よりも、四方救民濟度のために奔走苦心せる雲水の實力がより多くの効果を擧げてゐる。それであるから新文明の餘弊に苦しみ、奸徒の放逐に從事した當時の志士も新文明の實益を社會に敷殖した連中の力を敬するに躊躇しなかつた様である。

されば延暦帝の遷都計畫漸く成るや、空海、最澄の新人をして入唐せしめ歸朝後新輸入の佛敎を傳法せしむるに至らしめた位である、要するに奈良朝の佛敎隆盛時代に建立された佛寺建築は、之を宗敎建築といはんよりも、寧ろ當時の有力なる公共建築であつた。祭政一致の上代の思想も殘れる平城宮内に導師だの大傳などの新官が設けられて、政治と拜佛との混亂を始めてからは、南都の平野に甍を並べたりし殿堂は主として當時の上流社會の社交の集合所であつたとも觀られる、上流子弟の敎室でもあつたろう、養成所でもあつたろう、或は又愚民賤民の敎戒を授けられ善男善女の指導開發の見學所でもあつたに違いない。

建築史上に學んだ所に見ても此等奈良朝の寺院が古代希臘の寺院建築に似て居る点が多く、後世寺院とし いへば、深山幽谷に設けられたに

比して當時は市内の主要部に建てられて居る、從つて其平面圖は公開的であり現世的であり、參拜の善男善女は親くし殿内の佛像を拜崇結緣する事が出來たのであつた。

斯くの如き寺院建築はこれを單に宗教建築とのみ觀ることは出來ないと思はれる、寔なる哉當時の建築が主として寺院建築に限られたるには自からなる理由の嚴存してゐるのである。

平安期に入つては佛寺建築は都市から離れて建てらるゝに到つた、弘法傳教兩入師歸朝後新佛教を提げて新たなる活動を始むるや夫々比叡、高野の兩山を開いたのみならず、深山幽谷を探れて各所に草庵を結び、現世の享樂より未來の極樂を願はしむる樣に教化の主旨を宣傳するに至つて、佛教の社會的任務は一變せる觀がある。從つて寺院の社會的交涉は主として佛教徒の專有に歸し、社會を離れて別社會を建設するに至り、三千の僧房より發する梵鐘の響は林中の鳥を驚かして、俗人の膽を洗滌するに力あつた。其結果却つて此等の別天地は俗界を睥睨して山法師の暴狀を見る樣になり、徒る處佛徒の別世界は俗社會と對變体な因緣を付する樣になつて來た。

此の時代には寺院建築は俗人を遠ざけ、俗緣を遮斷するの目的から、奥殿は採光不充分なる暗黑の裡に設け、殿堂はいやか上にも俗人を威壓するの形式を有し、更らに俗緣に一路の融通を付する爲めに疊敷として彼等の參拜勤行に便せしむる樣の設備を有して居る。從つて今日の社會時勢より觀察すれば、特種教育を司どる大學問所たるに相當し、三千の僧徒は此の大學校の學生に似てゐる。從つて彼等の或者は時に數里の路を遠しとせずして都市に入りて其食欲を滿たし、教戒を破る程の墮落生を產出するの傍、其優等生は進んで實社會の教化救濟に從事しての結果都市に於けるの出張所として市外寺院の再建を觀る樣になつた雖ども尙市外に近くを設け、彼等と俗塵との隔離を忘れなかつた樣である。

鎌倉時代に於ける佛寺建築は亦別途の觀察を下さなければならぬ。平安朝八百年の大平の夢に成りし幾多の寺院建築は藤原氏の隆盛に伴ひて多くは其檀越となりて資金の融通建築の工費を求め得ると同時に各代の關白は時に豪華を寺院の建築に誇り學問所は亦一極の別莊的建築と變轉し來れるに反して、武門天下の權を執つからは、時世は亦一變せざるを得ざるに到つた。

鎌倉時代の武家生活に離るべからざる關係あるものは禪宗である。臨濟曹洞の二門が北條歷代の執權の愛顧を受け、當時の智識階級に新たなる思想を注入して、簡明なる禪生活に入らしめた事は我國家の最大幸福であつた。賴朝が府

を鎌倉に創むるや、天下の耳目を一新して其武家政治の威力を徹底せしむるに努力せしと同時に、亦天下の愚民を驚かして南都の東大寺の大佛殿再建に多大の工費を抛つた。武勳赫々たる勇弟を亡ぼして悔いざりしは是か爲なるべし、僧重源のために大勸進元たりしは是が爲なるべし、當時の國民思想には佛敎は離るべからざる根源をなして居た、西行が右府の邸を訪ひて銀猫を與へられた如きはよく此間の消息を語るものである。

北條氏が源家の天下を横領して、營意其忠臣を屠戮し、隱忍の間に執權の實力を得たるは尼將軍の威力と大江廣元の畫策と相俟つて其根蒂を築きたりしに相違なかりしも一面北條氏は當時の武士を率ふるの工夫に全力を注ぎたるを觀ざるべからず、換言すれば日本武士道の淵源は北條時代に大成せられたりと認めらる。北條氏は當時の時代精神を指導するの策に立派に成効したものである。簡單素樸なる武士生活に短刀直入的の禪生活を利用せしめたるは北條氏であるそこで元寇の大難も一刀兩斷の勇剛なる執權の威力と、輕舸に乘つて怒濤を物ともせざる武人の功勳とによつて物の見事に擊退せしむる事が出來た、禪宗の興隆は鎌倉時代から足利時代に亘つて居る鎌倉五山の創建や、京都五山の建立は新勢力を得來りし禪宗の勃興並びに佛敎建築の盛衰を語るものである、從つて武門政治に於ける佛寺建築は殆んど禪宗建築である、禪宗其者の敎化宗憲によつて禪宗の基礎配置平面圖外觀は從來の形式を一變してゐる、そして簡明素撲なる禪的臭味は其佛敎殿法堂の建築に一貫された形式を用ひてゐる。從つて禪宗建築を委細に點檢するときに、吾人は其平面目に於て其結構に於て奈良平安二代の佛寺建築と大に趣を異にして居るのを認めない譯には行かぬ。

禪宗五山の建築は鎌倉にしても京都に在つても都市の郊外にあまり離れざる地点に設けられたこれは武士の都市生活と交涉のある禪宗門の性質を遺憾なく說明してゐる、そして都市の近郊の幽境を求めて其山門を建立したのは其禪的

修業の道場として市井に遠かるの必要に驅られたものと見ることが出來る。いはば武士生活に關連する禪宗建築は武士の心膽を練磨する道場にあつた。江戸時代に於ける町道場の如く、鎌倉武士は邸内にあつては武術の鍛錬に力を注ぎ茲に在つては心神の靜觀に夫々の工夫を積んで居たのである、それだから禪宗建築には何等飾裝もなければ愚民を驚かす程の佛像もない。生死一如大死一番の工夫に滿身の熱血を注くの道場には何等の裝飾も壯麗の對照物も不必要なのであつた。

足利時代に入つては所謂禪生活も派手を好む將軍の心を濟度する事が出來なかつたと見えて金閣寺や銀閣寺の樣な建築が出來てゐるけれども、これは、武門政治の墮落の産物である。奔放なる武心の狂ふ所は骨肉相食み相戰ふの修羅場を都市の眞中に現出した、そこで此等の道場は兵火の禍を蒙らざるにしても門前雀羅を張るの有樣となつて來た、禪的生活は僧侶の專有物となつて禪宗建築は都會と絶緣の有樣となつてしまつた、當代生活には何等の關係がなくなつて禪宗建築は戰國に入るに從つて亦隆盛に趣くの機會を見出さなくなつてしまつた。

戰國時代は佛寺建築の衰滅時代である、居邸城堡の建設修築に努力した時代である、あはれ勢威ある武門の愛顧を受けざる以上は實力によつて衆民の希望を滿たした一向宗や日蓮宗や淨土宗やの日本化された佛教が實勢力を社會の下層に籠つて來たのは爭ふべからざる大勢であつた、此等の他力宗門が鎌倉以後足利時代を經て戰國に入つても尙其勢を張つて居たのは不思議ではないのである、此等の宗門が下層民の心靈を糾合して別途の社會的使命を持つて居た爲である。此等宗門の本山が自治町民の信仰の的となつて宏壯なる殿堂を建築し得たのは不思議ではない、そして此等の寺院が齎らせる社會的使命は可なり偉大なものがあつた、それは戰國時代に於ける數多民衆の安心立命の敎化を司どり同時に彼等の日常生活の改善に骨を折つた爲めに自治町民の信仰上の部である樣の觀があつた。

であるから信長の武力も石山本願寺の攻略に苦心をせざるを得なかつたし、後北條氏も日蓮宗の盛んな關東町民の征服に大骨が折れたのである。却つて四隣を攻略して民衆の怨みを集めたる叡山の惡法師を退治するには織田氏は却つて都合がよかつた樣である其外武門に盾突いて軍陣の血祭となつた門徒が大分にある、それと同時に宗敎的信仰を負ふて武門を苦しめた宗門も大分に在る。乍然世は實力の競爭である、實力を得て實力の勝負に勝つた武門は此等宗敎的勢力を屠つて其根底から覆すに多大の勞力を費してゐる。

此時代に新たなる勢力を敷殖して西國大名の信仰を贏ち得た基督敎が、其領土的野心を觀破されてから多年の努力一朝にして水泡に歸したのは自助自得とするの外はないにしても我國の

社會制度に相容れざる或者を近畿地方の有力者から洞察された結果と觀られる。

德川時代に於ける宗教建築は戰國時代の反動で再興の盛運に相遭してゐる、德川氏が其政治的基礎の確立するや、比叡山延曆寺の再建や、東叡山の寬永寺の創建や、芝增上寺の建立、さては南都東大寺の大佛殿の興建、京都建仁寺の再建等盛んに工費を拋つて居る、そして一面諸侯をして其莫大なる工費を負擔せしめたると同時に、德川氏の威力を民衆に示すに外ならぬ。

豐臣氏が天下を掌握するや、秀吉は賴朝や義滿の遺業に倣つて盛んに寺院宮殿城堡の建築に從事したが自家勢力の敷殖と自家威力の誇示に過ぎずして、社會的政策の上に大して效果もなかつた樣であるが德川時代に在つては當初の政策は一時的民衆の輿望を率ふる爲であつたにしろ、其眞目的は人心の沈靜萎縮を望んで荒暴なる民心の敎化に外ならなかつた樣である。從つて各宗各派を問はず、出來得る限りに於て便宜を與へ、殿堂の建築宗門の發展に相當の助力を加へ、各地大名亦民心の收攬と衆愚の敎化に各宗門の努力を奬勵した結果、到る處寺院の建立再建を見るに到つた、のみならず衆民の佛寺信仰は御發途に觸るゝ事がなかつたから盛んに寄進勸進を競ひ各宗門亦相當の英才を出したから佛敎建築の隆盛は全國に亘つて甲乙ない位である。

蓋し德川時代に於ける寺院建築は社會制度の安全辨であつた、士農工商の階級的社會制度が全く確立されて來た時代に在つては、四民の職制は世襲であり、年々歲々太平の樂に耽るの外老いては後世を願ふの外望もなき時代となつてしまつた、百姓から飛び出して天下の權を握り町人から立身して諸侯の列に加はる樣な事は出來なくなつた、であるから少なくも才氣橫逸の輩は僧門の修練に走つて社會的制度の外に英才を振ふか、さもなくは牙籌に身を任せて一攫千金の實力を養つて、榮華の夢に耽るの外はなかつた、そして蓄へ得た金の捨て場所は後世の殿堂より外はない。僧門亦其智識を施し其濟世の

道を盡すに一衣一鉢雲水と共に天下を横行して少しも生活上の苦痛がなかつた。

斯くの如き社會制度から見れば德川時代の寺院建築は是を宗教建築といはんよりは一種の公共建築と觀るの至當たるを失はない、天下の富豪が萬金を抛つて公會堂を建設し、平和宮殿を寄附するの時代精神が彼に在つては山門を寄進し佛殿を建立するの擧と現はれてゐる、そして此等の山門や佛殿や法堂が四民參拜行樂の年中行事の祭殿として社會制度を色どる民衆的建築たるを觀るとき、此等は明かに宗教建築であつて同時に公共建築であつたのである、其町村落の中心建築として數多の殿堂が今日も尙一朝不時の際は窮民の避難所となり、細民の收容所となり、平和の時代に在りては村民の衆會所となり、教門の公會所となり、場合によりては學校となり病院となる事もある。

以上を要するに過去の佛寺建築が社會的交涉に於て相當の部分を占めて建築物としては最も重要なる任務を分擔しつゝあつた事を擧げて見たが、明かに過去に於ては單に宗教的建築として一括し去ることは出來ないのである、從つて此等の佛寺建築が過去に榮えて今日に衰へたる重大なる原因は社會制度の激變に歸因するものである事を忘れてはなるまいと信ずると同時に今日の社會に於て彼等の建築物の保存再建修築等の問題に逢着して之が解決に苦しむの徒は寧ろ今日の社會制度を觀察して佛寺建築の改善工夫に努力し、新時代の時運に順應するの大策を樹立し一面精神的向上の途に進むと同時に他面社會的交涉の實益に其眞價を發揮するの途に出づべきである。吾人は佛教と何等の關係あるものではないが、都市改良、社會政策等の諸問題から觀て佛教徒の寺院建築に關する徹底的理解ある覺悟を求めて止まないものである、吾人は進んで現時に於ける寺院建築の衰運と將來に於ける地位とに關して論を進めたい。



東大寺建築史（一）

會員　須藤眞金

緒言

私はこの先幾年生きる壽命だか知らないがこれから一生かゝつて此の東大寺の建築の研究を續ける積りである。

數ある日本の建築の裡で私が慥うもムキに成つて東大寺に打込んだ理由は、廣い意味の建築史の上に於て此の寺程興味の深い最う際限の無い對象は有るまいと思つたからである。三代の大佛及び大佛殿は夫れ〳〵その鑄建の時代の代表作であつた。然かも其れが唯建築工藝史上に大に異彩を放つた計りでは無く、政治史の上に、宗教史の上に、經濟史の上に、又文學、風俗、戰史其他あらゆる歷史の上に其の影響が波及してゐる。そこで東大寺建築の消長は取りも直さず、奈良、平安、鎌倉、室町、德川、明治の各時代に亘る文化や思潮の變遷史とも成る譯である。

本論に入る前に先づざつと東大寺史の概要を述べて置こうと思ふ。で沿革を手つ取り早く年表で示して見ると慥う云ふ風である。

天平十四年（七四二）十一月聖武帝御發願勅使ヲ太神宮ニ遣シ祈請セラル
同　十五年（七四三）十月近江國信樂京ニ大佛ヲ鑄初ム
同　十六年（七四四）十一月近江國甲賀寺ニ像体骨柱ヲ建ツ
同　十七年（七四五）八月大和添上郡ニ於テ更ニ鑄像ヲ企ツ
同　十九年（七四六）九月初テ鑄熔ス。十二月大佛殿ノ建造ヲ始ム
天平勝寶元年（七四九）四月東大寺行幸。十月大佛鑄終ル
同　三　年（七五一）十月大佛殿成ル
同　四　年（七五二）三月大佛塗金ス。四月行幸開眼供養
同　六　年（七五四）五月戒壇院ノ造營ヲ創ム
同　七　年（七五五）九月同院建立。十月同院ヲ慶ス
天平寶字二年（七五八）五月四天王像ヲ造ル
神護景雲元年（七六七）九月東西小塔堂ヲ建ツ

寶龜元年（七七〇）十月大佛殿ニ副柱三十支ヲ構立ス
延曆八年（七八九）三月造東大寺司ヲ廢ス
弘仁十三年（八二二）二月眞言院ヲ建ツ
齋衡二年（八五五）五月大佛ノ頭墜ツ。九月大佛ヲ修理ス
同　三年（八五六）三月大佛供養
天安二年（八五八）四月藤原家宗ヲ造東大寺大佛長官トス
貞觀三年（八六一）正月大佛像成ル。三月大佛ヲ慶ス
同　十七年（八七五）三月東南院ヲ建ツ
寬平二年（八九〇）十二月知足院ヲ建ツ
延喜二十年（九二〇）六月南中寺ヲ建ツ
延長四年（九二六）十二月講堂佛像ヲ造ル
天慶元年（九三八）——念佛院ヲ建ツ
天曆八年（九五四）——大佛殿ノ角木ヲ替フ
天德四年（九六〇）十月尊勝院建ツ
長保二年（一〇〇〇）十二月西塔並ニ正法院灾ク
治安元年（一〇二一）——三昧堂建ツ
長元四年（一〇三一）正月西院建ツ
同　八年（一〇三五）——尊勝院建ツ
長曆元年（一〇三七）正月興福寺ノ大衆東南院ヲ毀ツ
天喜元年（一〇五三）九月天地院燒ク
康平二年（一〇五九）七月願興寺ノ鐘ヲ二月堂ニ懸ク
同　五年（一〇六二）正月天地院建ツ
保安元年（一一二〇）——觀世音寺ヲ東大寺ニ附ス
治承四年（一一八〇）十二月平重衡東大寺ヲ燒ク
養和元年（一一八一）六月藤原行隆、中原基康、三善爲信等ヲ東大寺造寺官ニ任ズ。八月重源東大寺大勸進トナル。十月大佛ノ頭髮ヲ鑄ル
壽永二年（一一八三）二月大佛ノ右手ヲ鑄ル
文治元年（一一八五）三月賴朝東大寺ノ造營ヲ助ク。大佛ヲ供養ス。上皇御幸
同　三年（一一八七）四月東大寺用材ニツキ周防國ノ濫妨ヲ停ム
建久元年（一一九〇）六月大佛殿ノ後山ヲ毀ツ。九月幕府東大寺料廐苧寄進ノ事ヲ御家人ニ命ズ。十月大佛殿上棟
同　四年（一一九三）三月大佛造營ノ爲メ播磨國ヲ文覺、重源ニ附ス
同　五年（一一九四）三月賴朝、東大寺大佛塗料砂金ヲ寄ス。六月賴朝東大寺造營ニ勤ムベキ事ヲ御家人ニ令ス
同　六年（一一九五）三月大佛殿ヲ慶ス天皇行幸。賴朝供養執行馬千足ヲ寄ス。八月四天王像ヲ造ル。
同　七年（一一九六）六月大佛脇士觀音虛空藏ノ像ヲ作ル
同　八年（一一九七）——戒壇金堂成ル
正治元年（一一九九）六月南大門上棟
建仁三年（一二〇三）七月南大門仁王像ヲ造ル

元久元年(一二〇四)十一月四天王ヲ慶ス
同　三年(一二〇六)正月二月堂ヲ慶ス
嘉禎三年(一二三七)四月大講堂上棟。十二月八幡宮ヲ慶ス
建長元年(一二四九)十一月戒壇院丈六釋迦像ヲ慶ス
同　三年(一二五一)——戒壇院ヲ再興ス
同　八年(一二五六)三月大講堂千手觀音像ヲ重刻ス
正嘉二年(一二五八)二月二月堂燒ク
貞和元年(一三四五)——香積厨立ツ
應永五年(一三九八)四月塔立柱
同　三十三年(一四二六)正月興福寺大衆尊勝院等ヲ毀ツ
嘉吉元年(一四四一)六月興福寺大衆西室坊ヲ燒ク
文安三年(一四四四)正月戒檀院火ク
文明九年(一四七七)七月大佛ヲ修理ス
永正五年(一五〇八)三月講堂僧坊等火ク
同　六年(一五〇九)八月榮俊同再興ノ爲メニ勸進ス
永祿十年(一五六七)七月戒檀院火ク。十月松永久秀大佛殿ヲ燒ク
同　十二年(一五六九)四月大佛ノ螺髪ヲ北野經堂ニ鑄ル
元龜元年(一五七〇)——清玉大佛殿再建ノ爲メ諸國ヲ勸進ス
慶長八年(一六〇三)二月正倉院ヲ修理ス
寛永十年(一六三三)——眞言院火ク
寛文七年(一六六七)二月二月堂火ク。五月同造營ニ
貞享四年(一六八七)四月公慶東大寺大佛再建ヲ企テ諸國ヲ勸進ス
同　五年(一六八八)四月公慶ニ勅シ大佛殿ノ再建ヲ始メシム
元祿五年(一六九二)三月大佛開眼供養
同　十年(一六九七)四月大佛殿立柱
寶永二年(一七〇五)閏四月大佛殿上棟
同　六年(一七〇九)三月大佛殿ヲ慶ス
明治十二年(一八七九)六月大佛殿及大門ヲ修理ス
同　三十六年(一九〇三)七月大佛殿ヲ修理ス
同　三十九年(一九〇六)——同工事ニ着手
同　四十四年(一九一一)五月大佛殿上棟
大正三年(一九一四)四月大佛殿修理成ル
同　四年一九一五)五月大佛殿ヲ慶ス

以上は史實に明確な事柄丈けの年表であつて大佛及大佛殿の興亡丈けは怎うやらザツと眼鼻がついては居るが末寺に至つては建立の記錄が有つて何日の間にか亡んで居たり、燒亡の事が分つて居るが何日の程に建てられたんだか譯が分らなかつたり誠にだらしの無い次第である。だが然し之れで東大寺の草創以來の消長の有樣が略々想見されるだろうと思ふ。此處では末寺

は後廻しにして置て東大寺の首腦である大佛及大佛殿丈けに就いて大体の沿革を述べて置かうと思ふ。

今を去る一千一百七十年の昔、平城の京に國銅を盡して鑄られた金銅盧舍那佛像の一軀が如何に崇嚴であつたか、大山を削つて構へられた伽藍が如何に莊麗であつたか、それは——夫れ天下の富を有つ者は朕なり、天下の勢を有つ者も朕なり。此の富勢を以て此の尊像を造る、事の成易きも心の至り難き——と宣はせられた　聖武天皇の詔勅に悉されてゐる。帝は正税の五分の二を寄進し給ふた。一世の德僧行基は法弟子を率ひ衆庶を勸進して數萬貫の淨財を集め得た斯くて上下の情願を立ろに大佛鑄造の資金を調達した。そして造營の大宰帥には佐伯宿禰今毛人が擇ばれた。今毛は學德兼備の殿上人で其造營中常に齋戒を持して謹嚴事を處したので、天皇から東大居士の名を賜はつた程の君子で又當時隨一の建築學者であつたのだ。それから又行基の門下の道慈、神叡の二律師の建築智識に

は匠手が常に歎息してゐたと云ふ事だから必ずや黑衣の技術官と成つて居た事と思はれる。大佛師には百濟の國人從四位下國公麿が命ぜられた。大鑄師は從五位下高市眞國、同高市眞麿、同柿本男玉、大工は從五位下猪名部百世、同譽田繩手と云つた顔觸れで近江國信樂京に空前絶後の造佛事業を創められたのは、琵琶の湖水に比良の姿が白く映り出した天平十五年の十月十九日の事であつた。翌年十一月には　帝手づから繩を引かせ給ふて佛体の骨柱を建てられた翌十七年には都はまた平城へ復つたので大佛も共に移されるに至つたその時には　帝は御袖へ土を入れさせられて御座に持運び、續いて氏々の人が土を運んで築固めたと云ふ話である。稀代の大佛の事だから思はぬ故障も續出して工事豫定に後れたが當局の人々の信仰と努力で五丈三尺五寸の結伽趺座の大像も略々出來上がつて大佛殿の建立にも取りかゝつた。そして天平二十一年の春が來た。その時早くも盧舍那佛の御利益が現はれたのである。大和島根に隨喜の

涙が降つた。

日本の國からは出ない物だと諦められて居た黄金が陸奥の國から發見されたのである。假りに今日本の何處かゝら白金の鑛脈が見出だされたとしたならば世の喜びは怎うであろう、奈良朝の人達はその歡びに咽んだのだ。そして其の發見を早速に盧舍那佛像の靈驗に歸したのであつた。

天皇は早速に畿內七道の諸社に奉幣してその由を告げられ、四月朔日には皇后、太子並に群臣百僚を從へさせられて東大寺に行幸され、未完成の大佛に向はせられて親ら三寶の奴と仰されたのであつた。

やがて古今未曾有の大佛像の鑄造も成り、奈良朝建築の精を悉した大佛殿も建立して天平勝寶四年の春、今日九重に八重櫻の咲き匂ふ四月九日、帝は文武百官を率ゐ、萬僧を請し、雅樂寮の音樂を集め、五節、久米、楯伏、踏歌、袍袴等の歌舞を悉して、大佛供養の大儀を執行されたのである。當時の大佛殿は如何に莊嚴華麗であつたかと云ふ事は蓋し想ひ半に過ぎるであろう。だが私はその莊嚴その華麗を只莫然と夢の樣な慨念の裡に置て空に眺めて居たくは無いのだ。あの咲く花の匂ふ樣な奈良朝文化の精を凝した、天平式建築の粹を悉した東大寺大佛殿の結構を棰の一本瓦の一枚迄も異はない樣に組立てゝ見度い、いや其れ計りではないその大佛の奉加人の一人々々の抱いて居た額望、その造營に從つた工匠の一人々々の持つてゐた感情迄も突き止めて見たいと思ふのである。之れから私が筆を染め樣とする長い史實はつまりそれに達した時に結論となる譯である。

扨てその奈良朝の華を集めた平和の象徵の樣な東大寺も平安の終り、京都に偸盜が跋扈し地方に豪族が跳梁する時世に會つては遂に奉仕の僧が刀槍を執つて法を護らねばならない樣になつた。そして果てには淺間しくも佛徒の同志打が始まり出した。東大寺の敵は興福寺であつた僧兵は朝庭を驚す爲めばかりではなく同法相爭ひさては調子に乘つて本職の武士を相手にし出したので治承四年の師走の末、大佛殿は無殘に

も平重衡の兵火に罹つて、金銅盧舎那佛像も熔けて潰えた。奈良朝の華も、聖武天皇の御叡願も只一炬の業火に空しく亡んで了つたのだ。

だが法は未だ衰へて居なかつた、事京都に傳はるや早速後白河法皇は平城の帝よりも一入熱烈な御信仰を持て東大寺再建を企て給ふた。平家を屠つて忽ち天下の總追捕使と押しなつた大成金源頼朝は日の出の勢を擁して早速その大檀越となつた。宋から歸朝した計りのチャキ〳〵のハイカラ僧重源上人は大勧進となつて天下の淨財を募つた。造寺官は藤原行隆、中原基康の殿上人、造佛造寺の工匠は宋人陳和卿、陳佛壽、その他邦人草部是助等の腕ぞろひ。養和元年三笠の山に小鹿啼く秋十月に頭髪から鑄始めた大佛は、越えて五年目の文治元年の夏には鑄造成つて八月に開眼の供養を修したのであるそれから起工された大佛殿も建久六年三月には天平勝寶の昔に劣らぬ莊重な儀式の許に供養されたのであつた。平城（ならし）の昔の唐風の伽藍に引きかへて今度再建の姿は純然たる宋風の建築であつたのだ。然かも其れは日本に於ける宋風建築の最初の物であつた。實に再建の東大寺鎌倉期の革命建築の先驅者であつた。この雄偉なる先驅者は春日原頭に嚴として時代を指示して聳へ建つたのだが、時世は忽ち變轉して源は滅び、北條は滅び、南朝は亡び、足利は滅んで世は戰國となり天下は麻と亂だれ。そして東大寺の僧は劍を執つて立つて或は南朝に加擔し或は與福寺と相爭つてゐる裡にいつしか戰國の渦中に卷き込まれて永祿十年十月に松永久秀の爲めに再び炎上の悲慘事を繰返されたのであつた。之れを歎いて清玉上人が直ぐ樣再建の爲めに諸國を勸進しただが世の中は餘りに亂れて居た、それは戰國の人の心には悠長過ぎる企であつたのだ清玉の淨願は遂に徒耳に終つた。次に天下を收めた織田信長は大の佛敎嫌ひだつた。切支丹宗を雍護して南蠻寺を建てさせた程に佛敎に對して反感を抱いて居る肝癪持だつたから手が付けられなかつた。之に續いた豊臣秀吉は世に桃山式を樹立した程の派手者で有つたが京都に厚う

して奈良に對しては甚だ冷淡であつた。世は德川の中頃となつて公慶上人再度の勸進に世間はやつと東大寺に眼醒めた。そして東山院の勅に依つて百有餘年の焦土の上に新らしい木の香が匂ひ初めたのであつた。而して元祿五年の開眼供養にも寬永五年の大佛殿供養にも、其式の模樣は天平勝寶の昔や文治、建久の古例に法られはした物の昔の樣に行幸御幸の事は無く藏人頭右大辨輔長朝臣が勅使に立つて式を擧行したのであつた。それが現在の東大寺である。即ち現在の東大寺は三代の建立の裡で最も貧しい物が殘つてゐる譯だ、而しそれでも大さに於て日本第一の木造築なのである。

それで私は此の偉大なる東大寺の建築史を怎う云ふ形式で書こうかと思ひ惱んだのであつた。兎に角極めた。それは先づ文獻の上から東大寺史を平城の昔から今迄說いて來る、それから今度は現今の東大寺を建築構造の上から解析して次第に推論を趁つて昔に溯つて天平の昔迄構造上の事を倒叙して行かうと思ふのである。

その順序で次號から本論に移る。（未完）

□天平五年入唐使に贈れる歌□

（作主未詳）

虛みつ山跡の國、　青丹吉平城の都內、
恐照る難波に下り、　住吉の三津　船乘り、
直渡り日の入る國に、　遣はさる吾が兄の君を、
懸けまくの忌々し恐さ、　住吉の吾が大神、
舶の舳に領き座し、　船艫に御通たし座して、
指寄らむ磯の崎々、　榜ぎ泊てむ泊々に、
荒き風浪に遇せず、　平けく率て歸りませ、
本の帝國に

反歌　一首

沖つ浪邊　浪な立ちそ　君が船
榜ぎ歸り來て　津に泊つるまで

（萬葉集卷十九）



北木島紀行（下）

會員　NY生

豊浦

T君から是非後を書けといふ手紙が來たので一寸閉口したが、此前一所に旅行をするときに紀行錄を造るなら二人に分擔しやうと約束した以上は、遠慮をする處でないと思ふて書いて見ます。

豊浦は笠岡から海上七八浬はありませう島の北側に在るので何處となく靜かな所です、小學校だの、郵便局だのもありますけれども大した村ではない。元より見るべきものもないけれども、初めて見る浦の景色は自分等には物珍らしく感じます。僕は朝から泳ぎたくて仕方がなかつたが、さすがに朝風は冷やかであるので獨りで海岸を散歩して見た。右手の山の突角の岩の形が面白いので波止場の端に腰を掛けて「スケッチ」をして居るとT君は宿の二階から「オーイ」〳〵と呼んで居る。宿の娘がやつて來て、朝食が出來たから御上りといふ、それにKさんの姿も見えるので一先づ宿に立歸つた。

「今日は大分歩かんならんよつて、暑うならんうちに、大浦迄行かんならん」

とKさんはT君と打合して居た。そこで朝飯をかつ込んで、亦汗臭いシャツを着けて靴をはいた、T君は昨日の樣に浴衣掛の尻ハショリに草履を穿いてゐる腰に手拭下げた姿は一寸笑はせる

「お早う御歸り」

と宿の神さんの揶揄を耳にして出掛けた

今日はKさん丈の案内である、これから山越に大浦へ出やうといふのである。道は村を抜けてから爪先上りに登つて行く夏草の茂みに蟹の逃げ込むのも面白いが朝から騒しい蟬の林を過ぎるのはうるさいものだ、谷は大して深くはないので兩方の峰は見る内に迫つて來て、御影石の自然に露出してゐる部分の景色が中々に面白い、Kさんの話では東側の山腹からも採り出して居たが運搬に不便なので止めてしまつたとか成程碎石の崖もある樣である。

T君は布團を重ねた樣な岩を指して職工の惡戲かと聞いてゐる、人間の惡戲では元よりない、天然の爲せる自からの形態には人の出來得ざる面白味があるものだ、道は大分登つて來てもう豊浦も見えない。

やがて峠に着いた、眼下に大浦の灣が繪の樣に擴がつてゐる、灣を抱いた彼邊の鼻は獅子崎といふのだらう、よい景色

だ大浦の村は脚下に半分しか見えぬ、山の腹が出張つてゐる爲である、此邊一面の島には甘藷を植ゑてゐる。

Kさんの話によると現在島民約二千五百位であるさうだが、多くは漁業と農業とを兼業として、甘藷と麥とは産額が相當に在るとか、近來和歌山縣方面から數へられて除虫菊の栽培を始めたが、成績がよいのと、收益が割合に在るので中々島民が荒くなつたさうである。

北木島の石材は其質の堅實なのと外觀の色彩が美しいので有名であるが、一つは採石量の多いのと、採出に便利な丁場が多いのと今一つは海路運途に至極便利な點があるからである、全島到る所採石し得らるゝといふ如何にも岩から出來上つて居る樣であるがさうではない、唯周海五浬餘の海岸線の屈曲は由稜線の變化に伴つて延びて居るので平地といふものが全くないといふてよろしかろう、それ丈丁場の位置が海岸に近い事を說明してゐる樣である。

大浦

今日も天氣が好いので、歩いて居ても眠くなる、まして冷しい風が來る峠の上で絵の樣な景色を見てゐるとも歩くのはいやちあいとびたくなるが、そうもして居れんのでKさんは立上るT君は腰を延ばす仕方がないから僕も歩かなければならない。

島の中の路は雨の日は川と早變りをするさうであるから元より滿足な往還ではない。登るときは左程でもなかつたが下るときはいやなものだ。これから川谷の丁場を訪問しやうといふ計畫だから山續きに右手の方へ行つてもよいのだが晝飯の都合もあるから一先づ大浦へ下りるとKさんはいふ、御苦勞な話であるけれども致し方もない。

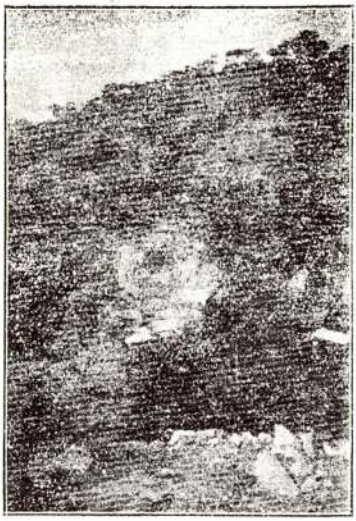
大浦の町は豐浦から見ると、何處となく賑かである、人家も二倍以上はあろう村役場もあれば巡査も居るといふ、小學校も大きいし女教員も居るといふ郵便局もあるのだから、女事務員も居るのだろう、笠岡からの小蒸氣は豐浦から廻つて此の浦へ着いてそれから多度津へ向つて行くといふ、海岸には波止場も立派に出來てゐるし、船も澤山浮んで居る、網も大分干してあるし、子供も澤山遊んで居る、要するに北木第一の港は物資の集散地として賑つてゐるのである。

Kさんは晝飯の用意をさせるからといふて一足先に驅け抜けた、石材を相當に積み出されてゐる海岸へ出て靜かな海の景色を眺めて居ると、Kさんは歸つて來た。さあ是から川谷へ御案內しませうと右へ道を執つた、石材の陳列する道を行き盡すと村端から石材運送用の路は急勾配を登りになつて居る。

川谷の丁場の並んで居る谿谷は丁度金風呂の丁場と背合せになつてゐさうである、從つて一路行く處迄登つて行けば金風呂へ出ることが出來るのである、そして川谷の石材は金風呂に次いでの良質とされてゐる。丁場の樣子は前者と變りはない。

T君は丁場長を呼んで石質の取調べをやつて居る、僕はKさんに花崗岩の天然層について敎へて貰つた、ナチユラルベツドといふのは要するに熟鍊しなければ解らないが石の膚を見れば面によつて差のある事に氣が付く筈である。僕は石の

細胞にはやはり植物の様に流動液があることを曾て鑛物の、先生から教はつて貰つた事を話をしたら、Kさんは驚いて居たがそういへば、大きな岩石程割れ目に水氣がありますと丁場長答へた。



川谷丁場の西山

「つまり石でも生きてゐる奴がある譯だね」

といへば

「まあさうだんな」

とKさんは答へた。

「だから叩くとカンカン鳴くんだろう」

と丁君が譯なく説明をしたので職人迄も笑い出した。

Kさんの話によると、本島の採石に從事してゐる石工はかれこれ四百人からあるさうである、多くは伊豫の方面から働きに來て居るので、舊曆の正月と盆の時分には大分歸省して半年の勞を休めて來るので、石材の注文者は此の時機を知つて居らないと、飛んだ失策を日限の上に來すことが往々あるさうだ働き盛りの職工は大低獨身者が多く、家族を連れて居るものは勢ひ本島に永住をする樣になる。

全島の丁場はかれこれ五十個所以上もあろうが、從つて各丁場の石質は夫々差があるのみならず同じ北木島産とはいへ中には鐵錆が出て困るのもあるから氣を付けなければならぬさうな、さういへば立派な石造建築の眞正面の玄關廻りで金錆の出て居るのを見受けた事もある、美しい御影石も赤錆が出てはたまらない。そして其錆の出る丁場は何處にあるのだろうと聞いて見たら、天機漏らすべからずといふ顏付をしながら

「つまり値の廉い石は廉い石の値うちしか、ないのだつしやろう」

と簡單に宣告を下した。

川谷

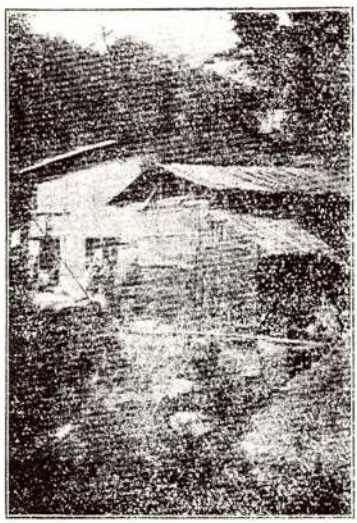
職工長の小屋で小憩をしてから、谷を越えて東側の丁場を訪問した。西側の丁場は山の中腹に在つたが此側の丁場は三ケ所とも山の背から始めたので、下から見ると山の稜線は見苦しくも破壞されてゐるそして近つくに從つて其の破壞の事業の大きいのに驚かされた。

此所からは大浦の灣内が一眼に見える今朝來た峠の道も島の中に見える、そして谷を隔て、彼邊の山には塚濱の丁場が一、二、三と數へられる、北木島第一の最高點は右手の山の更らに後方に見へる山嶺であるさうだが海拔八百五十尺もあるとの事、Kさんは奥田畑中兩氏經營の石材會社の人であるが、石材取扱に從事して居る商人は尚他に山本氏とか鵜田氏とか夫々に關係丁場を保つて活動をして

ゐるのである、

職工の賃金は平均十五圓乃至二十圓位の月收であつたそうだが此頃は三十圓近くも增してゐる、多くは山主から日割勘定として支給されてゐるさうだが世の中がだん〳〵むづかしくなつて行くので、時々賃金問題の起ることもあるさうである、さればにや此頃の石材注文には寸法の明示に對して從來四方共二三寸の餘裕を保つてゐた石材が此頃は隨る切詰めた寸法となつて來た、時勢の要求から正確になつたといふよりは世の中が夫れ丈勘定高くなつて來たのである、從つて將來の北木島はT君の心配したやうに石工の變質と勞働賃金との問題から早晩革命が起るであらうかとも思はれる。

職工の風儀にしても近來餘程の變化を見るに至つたさうである、Kさんは川谷の石小屋を中心とした一つのロマンスを山を下りながら語りたしたが、聞くにつけても昔の呑氣な時代を偲ばすには居られなかつた、Kさんの話によると今日北木島から出る石材總量は約九十萬才に上るとの事である、其中三分ノ一乃至五分ノ一は建築用材として優良のもの、其他のものは土木用材として野面石、間知石及割石等である、從つて之れを最低限度として換算して見ると一人一日の採出量七才五分となる、それから一ケ月で二百二十五才、四百人掛つて壹ケ年九十萬才といふ事になる、



川谷丁場の石工小屋

此の中で建築用材として優良のものは五分ノ一として僅かに十八萬才であるからまだ〳〵幼稚なものである、供給方面は主として阪神地方であるが、他の一部は東京方面へも、九州方面へも需用せられる、間知、碎石、割石に至つては主として關西地方に限られ時に九州方面に運送せられるさうであるが、結局の總收入は二十五萬圓內外といふことである。

大浦の村の唯一の旅宿の二階に案內された僕等こゝで晝飯を食つて、今度は舟で海岸の丁場を訪問するのであると聞いて大に安心した、實は得意の靴も今日はどうやら異狀を呈して兩脚も少々苦狀を訴へてゐるからである、ビールを抜いて冷い奴を一二杯傾けた僕は腹も滿足せぬうちにいつの間にかい、氣持に寢てしまつた。

フト雨垂れの音にびつくらして飛び起きると、KさんとT君とは兩膚をぬいで鵜鷺を戰はしてゐる、

雨垂れの夢驚かされ鵜鷺つきて

眼は白黑の基盤(御飯)前かな

僕がたらふく食ひ込んだ時にはT君はしたゝかKさんに苦しめられて靑筋を立

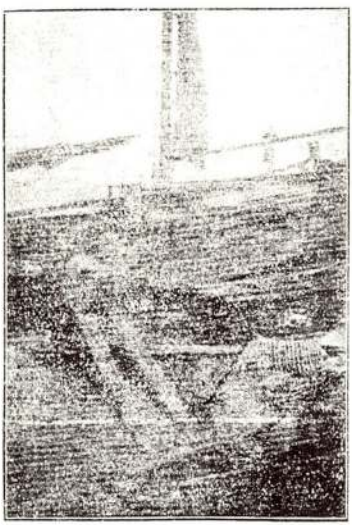
て、居た。

楠

船に乗り込んだ僕等一行は至極呑氣な見學に從事することが出來た、船頭の努力で苦もなく獅子崎の鼻に着く、其處では二十餘年の歳月にとうとう突角を伐し盡して三ヶ所の丁場は一所に連絡してしまつて居た、岩層の狀態採掘の方法は大同小異である、此處で僕等は石材の船積の樣子を目擊することが出來た。

Kさんの話によると、阪神地方へ運搬に從事して居る和船は三十四五隻もあるさうたか、大程參百石內外のもので石材は五百才を載むことが出來るさうである順風に帆を擧ぐれば一日半で大阪へ着くさうだが普通の日和には三四日は見ればならん、荒れとなつたら此處の樣な海岸の丁場は仕事が出來なくなる、それから大阪へ着いても荷卸に三四日は要するものとすれば往航丈で半月はかゝる、だから一月に往復一航海をするものとなると一ヶ年に廿四回の往復をするのである

棒の先きに鐵物を付けた道具で「エンヤラヤツ」と一つ一つ船の中に運び込む仕事を見ると練れて居るから見る間に手頃の石材は運び移される。崖を落される石材は大分汚れてゐる、二枚の板で海岸から船への路を付けて運び込むのだから時とすると潮の御見舞は愚か、見事に洗禮を受ける奴もあるさうだ。建築場では



獅子崎の石材積込

此の連中は排斥を喰ふが、道中の苦勞を思ふて見ると氣の毒にも感ぜられる。

再び船の客となつて灣を北へと渡つて行く、冷しい風は海面を辷つて來る、眺めはよし、心地はよし、T君はビールを傾けながら鼻歌を唄つている、僕も負けぬ氣になつて詩吟をやる、Kさんも得意の義太夫を聞かせてくれた、默つて漕いで行く船頭に話かけたT君は少しは遊覽らしい客も來るかと聞いて居たが船頭はあることはあるが笠岡あたりからエタイの知れぬ女を連れた容の無遠慮には閉口するとと憤慨してゐる。

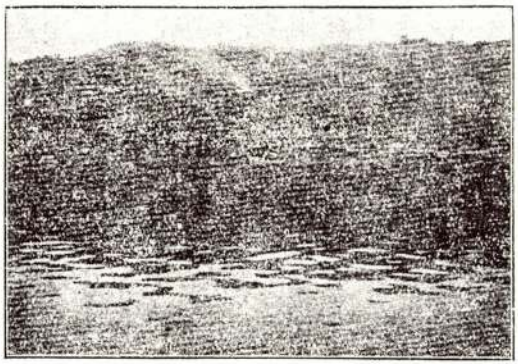
Kさんは長谷の石材について其特質を說明してくれたが楠村附近一帶の丁場はあまり眞質でない樣子である、僕等は長谷へ上陸して其實際を見た、それから楠の北の突角にある中山、布越、の丁場も船の上から視察した、もう大体にて北木島を理解することが出來たから引上げやうとなつた、海から見た東海岸一帶は至極穩かな姿である、所々蟻の穴でも見る樣に丁場の石塊が白く盛り上つてゐるのが見える、海岸へ直通してゐる石の道は河の樣にも見へる。

楠村はいかにも靜かな浦である。別莊でもありさうな處とT君がいふとKさん

はいや實際彼邊に見る新しい家は楠一の豪家の別莊だといふ、すれば北木島隨一の豪家だれといへば

「元を洗へば御百性の御長男だすが、島

楠附近



に居るのがいやで出奔して神戸へ行き外國の商館に雇はれたのが出身の糸口だんね、今では立派に金を搾へて隱居して居りまんが、もうかれこれ六十に届く爺さんだつせ」

果然此の一孤島中にも立志傳中の男兒が居たのである。楠の名のゆかしさよといひたくなる。

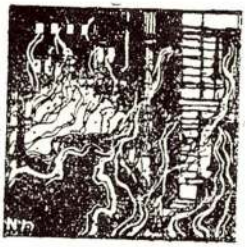
大浦に上陸して今朝の峠を北に越えて四時頃豐浦へ歸つた。僕等は三時半の汽船に乘る積りであつたのが計畫大に外れて晩の八時迄待たねばならなかつた、そこでT君と相談して更らに勇を誇して豐浦の右手の山の上にある岩石、及平石の丁場を視察した。

其夜八時迄郵便船を待つの馬鹿らしさにとう〳〵船頭を一人雇ふて笠岡迄骨を折らせることにした。六時ゐさん始め宿の夫婦亞びに娘に別を告げて、夕風の海上七浬を乘り出した、沖に出たら風もあるだろうとの豫想は見事に外れて、船頭はアツ〳〵艪を漕き出した、夜は暗の小さな船の上所在なさにT君は切りと船頭に話をかけて居たが、僕は胴の間に寂しい夢を結んだ、九時頃笠岡に着いて、驛で僕等は東四に別れた、T君は大阪へ、僕は廣島へ用事があつたからである（終）

□笠置山合戰□

……爰に南都の般若寺より卷數を持て參りたりける使、本性房と云大力の律僧の有りけるが、縞彩の袖を結んで引違へ、尋常の人の百人しても動かし難き大盤石を、輕々と脇に挾み、鞠の勢に引懸引懸、二三十つゞけ打にぞ投たりける。數萬の寄手楯の板を微塵に打碎かるゝのみに非ず少も此石に當る者尻居に被打据ければ、東西の坂に人頭を築いて人馬彌が上に落重なる。さしも深き谷二つ死人にてこそうめたりけれ……

（太平記）



川の都

會員　野人生

○紫の雲

僕は薄紫にぼかされた大阪の雲の色をなつかしいものの一つとしてゐる。煤煙の絶え間なく舞ふ川の都はロンドンのそれならで、ハッキリと晴れ渡つた折を見た事がない。曾て夏の朝、常より早く起きた僕は天王寺村の畠の中を露にぬれつゝ大阪の空を望んだ事があつた、青い〳〵雲は高く半圓球を畫いて天を劃し、東の方生駒葛城の連山は遠く曉の色に閉されて、眠未た醒めやらず、西の方摩耶六甲の邊重い雲漂ひて臨劃未だ定まらぬ折も折、北の方都の上に低く棚引く柔さうな紫の雲を見てオヤと驚いた。一夜を込めて働き拔いた器械の煙は幾本の煙突から逃れ出で、曉の暗に迷つて昇りもならず降りもならず、のび〳〵と同志を語らつて都の上に假寢を結んだ樣な雲―僕は夫れ以來或は高く或は低く、又は薄く又厚く、時に重なり時に散する紫の雲をなつかしものゝ一つとしてゐるのだ。或時木津川の流に沿ふて千本松原を左手に望みながら下落合の渡を横きつて平尾町の端に行つた事があつた。此邊一帶の町は町とはいひながら市に偏入された儘の姿を横へて、夏は雲雀の聲止まず、秋は尾花の波を連れて見渡す限り一面の田地である遠く築港機橋に並ぶ帆檣林立、左手にセメント會社と知れた德利型の煙突から白い煙の吐かれたる、折から晩夏の夕風に眺め入つた僕は大阪にもこんな景色があるかと一驚を喫しながら堤を南へと歩いたものだ、用事を濟まして歸る頃は日も西山に傾いて赤い赤い盤大の太陽が雲の間に落ち込んでゐる。直徑三尺もあらうかと考へたいや五尺位にも考へられる、兎も角常に見る吾々の太陽は十倍も其面積を廓大して六甲の山に載つて居るのだ其眞赤な色は比較しやうない分秒をきざんで變化しつゝあるのだから、ふと大阪の空を振返つたとき、今度は紫の雲に閉ぢられた都の背景に思はず立留まつた、其處には一日の仕事を終つた煙の群が立ち込めて西山の日照を見送つて居る樣な姿である、津守紡績の灰色の煙突が二本突立つて工場の屋根の端から白い煙か湯氣か間斷なく立ち昇つて居る、白い鷗の五六羽の舞つてゐるのもハッキリと目につく、小さな端艇を曳いて一隻の木船が二本の檣を並べて靜かに滿潮の河の上を辷つて行く、其河の色は何んともいへぬ紫がかつた灰色を湛へてうねつてゐる。此邊の岸には青い船赤い船黑い船和船洋船傳馬船達摩船の數を盡して碇舶してゐ

る帆檣は林の如く連なつてゐる。チラ〳〵と光る檣の動くに見とれて氣が付いた時は、日輪は半分麥を山嶺に沒してゐた、若し僕が畫家であつたなら、この忘れられぬ景色を畫き出して大阪の色を紹介するに躊躇をしなかつたろう。だから僕は紫の雲見るとカヤと思つて立留まる

○堺　筋

春は初め、柳は綠の糸を垂れ、人はそろ〳〵薄衣になつた今日此頃町を歩いても氣は長閑である。堺筋といへば昔から大切な國道、大阪を縱斷して南は堺の町に連なる、今では市區改正の結果十二間の一等道路と劃され電車線路は難波橋から壽美須町迄一直線に敷かれた、それ以來益大阪唯一の堺筋となつたのである、十二間の一等道路も、人道は僅かに一間半足らずである、それに植にたりや、街路樹の並樹、ポプラ、桐櫻などの貧弱な枝振り、それに十間足らずに電柱の林を植に付けてある以上は、長閑なるべき僕の散歩もあんまり呑氣でないのである。人に行當るはまだしも店頭の荷物に衝突するのには閉口せざるを得ない、店頭九尺の公道は時に査公の嚴命で掃除を餘儀なくするの結果でもあるまいが、吾物顏に貨物を積んで繩をかけ釘を打込んで居るには往來の者はいやでも車道を廻られぬならぬ、京都ではうつかり車道は歩けない殊に四條通りや烏丸の車道をたゞへ大勢だからといふて大手を振つて歩かうものなら、それこそ大變である、車道は其の名の如く車のために設けた道、人間は宜敷人道を歩くべきの御說教を半時ばかりも交番所で聞かればならぬ事になる、若し理屈でもいふて見給へ、貴樣は何處の國の名は何といふ職業は何、年は何歲とう〳〵閻魔帳に書き付けられる運命に立到るから、

二三間先きにキヨロ〳〵と行く男がある、それが何ういふものか車道を歩いて居る、車道といふても電車道を除けば三間足らず、紫煙を飛ばして驅り來る自動車、相次いで行違ふ自轉車、人車の織るが如き中に、危いとも感ぜずや平氣の平座である、折から從卒を連れた騎馬の將校がヅッ〳〵と來掛つた、電車の鬱に恐をなして足並狂ふ眞ん前に、平左工門殿か突立つて御座るのだから、將校は怪我さすまいと、「オイ」と聲をかけた、馬を靜めた從卒も「コラ」と聲を掛けたが聞いない。前から迫つて來た三臺の自轉車の鈴に驚いて彼が左に避けた瞬間に將校は馬を進めた、その男は馬蹄の音に振り返るとたん從卒の馬は目前にせまつた、あわてゝ走る左手に彼よりも平然たる電柱が立つて居た、彼れは電柱に衝突して初めて我に歸つたか、今度は步道を進んで行くに躊躇しなかつた樣である。

他人の事は亦我事である、人道の傍に置かれた荷車の梶棒に眼鏡を破つた事のある僕はあまり他人の失策を嘲げる資格ばないにしろ、交通問題の實際に觸れて見ると成る程十二間道路はまだ〳〵狹い事を悟らない譯には行かぬ。

堺筋の交通問題は頭の中で二度回轉をした、そして市區改正の結果狹い筈であつた大阪の町筋も、次第に擴げられて見違へる樣になつた最近の大阪について大阪も變つたなあと思つた、大阪も變つて行くなあと思つた、大阪も變つて行かねばならぬと思つた。

○倉　屋　敷

その昔大阪の主要なる任務は何であつたか、元より三百の諸侯は德川の天下になつても大阪の富を不問に附することは出來なかつた、彼等は倉屋敷なるものを大阪の町外れに築造して御國米の貯藏所となし、船場、島の內の金權に結んで不時の用意、平時の融通を謀る事を忘れなかつた。從つて此等の倉屋敷の留守居役

は武士とはいへ、經濟の術に長け財政の理に明かにして町人との交渉に萬事拔目なき人物でなければならなかつた、從つて彼等と町人との關係は屢武士としての繩張を越えて、時に色茶屋の奥座敷に灘の酒を味ひ、南地五花街の解語の花に狂ふて時ならぬローマンスを醸き出した事もあつたらう。それと同時に藩の財政の整理に腐心して大阪の富に賴より天下の御發度を破つて海外貿易の策を立て美事成効の曉に端なく謀漏れ貴を負ふて及に伏した武士もあつたとか聞いてゐる。此等の倉屋敷の集合して居た舊時の大阪は所謂川の都であつて、陸路は町内の路次に過ぎなかつたものである、出つれば河橋、そして船、八百八橋の都は川を往還とする事彼のベニスの夫の如くであつたのである。安治川の流れに功業を立てた瑞軒や、道頓堀の掘鑿に一家の富を傾けた安井氏の事業は今に大阪の忘るゝ事の出來ぬ過去の光である、實にも東洋のベニスと稱へらるは其商業の繁榮に、天下の金權に、そして川の都として類似の多くの點を持つて居るのであつた。

處が最近の大阪は果して「川の都」と呼んで差支へないだらうかと不審を打つ丈の變化を遂げてゐる。「川の都」は明治時代に「煙の都」の名を頂戴してゐる。それは「川の都」が「煙の都」を兼ねて來たといふよりは「に代つて」來たといひたいつまり「煙の都」としての大阪は遺憾なく其使命を果してゐるが「川の都」としての遺業はいつか變轉の時世に逢着して居るのに氣かついて居る者は僕ばかりでもあるまいと思ふ。

○煙の都

電車の四通八達は四五年の間に大阪を縮少してしまつた、大阪名物の巡航船は見事に壓退されて今は安治川の一部に昔の俤を殘すに過ぎない、川といふ川は水量が減小されて、清い流であるべき淀の川も横堀も何々堀も干潮時には大傳馬船は航行不能となつて來た、倉屋敷の心臟であつた内堀並びに水門は無用の長物となつて漸次に埋められて行くか、或は腕白小僧の遊び場所になつてゐる、道路が擴張され修築され從つて枝川は却つて廢棄埋沒の運命に立歸つて行くのを見受ける大阪人が年々の行樂は從來川に限られて居た、遊山でなくて遊船であつた。それももうあまり見られなくなつて來た、箕面、有馬、奈良、和歌の浦は彼等の一日の行樂を得るに適當の名所となつた、年々昔の名殘に大川の兩岸に山と積まれて焚かれる天滿天神の夏祭の篝火は今でも名物の一となつて居るけれども、百船千船の群れて萬燈の紅、流を滿たした劍先も失せて、新しい運動場が出來上つて居る。「川の都」には年中行事の一として短艇の競漕に滿都の子女の血を湧かす樣な向島の景色はなくて豐中鳴尾の大グラウンドに難波健兒の强腕を示す春秋二季の運動會が催される八百八橋の缺には河魚料理の家形船の數がだん〳〵減つて行つて、河岸に安普請のビーヤホールや、怪げなカフエーが日に日に增加して行く、人車の通行も許さなかつた往還が寂しくなつて、自動車の背の番號がだん〳〵增して行く、昔の倉屋敷は何々倉庫會社となつて鐵筋コンクリート造の三階建二階建平屋建と改り「攝津守泰行」の棟札は物置の隅に時代の變轉を嘲つて居るのである。

「川の都」は今は全く「煙の都」と實質を整へてしまつて居るのである。



落花片々

○

一陽來復、春光駘蕩の時候となつた。落花紛々として窓を叩く、其響や大ならずと雖も時と共に同化して自然の懐裡に春風を生ずるの趣なきにあらず、飛花机上に堆きに及んでこを棄るに忍びず、誌上に羅列して片々の餘韻を味はんとす。

◆建築材料の公差設定の必要◆

K T 生

吾々が常に最も正確なるものとして絶對的に依頼して居る長短廣狹を測る尺度にも、輕重を見る衡器にも、多少を量る桝目にも其微細の差異は是を公差として公許されてある。

隨て吾々は其公差に對しては何等の苦情もなく又故障もなく取引は圓滑に行はれて行のである。

建築材料中に在りて最も正確の寸法を有する筈の鐵材に於てさへ我製鐵所は其重量長短廣狹に於て2%乃至10%の公差を規定し是を其型錄中に表示し其以上の制限には特別費用を要する旨を附記せり此公差は人工物の回避し得べからざる異差と、是以上の制限が實際上何等の必要なき事を証するものにして一面には取引上の爭議を回避し得る手段である。

現在の建築工事に當り其材料の受授や其工法に就きて果して其取引は圓滑に行はれて居るであろふが。習慣を不文律と思はない吾々は感情の舟に掉して建築常識の流れに逆行する事は決して避からざる事である。斯る場合に於て其立場を異にする監督者と實施者との間に見解の差異から起る數多の爭議を生ずる事は止むを得ざる事であろふ。止むを得ない事が現場用件の大部分で而も時間の不經濟と勞力と材料との浪費を來すものとしたならば吾々は是を止むを得ざる事として放任し置くべきであろふか？。

地形を貫ふ松丸太の末口に一二分の寸法の差を爭たり、其垂直を檢するに是を鐵板上に轉したり、數十萬の煉瓦を金槌で叩いたり又規定の尺度で一々測つたりスレートの厚サを一枚づゝ調べたりすると思へば又一方では單に常識によりて一見し何等特別の檢査を爲ざるものあり而

して兩者共同一の條件にて約束されたるものとすれば第三者より見て誰が其無法に驚かざるものがあろふ。

手加減が罪惡を生む母としたならば正直は勢ひ非常識の劍で手加減を刺殺するであろふ。

以上の場合に當りて公差が如何に兩者を調和し、妥協し而して相互の權利義務を明かにすることは疑なき事實である。

公差の未設定が請負者をして萬一を僥倖せしめんとし、注文者をして彼等を釣らんとする道具なりとせば其設定の實現は頗る困難のものであろふ。然れども現下の時代は斯の如き不備を僥倖し、不備に陷穽せしむべき卑劣陰險の時代ではない。もつと公明に而して如何に經濟的に且早く多くの建築を造つて行かねばならぬ時代である。

公差の設定は相互の誤解を防ぐ障壁であり前哨の無用の衝突を避けるブレーキである。是をしも必要でないとしたならば世には恐らく必要のものはないのであろふ。

▽缺陷ある住居と親しめるサークル▽

今田定雄譯

貧民が屢々住むべく餘儀なくせしめられたる非衛生的な、そして密群した住居を通じて貧は貧を生むのである。肉体的心的道德的の健康は利得の力が消耗し困窮が甚しくなて來た結果病むのである。

順序として我々は此の後者が、立体的容積の不充分が、平面的密度が過濃か、或は下水の缺乏その他の非衛生的な狀態に因つて來るかの問題に觸れるのであろう。

害せられたる外境は、屢々不健康を傳播する形を取る。疲れ切つたる勞役の後の回復は呼吸し消化をよくする爲めの、清らかなる空氣と、再び体を休める睡眠の爲めの、靜けさに充ちた周圍に因つて懸かるのである。

此等の不足する場所は多少の險呑なる筋肉の活動力の弛緩と、その早急に疲弊する傾向があるのである。他の病弱と頽廢を增す結果は、無職業と時間を失ふことに從つて生ずるのである。密群するに依つて健康を失ふに就て論及した、王室(ローヤル)コンミッティ委員會の報告に曰く「それは最も低い平均數の上で、唯單に疲勞の爲め勞働者は一ケ年間に二十日間を徒にする。そこで賃錢を失ふから、家賃を增加させらるゝと同じことに向ふのである」

外界の有害なる環境の影響は、小供の場合に殊に顯著なることは、ドクドル、ダブリウー、レスリー、マツケンヂー氏及キヤプテン、エー、ホスター氏が、グラスゴー市に於て行ふた調査によつて能く示された通りである。

此の報告を收めた議員報告(ブリユーブック)錄に於て、男兒と女兒が、その住居或は貸間に於ける室の數に依つて平均身長と体重とに著眼して區別してゐる。依つて若し五歲から十八歲までの兒童を、斯の如き基礎の上に類別すると次の如き等級ができる

	体重	
一室の男兒の平均重量	五二、六ポンド	
二室	同	五六、一 同
三室	同	六〇、六 同
四室	同	六四、三 同

身長

一室の男兒の平均尺度　四六、六インチ
二室　同　四八、一　同
三室　同　五〇、〇　同
四室　同　五一、三　同

体重

一室の女兒の平均重量　五一、五ポンド
二室　同　五四、八　同
三室　同　五九、四　同
四室　同　六五、五　同

身長

一室の女兒の平均尺度　四六、三インチ
二室　同　四七、八　同
三室　同　四九、六　同
四室　同　五一、六　同

此等の表は室數の少なければ少なるほど、他の室數の大なる兒童に較べて貧相（ライター）であることを示めしてゐる。調査された人數は、三萬六千八百人の男兒と、三萬六千人の女兒と云ふ夥しい數に及んでゐる

損はれたる外境は、兒童が勞働に行くとき利得の力を減耗せしむるばかりでなく、多くの場合一生を通じて、能率の減退と貧窮の結果を齎らす。缺陷ある家屋は、死亡率の上にも亦著しい影響を持つてゐる。此れは、ドクトル、エー、ケーチャルマー氏の公けにした、一乃至四室以上の住家に於ける死亡率を示した表を比較しよいやうに年齢及び性を括めて攻めた。その結果は左表の通りである。

死亡率4分率

室數	凡ての年齢	一歳未滿	一歳ヨリ五歳
1	20.14	216.25	40.46
2	16.83	163.88	32.20
3	12.63	128.25	17.94
4ピ及以上	10.32	102.57	10.27

表の通り死亡率の上に著しき相違を示すは、勿論家屋の狀況に全然據るものではない。極貧と營養の惡しき人達、乃ち最も病氣に感受性ある人達は勢ひ惡しき住居に住ふようになるであらう。尙且、或部類は他の部類より、より不健康的な境遇にゐるだろう。併し死亡率の增加の一部は、正確な割合は表に現はし得ないとしても、缺陷ある住居に生活する上に據つて懸ることは疑ひのない事實である

ツヤミエソン、ピー、ハーリー氏の「貧とその惡しき環境」（ポヴァティエンドイツツイシアスサークル）の中より摘譯

□所感□

普通選助員　直心生

歷史あつての一大記錄とすべき此の大戰は、內外共に各種の未だ想當せない事物を生んだ。人間は益々自覺し向上して來た。此の氣運に促されて來て我が建築界も多忙であつた。斯る時に際して此の大阪に建築協會の生れたのを我等は非常に悅んだものである。

最初は如何なる內容のものであるかを知らなかつたけれども、協會で發行された會誌を觀唯々此の誌上に現はれた點より觀察しても時勢の生んだ寵兒的のものであると云ふ事を思はされた。

世は漸く進んで善幕的思想も薄らぎ武斷的又は官察的支配を受けるもとには生

活を否む樣になつてきた。

是を換言すれば民本主義的の時勢に航してきて各種の機關を其もとに改善創造されて來て居るのに我か建築界はあきたらないながらも、建築學會や建築世界的氣分に滿足せなければならなかつた、割合に進歩的な浪華會があるけれども貧弱の感がある。

然るに當協會を之までの微溫的な行動にあき足らず急進的に驚鐘を鳴らしたので內の者でも外の者でも定めし驚かされた事であろうと信ずる。しかも其れが學術の府たる東京に於てであるならば左程でもないが、東洋一とも云はるる工業の都ではあるが理知的或は啓蒙的には兎角はうとんぜられて居る大阪に於て創設されたと云ふから其處に尙一增大なるものがある。或いは東京の建築界に對して皮肉を語るものでなからろか。

斯くして我々は物事の創設當時に於ては野心家に乘ぜらるる事多きを聞くものであるが、何等そんな事もなく今日は益々基礎強固になりたるを聞き大阪に於ける大なる建築家達の健闘を賀せない譯には行かない。

國家社會に貢獻せらるるかたわら小な る建築家にも、指導の範をたれられん事を、小なる建築家も亦爲す處あらん。

コンペチション

普通贊助員　K　M　生

議院建築問題に關する我が關西建築協會の眞面目な論鋒も馬耳東風と聞き流して政府の御役人樣はどん〳〵腹定の計畫を實行する樣である。協會の堂々たる努力に手答へがない樣に見ゆるけれども、とかく官僚政府の頑迷な處へ野人の本領を沒却せる黨人が黨爭をのみ是事とする有樣だから、時勢が時勢だと解譯して必ずしも憤慨するの必要がないかもしれぬ。それにしても出來上つてから仕末に困る顏が目に見へる樣だ。コンペチションにしても建築學會が骨を折つて吳れた程御役人樣は察しては吳れないに違ひない。いはば氣休めの申譯の印迄に催すのである樣である、コンペチションになつたらそれでよいではないかと申さるゝ人達に此度の懸賞の結果を見て貰いたいと思ふれ、協會で主張した樣にコンペチションの結果第一等當選者が其建築工事に關係して主任技師とならぬまでも顧問といふ事にでもなればともかく、唯圖案を買つて貰ふ丈で、其圖案も物置の隅に抛げ込まるゝ位が落だとすれば、應募するのも考へ物ではあるまいか。

コンペチションの結果が國民の滿足を得るにしろ、得ないにしろ、大藏省の原案に近いものが實行されてしまふのだろうと思はれざるを得ない、何となれば一國の最も重大な建築を一事務所建築と大差ないと迄考へてゐる御役人樣の事だから、國民の頭を集めて將來の憂のないものにしたいといふ樣な大きな腹は因よりない、そこで私等は今度のコンペチションの結果について本當に心配でならないこの點については協會の先達の方々はもつともつと眞面目に考へて貰いたいと思ふ。



三越呉服店災害調査報告書

第四部委員會

□序　言
□罹災前の建物
□出火の原因
□罹災後の調査
□損失の程度
□結　論

●序　言

大正七年三月二十九日午前二時四十分頃、大阪市東區高麗橋通一丁目三越呉服店舊館東北部三階小屋裏圖案室附近より出火、木造家屋の事とて忽ち各部に燃え擴がり、二階より階下をも舐め盡し、東北の風に煽られて紅蓮の焔は、西部に聳立する七層の新館を襲ひたれども、堅牢なる鐵骨耐火耐震構造なれば痛痒を感せず、火鋒は却つて仕入部商品倉庫より伏見町に面せる民家に燃焼し二戸を焼失し一戸を半焼とし午前五時半鎮火せり。

本委員會は直ちに調査を開始し、當日午後現場を視察し、急擧起草に着手し本號に載することを得たり。蓋し今回の火災は災害として特筆すべき異常の性質あるに非ずと雖も、吾れ人共に新築落成後間もなき新館がよく其耐火性を發揮して火勢を遮斷し、幸にして罹災の範圍の制限せられたること、並びに此最新式構造物の抵抗力を實際に試驗し得たることは注目すべき事實にして、特に報告記載して世上識者の參考に

資し且つは専門家側の注意をも換起せんと欲するものなり。

● 罹災前の建物

今回罹災せる舊館は大正二年新築せるもの及び同四年增築せる陳列場並びに別館附屬家等より成り、合計四百五十二坪を算する木造建物なり

一、商品陳列場　建坪二百八十二坪

内 西部（木造瓦葺二階建）一壹百四十八坪（大正二年落成）
　 東部（木造瓦葺三階建）一壹百三十四坪（大正四年增築）

一、別　館（木造瓦葺二階建）一八十二坪（大正二年增築）

一、附屬家（木造瓦葺平家建）一八十七坪五合（同上）

合計建坪四百五十二坪

此等の建物は新館建設前準備のために順次增築補修して營業せしものなることは世人の記憶に殘れる所にして横河工務所の設計監督に成り道路側に面する壁は木骨木摺打鐵網張火山灰入モルタル塗、化粧煉瓦張にして腰は約四尺迄花崗石を用ひ、柱形は人造石塗とし北側及東側正面に出入口を設け一は來客用裏口にして一は店員用出入口とす、此等は專ら庶務室雜品室家具室等に用ひ、軒高三十尺、東北部のみは小屋裏を三階室とし裝飾部に使用しつゝありき。西北部二階より新館に接續せしめ以て來客用裏口に連絡爲つゝありき。

新館は現今大阪名物の隨一となれり。堺筋の東側に聳立せる黄色の高樓は現代大阪商店建築の代表的建物にして千客萬來のデパートメントストアーなり。横河建築工務所の設計監督に成り主として竹中工務店の請負に係る、約二ケ年の工程を費して昨年九月末竣工せる鐵骨煉瓦造にして地下室を加へて八層を有する高層建築なり軒高一百五尺、建坪三百三十坪、延坪三千七百九十五坪を算す。街路に面する部分は花崗石及化粧瓦を使用し、東南部は化粧瓦及人造石塗となす。床は鐵筋コンクリート造にして、窓出入口は建具に鐵製を取付け東南兩部の窓出入口は大野式シャッターを設けあり、尚防火設備としては屋上に水槽を設け各階を通じて十七ケ所に消火栓を設け萬一の場合に應せしめ、更らに常



設蒸氣ポンプ並びに水道用ポースを設け不時の際の警戒怠りなかりき。

舊館此は石造三階建の三井物産會社と相對して高麗橋通りを挟み、東は八百屋町を隔てゝ、民家に面し、南は伏見町に屬する民家に隣接す。固より木造家屋なれば一時的建物にして他來の火災に對しては相當の抵抗力を有するも、一朝自火を惹起せんか全く抵抗力なき可燃性建物なり。されば今回不慮の厄に相遇すること何等の奇異なく、當然の事實なりとす。唯當事者が新館落成後今日迄外來の防火に腐心して早晩取毀を斷行するの機會を捕べすして常時憂慮せるは蓋し千慮の一失乎。

● 出火の原因

出火の場所は舊館の二階より三階に通ずる階段の壁間なる由にて最初近隣のもの之を發見し之を警防夫（同店所屬）

に傳へ、更に宿直長に報じたれども時既に遲く、木造此種の建物は火廻り殊に早く、消防隊の來援する時機に及んでは猛火屋上に盛んにして東北風を呼び遂に如何ともすべからざりしなり。

出火の原因に就いては遂に不明に葬られんとするに到れること甚だ遺憾なりと雖、放火に非ざることは確實なり、同店にては新舊兩館に八名の宿直員詰め居りて絕えず館內を巡警し、當夜も一時頃迄は何等の異狀なかりしといへば、或は漏電ならん乎との說喧傳せらるゝに到れり木造可燃性建物の火災が屢々漏電により發火する事實は世上之を認むると雖も、多くの場合に於て眞想を調査することなく徒らに漏電に歸するは自他共に甚だ遺憾至極の次第なりといふべし、今回亦過失乎、漏電乎の論爭を見たるは面白からざる現象といふべく、吾人は茲に參考のために新聞紙上に傳ふる記事を拔萃して他日の資料とせん。

三越吳服店舊館の燒失は近來の著しい火事であつたが之が出火の原因に就いては目下之といふ確かなる認定が付かない。所轄東警察署長は店內の火仕舞が惡かつたものとして或はよくある煙草の火であろうといふ推定を下して居る煙草の火で無くも充分發火室の不始末に原因するものと固く睨んで嚴密に調査を進めて居るが、火元の三越では此の說を頑る酷な推定だと云つて小田支店長の如きは是非共眞因が此以外に在る事を發見する爲めに、店の內外に亘つて精細に調べて居るが、調べるに從つて不審の度が增すと稱して居る。

『當店から出火して世間に迷惑を掛けた事は重々相濟まぬ事と存じて居ます、火元としての責任は充分感じて居ますが、警察の調べは如何も肯定する事が出來ません、發火した室の側に隣接した下の家に淸水といふ家があります。此家の老人は每夜度々便所に起きる癖で當夜も午前二時十分頃便所に行くと、接した空地に煙が西から東へ漂つて居るので、隣のミルク屋かと思つてミルク屋を叩き起したさうで、斯く外部に煙が噴き出る迄なら其一時間前に確かに見廻つた夜警が知らない筈は無いのです、それが其時解らなかつたとすれば火は餘程速く廻つたものとして火の性質も考へればなりません、而して又發火した三階の室は概に入れた雜貨があつた室で、常に人の出入りする所でないから煙草の吹殼が在ろう筈もなく、置いてあつた品物にも發火性の物はありません、且つ火が其三階の天井から燃え出した事も充分考察すべき事柄でせう、當店は失火の罪を否定はしませんけれど原因を確めないで、漫然と火の不始末位に認められて置く事は後例を殘すに惡い事だと信じて飽く迄も其點を明

かにして貰いたいのです』と語つて居た。

一方東署の太田警部は『放火でない事は確に認め得る失火の原因は他に在ると信じて尚調べ中だが夜番の巡視とか店員に對する平素の注意や規定が完全に行はれて居るか否かは常識から云つても斷言出來ない』と稱し暗に三越の失態に就て見る所在る口吻であつた。更に漏電說が有力の原因に見られて居るが從來火事の度に此漏電が引合に出されるので、電燈會社では常に之を否定し、漏電は出火の原因を作るものでないと抗辯するの慣しだが、火事の經驗者は此說を承知しない、今度も三階の天井からと云はれて居るのは此の說の或る裏書を爲すものではあるまいか、それにしても火事の原因といへば警察と火元と電燈會社が各自の立場から爭ふ事は毎度の事で今日迄出火原因が確に解決されてない火事が澤山あるのは研究すべき問題であるまいか。

（四月一日關西日報所載）

失火發見當時の狀態は多くの場合に於て混亂と狼狽との結果、一面出火の原因の不明となり一面出火報道の失念は消防隊の到着の遲延となること概ね然り、今回亦原因は不明に歸し、出火報知器は使用せられず、消防隊の救援は遲延せるは遺憾至極といふべし、可燃性建物の揃比せる都市に在りては、消防署の警戒豫防はさる事ながら、市民亦平時に於て相當の準備となし出火報知器の利用、通信機關の善用に注意し以て相互の救援應力の實を擧げざるべからず、消防に關しては當局者の發見に任して省みざる如きことあらば結局相互の損失を增大するの結果に到るべき也。

消防隊の救援たとへ遲延する處ありたるにせよ、八百屋町の小路を隔てゝ、東側方面の防禦並びに南側及び西南部の消防に奏効して損害の甚大ならざりしことは感謝すべき事實なりとす

● 罹災後の調査

木造洋式の建物が自火の際には殆んど完全に燒却さるゝこと數多の實例に見るべし。今回の火災に就いて見るも舊館北部及東部の側壁殊に火元部の眞下なる東北隅が稍大きく殘れると西北部の通用口上家が殘れる外、大概燒失し床渠の大材並びに鐵渠が散亂せるを見るのみにして新館を襲へる火力が如何に猛烈なりしか想像に難からず。要するに此の種の建物は外來の火勢に些少の抵抗を示せるの外、火災に對しては薪

炭も啻ならず、商店建築として一時的事務には必ずしも排すべきに非ずとするも都市建築としては避けたき構造物なり。

當日、出火の際に在りては風なかりしも猛火屋外に奔出するに到つて東北風起つて火勢を西南に壓したれば風下に當る伏見町道修町平野町方面は火粉散亂して危險いふばかりなく遂に飛火走つて伏見町の民家の屋上に宿り二軒を燒き一軒を半燒とせるが、南側に連立せる數個の土藏造は舊來の抵抗力を發揮しよく防火の功を擧げたるを見る。

三越呉服店が平時に於て舊館の可燃性建物に就て特に憂慮し、警防夫、宿直員を配置し、且つ非常用ポンプをも備へありしに係らず、一朝火を失し遂に灰燼に歸す、畢竟此種可燃性建物の信頼すべからざるを示せるを觀る、都市に於ける防火設備は先づ建物より改革の手を加へざるべからざる事を痛切に敎へられたるを覺ゆ、而して西隣に屹立する新館が鐵骨耐火耐震構造物としての抵抗力は吾人の均しく知らんと欲する所なり。

新館は實に鐵骨構造にして、外壁は花崗石、煉瓦及鐵筋コンクリートを使用し完全に近き耐火耐震構造物より補助防火設備としては東南兩部の窓及出入口は悉く大野式シャッターを取付け、窓障子は巢鴨製作所製鐵障子を備へ、舊館へ連絡せる二階よりの出入口は外部に更に鐵飯張（內部木造）兩開扉を設けて不時の防備とせり、各階を通じて十七個の消火栓を備へ屋上の水槽に連結せしめ地下室に裝置せる電動機により給水せしめありたり、必ずしも完全なる防火設備に非ずとするも、今回よく其效果を現はし全く類燒の厄を免れ得たる也。

火焰の猛襲を蒙りたる東側外部は主として煉瓦並びに鐵筋コンクリート造より成り石材を使用せし部分なく、被覆用としては張付黃色タイル及人造石塗なりしかば窓楣及窓臺部に於て二三ケ所剝脫せしを見る外全く異狀なく、舊館との連絡部（北寄り二階）より斜に南寄り軒に達する迄外面黑燒せるに過ぎず。

されど出火當時新館内に在りたる店員の實見談に依れば壁体は何等の異狀なかりしも窓出入口に於ける防火設備は尚不安を免れざるものありたるが如し、危急の際店員の防火隊は悉く消火栓を抜き、各窓及出入口を警戒して萬一に備へたりしが、窓の外方に在りたる大野式防火扉（シャッター）と窓臺との間隙よりは盛んに火焔を漏らし、甚だしきは火舌一二尺に達し内郡に在りたる鐵障子に吹き付けたり、されば窓枠並びに玻璃板は熱して手を觸るべくもあらず遂に硝子は溶解せるあり龜裂せるあり依つて注水して之を冷却せしむるに努力せしが火勢は障子と防火扉との間を上昇して欄間障子を襲ひ其回轉障子上部の僅かの間隙より窓上部箱枠下端に火熱を傳へ其「ペンキ」塗を溶解せしむる程の襲撃を逞ふせりされば若し此建物にして内部の鐵障子が木製なりしか、上部箱枠が木製なりしならんには恐らく延燒を免れざりしならん。されど耐火的構造に信頼せる店員は不安を感じながらも室内貨物には全く手を觸れずして專ら注水防備に全力を注ぎ得たる由なり。

是を以て考ふるに眞に完全なる耐火の目的を達んには耐火構造の建築物に簡單なる防火扉（シャッター）を附せるのみにては未だ十分と云ふべからず、窓枠障子は是を鐵製とし窓内部周圍は木材の接觸を避けざるべからざるを明かに示せり。

東側二階に在りてる唯一の出入口は外方にペンキ塗鈑張木製防火扉を設へたれば安全の程度に於て遺憾なく内部に垂下せるシャッターの熱せられたるに過ぎざりしも若しこの二重設備なくシャッター丈の防備なりしならんか、面積の大なりし程危險の度大なりし事想想に難からず。

以上を要するに耐火構造建築物に於ける補助防火設備は猛火を遮斷するに於て最も有効なりしことを立證せるものにして若し外部の「シャッター」なかりし場合を想像するときは新館の損害は如何ばかりなりしか察するに難からざると同時に「シャッター」及窓設備の完全を期する爲めには建築構造に從事する專門家は更らに愼重の研究を必要とするを認むるなり。

● 損害の程度

舊館建物は竣工當時六萬圓內外なりしも時價よりすれば優に十萬圓內外の價値ありといふべく商店の一部は店員の手によりて新館に移されたりと雖、大半燒失し損害高二十萬圓に及ぶべしといふ、殊に四月上旬開催の筈なりし兒童博覽會の準備品を燒却したるは惜しむべしとせらる。

然るに保險は舊館建物に、千代田、東京、日本、明治、横濱其他に十萬圓舊館內商品に五萬圓新舊館建物共通に五十萬圓、同上共通品に十四萬圓の保險を附しありたりしといへば結局差引同店としての損害は些少なりしといふべし。

● 結　論

三越呉服店舊館の失火に歸因する災害に就いては尙ほ學術的參考資料甚だ多きを認めたりと雖、如何なる故か當事者は本部委員の寫眞撮影を禁じたるを以て亦敢ねて調査を進めざることゝせり。

是を要するに本災害より得たる主要なる敎訓は都市建築としての新式耐火耐震進建築物の猛火に對する痛切なる實驗を試みたるに在り、且つ可燃性建物の危險至極なるを明示せるものにして、如何に外來の防火設備を講ずるも一朝自火の際は何等得る所なきを語るものなるべし、而して猛火暗夜を照らせるとき西部に屹立せる新館と北部に面せる三井物產會社建物とが如何に四隣の安心を得たるかを觀ると同時に南隣に並立せる四棟の土藏造建物が相等の効果を齎らして消防隊の活動に便宜を與へ得たるを忘るべからず、猛東火北風に煽られて火勢は帳薄類の火粉を西南部に飛ばし、遂に伏見町に面せる家屋に類燒の厄を味はしめたりと雖も消防隊の活動は善く其火鋒を制し以て損害を大ならしめざりし事は市民の宜敷感謝すべき事項に屬すべきを信ず、

終りに臨んで吾れ人共に耐火構造物の有用なることを確認すると同時に、大都市の現狀が一日も早く改善され主要道路の建築園が耐火耐震構造に建設され恐るべき都市の大火の原因となるべき此等の小規模の火災が局部々々に制限せられ得ることゝもならんこと切望に堪へず、殊に今回の火災が示せる最も有力なる實例は誠に貴重なる參考資料なるべし。



會報

會誌

一、本會雜誌第一輯第五號は三月下旬刊行することを得、理事會の決議に基き、各各府縣知名有力者各種學會協會及各新聞會社並びに建築に關係ある各學校に寄贈配布し置きたり。

一、從來建築學會正員諸氏へ寄贈せる會誌は第四號郵送後勸誘狀を追送して購讀承諾を求めたるに、大多數の御賛同を得たるは本會の感謝措く能はざる處なり。

理事改選

一、本會春季大會の際理事改選の結果左の三氏當選せり。

野村一郎　日高胖

松本禹象

一、四月上旬臨時役員會に於て協議の結果左の三氏辭任せり。

宗兵藏　葛野壯一郎

設樂貞雄

職員移動

一、臨時役員會に於て新舊役員協議の結果職員の分擔を左の如く定めたり。

主計　池田實

主記　波江悌夫

編輯　武田五一

編輯　野村一郎

編輯　日高胖

一、尙臨時役員會の決議により左の三氏を編輯補に指定せり。

佐藤四郎　伊藤正文

本田登

一、尙臨時役員會の決議により左の二氏に書記の事務を依頼せり。

岡部顯則　小谷信藏

一、本會書記山本辰次郎氏は今回都合により辭任を申出でたれば理事會に於て承認せり、尙ほ同氏の本會雜誌發行兼編輯印刷人たる職務をも解きたり。

一、本會雜誌發行兼編輯印刷人後任は理事會の決議により伊東幸太郎氏に依頼嘱託せり。

新入會員

一、左の諸氏は本年二月名譽賛助員として本會より推選し好く承諾せられたり。

（イロハ順）

林市藏　堀啓次郎

大谷順作　渡邊千代三郎
山口房五郎　安永義章
島德藏

一、左の諸氏は春季大會に於て會員として入會の承諾を得たり。

齋藤久孝　本田登
大倉直三　千賀正人
中榮徹郎　岩井長三郎
松室重光　出浦高介
木村得三郎

一、左の諸氏は理事會の承諾を得て終身賛助員として入會せられたり。

須賀藤五郎

一、左の諸氏は特別賛助員として入會の承諾を得たり。

能勢丑三　伊藤清造
古賀郷實（サトミ）　馬野七登（シチト）

一、左の諸氏は今回本會普通賛助員たらんことを申込まれたるにより理事會の決議により入會を承諾せり。

增本榮六　松島省內
樋口辰太郎　竹內緣
西岡道臣　菅野久一
森岡逢三郎　廣岡峯太郎
清原佐一　小谷信藏
飯塚健三　中川將
古澤喜次郎　櫨藤洗二
佐々木伊勢藏　原一定
太田四郎　計十七名

會員退會

會員龜岡末吉君は今回都合に依り退會せられたり

寄贈雜誌及新聞紙

建築雜誌三月號（建築學會）
建築世界三月號（建築世界社）
內外建築三月號（內外建築土木時報社）
土木時報三月號（住宅改良會）
住宅
中央電氣協會會報（中央電氣協會）
木材新聞（木材新聞社）

會合

春季大會

日時　大正七年三月廿三日　午後六時ー十時
會場　北區梅田町ー靜觀樓
出席　池田、葛野、宗、設樂、波江、吉木、牛村、木子、松本、新海、增田、田中（勘）佐藤（彰）木村、森山石田、橋本、伊藤（正）谷本、一井系崎、原田、大林、渡邊（節）渡部鷲尾、加護谷、吉井、長野、谷、田村、園部、內藤（益）中村、宇佐美、浦、野呂、柳下、山口、藤井小林、荒川、平井、光安、宮本、宮嗣、平井、森、瀨戶、計四十九名

記事

一、宗理事座長となり開會の辭を述べ、本夕は大會と稱すれども役員改選、細則一部變更並びに會員詮衡等の議事あれば例會を兼ねたる會合にして主として會員の懇親を目的とせる旨挨拶ありたり。

一、理事半數改選の結果左の三氏當選せり

野村一郎　四十五票
日高胖　四十二票
松本禹象　三十三票

一、新入希望者九名の詮衡をなし全部の入會承諾をなせり

一、細則一部變更改正の決議をなせり、左の如し

第十二條　書記は「當分一名」を「二名」と改む。

第十五條　例會は「十三日」を「十七日」と改む。

第十六條　例會の決議は「會員數三分ノ一以上」を「會員數（地方ニ在ルモノヲ除ク）の三分ノ一以上」と改む。

第十九條　會誌の發刊は「當分隔月一回」を「毎月」と改む。

第二十一條　「會員數」の下に「（地方ニ在ルモノヲ除ク）」を加入すること。

一、右決議終了後懇親會を開き餘興として圓子の落語に頤を解き、長唱勸進帳に耳を傾け和氣藹々のうちに各自意見交換をなし、散會せしは午後十時なりき。

日時　大正七年四月五日　午後六―十時

會場　大阪倶樂部

出席　片岡、武田、葛野、池田、野村、松本、波江、岡部（書記）

記事

一、協議の結果宗、設樂、葛野三氏辭任する事となれり。

一、新舊理事協議會を開き職員の分擔を定めたり、

一、第二部委員會に增員を必要とし左の諸氏を追加する事となり

橋本、渡邊、小林、浦、佐藤（彰）、藤井、吉木、松本

一、今後理事會は毎月一日及十五日を定日とすることに申合せたり。

一、本月例會を講演會とすること並びに新設委員會に就き意見を交換をなしたり

（以下次號）

◆編輯だより◆

○　春色駘蕩之候、諸彦益御淸穆奉賀候、本會事業の發展に伴ひ、本誌の任務は頗る重大と相成申候、唯是努力精進あるのみに御座候。

○　本誌へ御投稿御希望の諸彦は、御申越次第本誌原稿用紙發送仕るべく候間、奮つて御通信並びに御寄稿あらんことを希望に堪へず候。

○　本誌へ御投稿相成る諸彦にして匿名を用ゐらるゝこと差支無之候へ共、會員、賛助員或は講讀者等御明記相成度候、

○　本會へ御入會御希望の諸彦は、本會々則御一讀の上御申込相成度早速入會希望書發送代るべく候間御一報願はしく候。

○　本誌購讀御希望の諸彦は、本會事務所宛御申越相成候はば早速發送仕るべく候、尙本會は振替口座（大阪三九九七五番）へ加入仕居候間此段申添候。

（編輯員一同）

ベネチヤ市建築條例



ベネチヤ市建築條例

第一章　總　則

第一條　（豫メ許可ヲ受クルノ心要アル建築工事）

第二條　第四條第五條　（建築工事ノ許可申請書ニ添付スベキ書類及之ニ記載スベキ事項）

第六條　（建築工事ニ關スル法令ノ遵守）

第七條　（工事認可書ノ下附）

第八條　（土地使用料ノ納付ト保証金ノ供託）

第九條　（認可書ニ添付セラルベキ書類）

第十條　（申請書ノ却下）

第十一條　（認可ノ有効期間）

第十二條第十三條　（緊急工事）

第十四條　マラモッコ區ニ（本條例中ニ包含スル規定ノ適用）

第二章　公私ノ安全及衛生ニ關スル規定新築ニ關スル規定

第十五條　建物ノ新築及現ニ存在スル建物ノ修繕ハ技術上善良ノ法式ニ則リ其用途ニ應シテ堅牢及安全ニ關スル必要條件ヲ悉ク具備セザルベカラズ

▲健康ニ有害ナルカ若クハ危險ナル工場

第十六條　人口ノ最モ稠密ナル所ニ於テハ主ナル陸路若クハ水路ニ沿ヒ或ハ其附近ニ於テ健康ニ有害ナルカ若クハ危險ノ虞アル工場ヲ設置スル事ヲ得ズ

▲煙突ノ陶冠竈暖爐等

第十七條　爐、其被覆、竈、暖爐、暖室等及一般ニ熱及煙ノ道管ハ火災ノ危險ヲ避クルニ適スル物質ヲ以テ建築セラレザルベカラズ且又其通過セザルベカラザル所ニ燃燒シ易キ建設物ノ存在スルトキハ其種類ノ如何ヲ問ハズ可成之ヲ避クルノ設備ヲ爲スベシ

煙突ノ陶冠ノ外部ノ開口ハ少クモ屋根ヨリ一米突高キ所ニ之ヲ設クベシ煙突若シ石岩泥炭若クハ近隣ニ損害或ハ迷惑ヲ蒙ラス燃料ヨリ發生スル煙ヲ吐出スルトキハ半徑十五米突ノ周圍内ニ存在スル建物ノ最モ高キ屋根ノ頂上上ヲ越ユル事少クモ一米突半ナラザルベカラズ但人家ノ存在スル所ニ於テハ公認セラル、工業ノ煙筒ノ高サノ最大限度ヲ定ムルノ權ハ參事會ノ權限ニ屬ス

高サノ甚シキ煙筒ハ鐵ノ支柱及繩索鏈

鎖等ヲ用ヰテ適當ニ其安固ヲ計ラザルベカラズ

▲階　梯

第十八條　新築ノ家屋ニ於テハ一層ヨリ他層ニ通ズル階梯ノ一個ハ少クモ石材若クハ金屬ヲ以テ造ラレザルベカラズ

▲劇場及其他ノ興行場ノ檢査

第十九條　劇場及公衆ノ觀覽ヲ目的トスル常設或ハ假設ノ興行場ハ法令ノ規定ニ遵由スベキハ勿論堅牢及安全ニ關シ市ノ當局者ニ依リ豫メ檢査ヲ受ケタル後ニアラザレバ之ヲ公開スコトヲ得ズ

▲建物危險ノ狀態ニ在ル場合ニ施スベキ設備

第二十條　如何ナル種類ノ建物若クハ製造所タリト雖モ危險ノ狀態ニ在ルトキハ市ノ當局者ハ其所有主ニ對シ相當ナル期間內ニ所要ノ設備ヲ施スベキコトヲ催告ス

催告ニ應ゼズシテ之ガ設備ヲ行ハザルトキ若クハ一刻モ猶豫シ難キ危險アルトキハ市長ハ法令ノ規定ニ基キテ之ヲ處置ス

▲新建築物ノ高サ

第二十一條　新築若クハ增築ノ建物ノ高サハ隣路若クハ水路ノ幅員三米突以下ナルトキハ九米突、三米突以上ナルトキハ其幅員ノ三倍ヲ超過スル事ヲ得ズ改築ノ場合ニ於テハ建物ノ取崩シ後少クトモ三箇年以內ニ改築ヲ了スル場合ニ限リ其從前ノ高サヲ本條所定ノ高サヲ超過スルモ別ニ之ヲ改ムル事ヲ要セズ

川幅ハ河ノ兩側ニ在ル基地ノ間隔ヲ測定シテ之ヲ定ム

マラモツコ區ニ於テハ建物ノ高サハ道路ノ幅員ノ二倍ヲ超過スル事ヲ得ズ

第二十二條　道路ノ境界線ヨリ全ク引込ミテ建築セラルヽ建物ノ高サハ道路ノ幅員ニ空地ノ幅員ノ二分ノ一ヲ加ヘテ之ヲ算定ス

引込ミガ一局部ニ止マルトキ即チ建物ノ最上床ノミ全ク引込ミテ建築セラレタルトキハ引込ミタル部分ノ高サハ殘リノ建物ノ高サヲ加ヘ其全高引込ミタル箇所ノ幅員ヲ加ヘタル道路ノ幅員ニ比例スルコトヲ要ス

但市長必要ト認メタルトキハ該規定ノ適用ヲ拒否スルノ權ヲ有ス

第二十三條　著名ナル記念物ノ附近ニ於ケル建物ノ新築若クハ其高サヲ增ス場合ニ於テ該建築或ハ其高サノ增加ニ依リテ附近ノ紀念物ノ內部若クハ外部ヲ暗黑ナラシメ若クハ其眺望或ハ遠望ヲ妨グルトキハ市長ハ裝飾委員會ノ意見ヲ聞キ第二十一條所定ノ高サ以下ニ其高サヲ制限スルノ權ヲ有ス

第二十四條　道幅ノ不揃ナル道路ニ於テハ建物ノ高サハ其面スル道路ノ幅員ノ平均數ヲ取リテ之ヲ定ム

第二十五條　二個ノ道路ノ角ニ建築セラルヽ建物ノ高サハ廣キ道路ヲ標準トシテ定ムベシ但シ廣キ道路ヲ標準トシテ定メタル高サトナスベキ狹キ道路ニ面スル建物正面ノ高サハ必ズ廣キ道路ニ面スル前面ノ高サニ等シカラシムベシ

第二十六條　建物ノ高サハ隣路ニ在ラハ道路ノ水平面上、水路ニ在テハ普通滿潮ノ表面上一米突二十珊ノ所ヨリ長押若クハ軒上牛階ノ最上ノ線マデヲ計算ス

被蓋ヲ有シ若クハ有セザル持送リ椽、平場若クハ望樓及長押若クハ軒上牛階

ノ上方ニ於ケル局部的突出物ハ其種類ノ如何ヲ問ハズ建物ノ前面ト同一垂直線上ニ在ル場合ニ限リ高サノ中ニ含マルベシ

前項所掲ノ各部分ヲ引込メテ建設スルトキハ便宜第二十二條ノ規定ヲ適用セラルベシ但市長ハ建設物ノ性質形狀大サ及土地ノ狀況ニ應シテ該規定ノ適用ヲ制限スルノ權ヲ有ス

▲建物ノ高サニ關スル規定ノ適用ノ制限

第二十七條 建築術上必要ノ顯著ナル建物若クハ特種ノ用途ヲ有スル建物ニ在リテハ市會ハ建物ノ高サニ關スル規定ノ適用ヲ制限スルノ權ヲ有ス

第三章 棧架、防禦物及目標

▲工事ノ爲メニ使用スル公有地ノ板圍

第二十八條 建物ノ取崩シ、新築、改築修繕及其公有地若クハ公衆ノ通行ニ充テタル土地ノ占有ヲ必要トスル工事ニ在テハ市ノ當局者ヨリ其都度規定セラルベキ特別ナル方法ヲ以テ工事ヲ行フ場所ニ板圍ヲ爲スコトヲ要ス

第二十九條 入口及窓ノ戸扉ニシテ市有ニ屬スル土地ノ板圍ニモ暫時用井ラレタルモノハ常ニ外ヨリ內ニ開カレザルベカラズ

▲公ノ點燈ノ圍繞

第三十條 公ノ點燈ヲ包圍スルトキハ之ガ圍ヒノ建設ニ着手スル二日前ニ工事ヲ命シタルモノ或ハ臨時ノ處置トシテ之ガ工事ヲ行フモノ土木課ニ之ヲ通告スベシ

▲電線瓦斯管ノ如キ地中及空中ニ於ケル傳体布設權ヲ有スルモノニ對スル豫告

第三十一條 撐材（ツカヒ）、圍ヒ或ハ防禦物ヲ設クルガ爲メニ舖道若クハ其他ノ道路上ニ存在スル建設物ヲ除去スルノ許可ヲ得タルモノハ地中及空中ニ於ケル傳体布設權ヲ有スルモノニ其旨ヲ通告シ同傳体ノ破損ヲ豫防スルノ目的ヲ以テ其者ノ指示セル指圖ニ從フノ義務ヲ有ス

▲棧（アン）架（バ）

第三十二條 公衆ノ通行ノ必要若クハ其他特別ナル事情ニ依リ土地ノ包圍ヲ許可セラレズシテ棧架ヲ建テザルベカラザルトキハ棧架ニハ欄杆蓙ヲ据付ケ碎片及粉末ト爲リタル原料ノ墜下及流動性原料ノ漏泄滴下ヲ防止スベキヤウニ地板ヲ張ラザルベカラズ

第三十三條 前條所定ノ場合ニ於テハ棧架ハ陸路ニ於テハ道路ノ表面上二米突五十珊以上ノ所ニ河流ニ沿フ所ニ在テハ普通滿潮ノ表面上三米突以上ノ所ニ之ヲ設ケザルベカラザラズ

▲通行人ノ安全ヲ保障スベキ規定

第三十四條 板圍ヒ、棧架、階梯、機、及其他ノモノハ通行人ハ勿論工事ニ從事スルモノヽ安全ヲ保障スベキヤウニ建設セラレザルベカラズ

第三十五條 取崩シ若クハ其他ノ工事ノ擧行中壁ノ塊ヲ顚覆シ重キ材料ヲ高所ヨリ投下スル事ヲ嚴禁ス

一般ニ材料ハ籠又ハ箱ニ入レテ地上ニ取卸（ト）シ若クハ相當ナル豫防（ヒ）ヲ施シテ承（ウケ）ノ中ヲ流通セシメザルベカラズ

▲工事附近ニ於ケル土地家屋ノ防禦物及撐材

第三十六條 建物ノ取崩シ若クハ建築ニ當リ其附近ニ存在スル土地家屋ノ安全

ヲ保ツニ必要ト認メタル防禦物若クハ撐材ノ建設工事ヲ行ハザルベカラズ

▲施行中ノ工事中止ノ場合ニ於ケル施設

第三十七條 工事施行中之ガ中止ノ必要アルトキハ利害關係人ハ遲滯ナク建設ヲ了ハリタル部分ノ安固ヲ保全スルノ義務ヲ有ス不履行ノ場合ニ於テハ法律ノ規定ニ依リテ之ヲ糺行ス

▲通行人ニ對スル目標

第三十八條 單ニ懸垂スル棧架、大ナル箱若クハ楷子ノ防禦物ヲ使用シテ工事ヲ行ハザルベカラザルトキ及一般ニ必要ナルトキハ常時道路ニ於ケル河上ニ於ケルトヲ問ハズ斜ニ堅ク檣壁ニサシカケタル小梁或ハ交錯スル架材若クハ場合ニ應シ最モ適當ナル手段ヲ以テ通行人ニ工事施行ノ旨ヲ知ラシメザルベカラズ

園ヒノ角ニハ赤色ノ瓦斯燈ヲ備付ケ工事ヲ行ハシムルモノヽ貢擔ニテ夜中點火シ置クベシ

▲建物ノ附近ニ於ケル土地ノ開放

第三十九條 建物ノ附近ニ在ル公共ノ土地ニ於テハ工事ヲ行フモノヽ破壞物ノ碎片、材料及通行ヲ妨ゲ若クハ通行ニ不便ナル物品ハ種類ノ如何ヲ問ハズ他所ヘ運搬セシメテ全ク開放シ置カザルベカラズ

▲市設鋪道ノ復舊及整頓

第四十條 棧架及園ヒヲ取毀シタルトキハ位置ヲ改メ若クハ損シタル鋪道及其他市設ノ建設物ヲ原狀ニ復シ修繕ヲ加ヘザルベカラズ

▲河　底

防水枠若クハ防水楯ノ取毀シ後ニ於テハ工事中河ノ疎通ヲ沮害シタル碎片ヲ除去運搬シテ河底ヲ成規ノ原狀ニ復セシメザルベカラズ

同上ノ義務ノ遂行ヲ確保センガ爲メニ市長ハ同義務ノ遂行ガ全部若クハ一部缺如シタルトキ利害關係人ノ費用ヲ以テ必要ナル施設ヲ行ハシムル事ヲ得

利害關係者ガ義務ノ遂行ヲ全ク怠リタルトキハ市長ハ市ヲシテ必要ナル工事ヲ行ハシメ之ニ要シタル費用ハ第八條所定ノ供託金ヨリ控除スルモノトス

▲共同塵芥捨場ヘ材料ノ運搬

第四十一條 共同塵芥捨場若クハ其他ノ場所ヘ不用物ヲ運搬スルニ當リテハ現行ノベネス潟條例ノ規定ヲ遵奉スベシ

▲特別ノ場合ニ於ケル本章規定ノ適用ノ制限

第四十二條 本章ノ規定ノ一ヲ遵奉スルコト不可能ナル力若クハ非常ノ困難アリト認メタルトキハ市長ハ工事ノ正當ナル施行ニ最モ必要ナル範圍内ニ於テ該規定ノ適用ヲ制限スルノ權ヲ有ス

第四章　道路及河川

▲公衆ノ通行ニ充テラレタル私有ノ土地ニ於ケル導管ノ布設ト鋪道ノ整理

第四十三條 公衆ノ通行用ニ充テラレタル私有ノ土地ニ出入口ヲ有スル土地及家屋ノ所有主ハ下水及擔水ノ導管ノ布設ヲ爲サヽベカラズ

且又該所有者ハ鋪道ノ正當ナル保存ヲ努ムベシ此場合ニ於テハ市ノ必要ノ大小ニ應ジテ補助金ヲ下附セラルヽモノトス

▲河ノ緣邊

第四十四條　河ニ面スル個人ノ所有ニ屬スル土地ハ其種類ノ如何ヲ問ハズ河中ヘ土砂若クハ其他ノモノヽ流下スルヲ阻止センガ爲メ普通滿潮ノ表面上小クモ七十珊ノ高サヲ有シ壁ヲ以テ作リタル緣邊ヲ設ケサルベカラズ

同上ノ壁ノ最上部ニハ石若クハ交互ニ煉瓦ヲ組合セテ作リタル飾ヲ附スベシ

スクエー（Dock Yard）ニ對シテハ同上ノ規定ヲ適用セズト雖モ其水中ノ周圍ニ沿フテ泥土ノ流下ヲ妨グル爲メニ單ニ材木ニテ造リタル冠頂ヲ設ケザルベカラズ

▲河流ニ臨ム正面ノ最下部

第四十五條　直接河流ニ臨ム建物正面ノ壁ハ普通滿潮ノ高サ以下ノ部分ニ於テセメントヲ以テ密着セル浮凸飾ヲ存シ其中ニ接合セル材料ノ基底ヲ表示スルヤウニスベシ

建物ノ所有主ハ壁ヨリ分離セル物質ハ其種類ノ如何ヲ問ハズ河底ヨリ遲滯ナク之ヲ除去セシメザルベカラズ

▲物料ノ排除ト臺

第四十六條　河底ニ臨メル家屋ノ所有者ハ同家屋ヨリ投入セラレ又ハ流下セルモノト認メラレタル物質ノ排除及特ニ陸岸ニ沿フテ作リタル臺ニ關シテハ所要ノ經費ヲ支拂フノ義務アルモノトス

▲河水ヲ乾シテ之ヲ掘鑿スル場合ニ於ケル所有者ノ義務

第四十七條　河流ニ臨メル家屋ノ所有者ハ該河流ノ水ヲ乾シテ之ヲ掘鑿スル場合ニ於テハ公示若クハ特別ナル訓示ニ基キ自己ノ所有ニ係ルモノノ修復及其基地ノ保全ニ關スル施設ヲ行フベシ所有者若シ之ガ施設ヲ怠ルトキハ市ハ同所有者ノ負擔及費用ヲ以テ公衆ノ安寧及衛生ノ點ヨリ必要ト認メタル總般ノ工事ヲ行フ

條四十八條　河水ノ乾固中家屋ノ水中ニ在ル部分ニ於テ着手シタル修繕工事ヲ完了センガ爲メ市ノ工事ニ對シテ定メタル期限ヲ越ヘテ防水枠ヲ以テスル包圍ノ繼續ヲ必要トスルトキハ利害關係人ノ申請ニ基キ之ガ延期ヲ許可スル事ヲ得但豫メ確然タル延期ノ期間ヲ定ムル事ヲ要ス

前項ニ依リテ延期セラレタル河流ノ乾涸工事ニ基ク費用ハ此場合ニ於テハ一切利害關係人ノ負擔トス之ヲ以テ市ハ該許可ヲ下スト同時ニ該費用ニ對スル保証トシテ相當ナル金額ヲ供託セシムルモノトス

▲筏及大鵜嘴ヲ以テスル掘鑿ノ許可

第四十九條　市長ヨリ正當ナル許可ヲ受ケ其都度規定セラルベキ規程ヲ遵守スルニ非ラザレバ筏及大鵜嘴ヲ以テ市ノ河川ノ土ヲ掘鑿スル事ヲ禁ズ

何レノ場合ニ於テモ家屋及其基礎ノ附近ニ於テ土ヲ掘鑿スル事ヲ禁ズ

第五章　裝飾委員會

第五十條（裝飾委員會其組織）

第五十一條（議長ノ權限）

第五十二條（集會）

第五十三條　**第五十四條**　**第五十五條**（投票）

第五十六條　**第五十七條**（委員會ノ提議）

第五十八條（委員ノ作成ニ係ル提案）

第六章　建物ノ外部ニ關スル規定

▲建築ニ於テハ公有地ノ境界線ヲ

超過スベカラズ

第五十九條　建物ノ新築若クハ改築ニ於テハ壁ノ厚サ及ヒ包裝ヲ以テスルモ或ハ突出部ヲ以テスルモ公有地ノ堺界線ヲ超過スル事ヲ得ズ但次ノ各條ノ規定ヲ除ク

▲臺座及裝飾的突出

第六十條　道路ノ平面上三米突普通滿潮ノ平面上四米突二十珊ノ高サニ迄ハ開口ノ周邊、臺座及其他ノ裝飾物ハ總テ壁ノ外面ヲ超過スル事五米突以內ノ幅員ヲ有スル道路ニ在テハ五珊、五米突以上ノ道路ニ在テハ八珊以上ナル事ヲ得ズ

第六十一條　道路ノ水平面ヲ去ル事三米突以上普通滿潮ノ表面ヲ去ル事四米突二十珊以上ノ所ニ於テハ張出シ椽側及平場ハ勿論市長裝飾委員會及市ノ土木課ノ意見ヲ聞キ建物ノ建築上必要ト認メ且其面スル道路若クハ川流ノ幅命ニ相當スル突出ノ建設ヲ許可スベシ

同上ノ高サハ道路ノ平面若クハ普通滿潮ノ表面ヨリ平場ノ扁板若クハ其持送リ及軒蛇腹ノ最下刻形（タワカガ）ノ最下方ノ線ニ至ル迄ヲ垂直ニ測量シテ之ヲ定ム

▲張出シ椽側、平場、欄杆

第六十二條　公道若クハ公衆ノ通行ニ充テラレタル道路上ニ突出スル張出シ椽側若クハ平場及其持送リハ石ニテ造ラレザルベカラズ

欄杆ハ石、金屬若クハセメントニテ造ラルヽ事ヲ得其他ノ物質ハ總テ使用スル事ヲ得ズ

▲雨水ノ承霤（トヒ）

第六十三條　公ノ土地若クハ公衆ノ通行ニ供セラルヽ土地ニ面スル建物ノ正面ニ在ル裝飾用ノ軒蛇腹ニハ承霤ヲ備付ケ此內ニ屋根ヨリ流下スル雨水ヲ集メ何レノ場合ニ於テモ道路上ニ流下スルコトヲ得ザラシムベシ

▲突出スル厠ノ建設

第六十四條　公ノ土地若クハ公衆ノ通行ニ充テラレタル土地ヨリ目擊スル事ヲ得ベキ壁ヨリ突出シテ厠ヲ建設スル事ヲ禁ズ

▲外部ニ露出スル管

用途ノ如何ヲ論ゼズ管ハ壁ヲ以テ作リタルト或ハ鐵ヲ以テ作リタルヲ問ハズ次條ニ示セル例外ヲ除キ公ノ土地若クハ公衆ノ通行ニ充テラレタル土地ニ面スル家屋ノ正面ノ外部ニ之ヲ据付クル事ヲ得ズ

第六十五條　管或ハ承霤ヲ全ク壁ノ中ニ挿入セシムル事能ハザルトキハ市長ハ陸路ニ在テハ道路ノ平面上二米突五十河流或ハ運河ニ在テハ普通滿潮ノ表面上三米突七十ノ所ヨリ管筒或ハ承霤ノ外部ノ据付ヲ許可スル事ヲ得但記念物タル性質ヲ帶ビ若クハ建築術上特質ヲ滯アル建物ニ在テハ例外トス

但市長ハ異狀ノ場合及市ノ土木課別ニ施設ノ道ナシト認メタルトキハ各期中暖爐ノ煙ヲ吐出セシムルガ爲メニ鐵ヲ以テ作リタル管ヲ外部ニ据付クル事ヲ許可スルヲ得

▲雨水ノ滴下ヲ防グベキ圍壁ノ蓋

第六十六條　公ノ土地若クハ公衆ノ通行ニ充テラレタル土地ニ面スル圍壁ノ蓋ハ同上ノ土地ノ表面上ニ雨水ノ滴下ヲ妨グルヤウニ建設セラルヽ事ヲ要ス

▲建物ノ漆壁及色彩ノ保存

第六十七條　公衆ノ眼ニ觸ルヽ建物ノ正面ハ漆壁色彩ニ關スルモノニ付テモ又

良好ニ維持保存セラレザルベカラズ
常時技術上ノ原則ニ從フベキ事勿論ナリトス

所有者ハ又家屋ノ正面ニ生長シタル雑草ノ剔滅ヲ努メザルベカラズ

▲油製顔料

第六十八條 建物ノ石造ノ部分ハ家屋ノ正面ヲ形成スルト雖ニ裝飾ノ爲メナルトヲ問ハズ何等ノ油製顔料ヲ以テスルモノニ色彩ヲ施スコトヲ禁ズ

▲建築術上特質アル建物正面ノ外觀ノ一樣

第六十九條 一大建設物ノ數多ノ正面ニシテ其綜合上建築術上ニ於ケル特質ヲ有スル建物ヲ形成シ且公衆ノ眼ニ觸ルヽモノハ假令其持主異ナルトモ一樣ニ窓扉ヲ彩色セザルベカラズ

▲窓　扉

第七十條 內方ヨリ外方ヘ開クベキ窓扉ハ通常書籍形ニ作ルベシ

總テノ大戸ノ最下床及又最上床ニ於テハ其建物建築術上ノ必要アルモノニ在テハ窓扉ハ窓ノ背部ニ向ケテ開カルベキコトヲ要ス

▲入口及店舖ノ開口

第七十一條 道路ニ面スル入口及店舖ノ開口ハ不便ナラザルヤウ特別ナル注意ヲ以テ造ラレタル屈伸自在ノ戸扉ヲ有セザルトキハ外方ヨリ開放シ若クハ動カシ能ハザル戸扉ヲ据付ケザルベカラス劇場若クハ之ニ類スル建物ニ在リテハ例外トシ公衆ノ安全ヲ旨トセザルベカラズ

取リ外シ得ベキ戸扉ヲ以テ店舖ヲ閉ヅルノ仕組ハ禁止トス

▲正面及基址ノ包裝

第七十二條 市長裝飾委員會ノ贊成ニ基キ許可シタル例外ノ場合ヲ除キ一般ニカナールグランデ若クハ樞要ナル地點ニ面シ建築術上特別ナル價値ヲ有スル建物ノ正面若クハ基底ノ包裝ニカルラーラ產ノ灰色大理石ヲ使用スル事ヲ禁ズ

▲看　板　類

第七十三條 看板類、商品展列陳璃箱等ハ其据付、形狀、大サ及色彩ニ關シテハ之ヲ取付クベキ建物ノ外部ノ狀態ニ適應セザルベカラズ

建物ノ正面ニ存在スル店舖ノ看板ハ配合好ク据付ケラルヽ事ヲ要ス

▲看板ノ形狀ト其据付

第七十四條 看板ニハ通常頂飾或ハ側面ノ飾ヲ附セズシテ其形狀矩形ナル事ヲ要ス

看板類ハ勾配ヲ附セズシテ壁ノ鏡ニ密接シテ据置カレザルベカラズ

看板類ハ其据付ケラルヽ建物ノ返廻線或ハ建築上ノ構材ヲ隱蔽シ又ハ之ヲ遮ギル事ヲ得ズ且又入口及窓ノ周邊ノ飾ノ上方、町名公ノ點燈ノ番號若クハ戸口番號ノ表札ノ上方ニ之ヲ据付クル事ヲ得ズ但此等ノ町名及番號ヲ看板上ニ登載シタルトキハ此限リニアラズ

重ナル廣場及道路ニ於ケル建物ノ角ニ看板ヲ揭グル事ヲ禁ズ

▲カナールグランデニ沿フテ存在スル看板

第七十五條 カナールグランデニ沿フテ存在スル建物及一般ニ建築術上重要ナル性質ヲ帶ブル總般ノ建物ニ於テハ層ヲ區分シ若クハ下層ヲ上層ト區劃スル天井ノ線以上ノ所ニ看板類ヲ据付クル

事ヲ禁ズ

▲ポンテリアルト及ブロクラチーアニ沿フ天幕

第七十六條 ポンテリアルト及ブロクラチーアノ建物ノ拱門ニ沿フ所ニ在リテハ店舗ノ天幕ハ色彩形狀及大サニ於テハ市長ノ規定スル所ノ雛形ニ從フベシ

▲建物及軒下歩道ノ下部ノ正面上ニ於テ市廳ニ留保セラルヽ設備

第七十七條 特別法令ノ規定ヲ除キ市ノ當局者ハ公益ニ基キ公ノ土地ニ面スル建物ノ前面及廊下ノ下部ニ左項ノ設備ヲ爲スノ權ヲ留保ス

一、瓦斯及公ノ點燈ノ支柱ヲ据付クル事

二、町名及戸口番號ノ表札ヲ貼付クル事

三、市ノ公衙ノ用ニ供スル電信電話線ノ支柱ヲ設クル事

四、公共便所ヲ設クル事

六、公ノ揭示板ヲ設置スル事

七、電氣裝置ノ時計ヲ設置スル事

八、記念碑ヲ設クル事

衛生、安寧、土木ノ監督及公共ノ便利ニ基キヲ將來設定セラルベキ其他ノ公共ノ設備ニ關シテモ市ハ前同斷ノ權利ヲ留保ス

前項ノ設備ニ要スル經費ハ一切市ノ負擔タルベシ

▲美術若クハ歷史上ノ遺物

第十八條 建物ノ修繕若クハ取崩シニ於テ美術若タハ歷史上ノ價値ヲ有スル遺物ノ發見シタルトキハ遲滯ナク書面ヲ以テ市長ニ届出ツベシ

市長ハ記念物保存ニ關スル現行ノ規程ニ基キテ之ガ處分ヲ命ス

▲美術歷史若クハ考古學上特別ナル性質ヲ有スル建物ノ表

第七十九條 市内ニ存在シ美術歷史若クハ考古學上特別ナル性質ヲ帶ブル建物ニシテ絕對保存ノ必要アルモノハ特ニ適當ナル表ニ登載シ該表ヲ公ケニスルモノトス

該表ハ裝飾委員會及文部省ト協議ノ上市ノ當局者本條例ノ認可後六ケ月以内ニ之ヲ編製スベシ

▲表中ニ包含セラルヽ建物ニ對スル工事ノ禁止

第八十條 前條所定ノ表中ニ登載セラレタル建物ニ在テハ何等ノ方法ヲ以テスルモ其構造ヲ改メ各部ノ位置ヲ變更スルヲ目的トスル工事ヲ行フ事ヲ嚴禁ス同上ノ建築ニシテ美術歷史若クハ考古學上特ニ注目スベキ性質若シ其正面ノ全部、庭及其附近ニ存在スルトキハ是等ノ部分ニモ同上ノ規定ヲ適用ス

▲本則適用ノ制限

第八十一條 異常ノ場合若クハ建物ノ保存上必要ナルトキニ限リ第七十九條所定ノ表中ニ包含セラルヽ建物ニ於テ或工事ノ執行ヲ許可スル事ヲ得但裝飾委員會ノ贊成ヲ經文部省ノ同意ヲ得タル場合ニ限ル

該認可ヲ得シニハ所有者ハ個々ノ場合ニ於テ工事ノ必要ヲ証明スル明細ナル申請書ニ確繕ナル工事明細書及綿密ナル繪圖面ヲ添ヘテ差出スベシ

第八十二條 前諸條ニ於テ指定セル特別ノ場合ヲ除キ市長ハ裝飾委員會ノ意見ヲ開キ本章ニ定ムル所ノ現定ノ例外ヲ許容スル事ヲ得

第七章 監督及罰則

第八十三條（家屋所有主及工事施行者ノ責任）

第八十四條（工事ノ監督ニ當ル市吏ノ權限）

第八十五條（犯則）

第八十六條（仲裁手續）

第八十七條（犯則ノ裁判、民事原告人ノ組織）

第八十八條（條理ニ合セズシテ排置セラレ若クハ不体裁ナリト認メタル一切ノ事物ヲ除去セシムルノ市長ノ權限）

第八章　附　則

第八十九條　第九十條　第九十一條　第九十二條　第九十三條（一時ノ規定）

（イ）號附錄

ペヂチヤ衛生規則摘要

第五條　新築家屋若クハ壁ヲ改造シ或ハ之ヲ新築スル家屋ニ在テハ土臺ノ壁ハ道路ノ水平面ニ達スル點ニ於テ地濕青ノ地層若クハ土地ノ濕氣が建物内ニ浸透スルヲ防ゲニ適スト認メラレタル物質ニテ作リタル地層ニヨリ交叉セラレザルベカラズ

第六條　最下層若シ住宅用ニ供セラレタルトキハ該下層ハ道路ノ水平面上四十珊、普滿潮ノ表面上一米突四十珊以上高ク作ルベシ而シテ其側壁ハ二米突八十珊ノ高サ迄木板或ハ濕セメントヲ以テ包被セラレザルベカラズ

第七條　家屋ノ各層ニハ洗滌盤（流走）及便所ヲ備付クベシ

便所ニ在テハ少クモ腰架ハ大理石ニテ作リ蓋ハ大理石若クハ金屬ヲ以テ作ルベシ

洗滌盤及便所ノ導管ハ抵抗性ヲ有シ且水ヲ通サザル物質ニテ作リ水ノ使用可能ニシテ且充分ナルトキハ適當ナルサイホンヲ備付クベシサイホンノ欠ク所ニ在テハ市ノ衛生課ノ意見ニ依リ相當ト認メタル通風ノ裝置ヲ施スベシ

二十八度以上ノ角度ヲ爲シテ主タル流下ノ管ニ接合セシメテ副管ヲ設クル事ヲ得ズ但便所が水ヲ通シテ流下セラルヽモノニ在リテハ例外トス

便所ハ隔離セル部分ニ設ケ洗滌盤ヨリ全ク隔離セル部分ニ設ケ洗滌ヨリ全ク離隔セラル、事ヲ要ス

單一ノ層内ニ多數ノ家族居住シ共同ノ入口ヲ有スル家屋ニ在テハ便所ハ便宜ニ配置セラレ其數ハ衛生課ノ決定ニ基キ住居スル家族ノ員數ニ相當セザルベカラズ

工場、學校、會館、料理店及其他公衆ノ出入スル建設物ハ種類ノ如何ヲ問ハズ其内ニ居住シ若クハ會合スル人員數ニ比例スル便所及洗滌盤ヲ備付クベシ其割合ハ第十一條ノ規定ニ依リ衛生課ノ意見ニ基キテ之ヲ定ムベシ

第八條　新築ノ家屋ハ別ニ訓令ニ定マル所ノ規定ニ從ヒ塵芥其他ノ廢物ノ取リ捨ニ有効ナル設備ヲ爲スベシ

別ニ手段ノ無キ場合ノ外、ハキ場ナキ溝渠ヲ作クル事ヲ禁ズ別ニ手段ノ無キヲ以テハキ場ナキ溝渠ヲ設ルニ付テハ市ノ土木課ノ証明ヲ受ケザルベカラズ之ガ証明ニ要スル費用ハ申請者ノ負擔タルベシ

溝渠ノ建設ニ關シテハ本則ニ附隨スル訓示中ノ規定ヲ遵奉スベシ但同訓令中ニ規定ナキ事項ニ關シテハ衛課生課ノ意見ヲ聞キ參事會ノ決議ニ附スベシ

第九條　河中ニ排泄スル便所流走及溝渠

ハ普通滿潮ノ表面ヲ下ル事一米突以上ノ所ニ排泄口ノ最上部ノ開ヲ設置スベシ

第十一條 新築ノ家屋ニ於テハ室ノ面積及容積ハ一千八百八十九年十一月九日省令第八十四條ノ規定ニ依ルベシ但室ノ高サハ二米突八十珊以上、窓ヨリ日光ノ透射スル表面ハ室ノ面積ノ十分ノ一以上タルベキ窓ノ數一個ナルトキハ日光ノ透射スル表面ハ二米突平方以上タル事ヲ旨トスベシ

第十八條 旅館ハ各部屋ノ容積ニ比例セザル人員ヲ收容スル事ヲ得ス

第十九條 敎會等ノ建物ニハ相當ナル通風ノ裝置ヲ設クルベシ

第二十條 建設セラルヽ井戸ノ粘土ハ厠溝渠及其導管ヲ去ル事少クモ三米突ノ所ニ之ヲ置ク事ヲ要ス

飲用水ヲ供給スルノ用ニ充テタル水池ハ公ノ道路ノ歩行シ得ベキ面及私有ノ庭ヨリ集リタル天水ノ其中ニ浸入スルヲ妨グベキハ勿論如何ナル方法ヲ以テスルモ之ヲ不淨ナラシムル事ヲ禁ズ

(ロ)號附錄 公有地使用料表

(ハ)號附錄 供託金

(ニ)ベヂチヤ潟條例摘要

附記

今回附錄として掲載せるベネチヤ市建築條例は、曩きに本協會より建築學會に謄寫分配を希望したる際快諾を與へられて分與せられたる外國建築條例抄譯集中の一編に屬す。爾來第一部(乙組)委員會に於ては逐次此等好箇の參考資料を講究中なり。

今や都市計畫並びに建築法規に關する問題は漸く眞面目に考慮せられんとするときに當り、單に一部委員會の私すべきに非ざるを感じ茲に附錄として順次掲載せんとす。

ベネチヤ市に於ける條例より初めたるは他意あるに非ず、我大阪市が川の都の稱を有すること或は彼此比較の妙多ければなりされど都合ありて地圖を附せざりしこと頗る遺憾とす。

第一章、第五章、第八章及各號附錄に於て各條抄略しあるは重要ならざるものなるが爲めか、譯語の語句及各單語等に於て從來使用せらざる字句多きは譯者の專門語に慣れざりし爲めか、要は大局を捉へ得れば足る。讀者諒之。

役員及職員

理事長　片岡安（主計）

理事　池田一郎（編輯）　野村貫（編輯）　武田五一（編輯）　日高胖（編輯）　波江悌夫（主記）

編輯補　松本禹象　伊藤正文　佐藤四郎　本田登

書記　岡部顯則　小谷信藏

會員百二十五名、名譽贊助員十八名
終身贊助員廿四名、特別贊助員四名
普通贊助員百七十一名

本誌及廣告料定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	金參拾錢	貳錢
	十二冊	參圓六拾錢	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓
	特別頁	貳拾圓
	裏表紙表	貳拾五圓

大正七年四月十日印刷（毎月壹回十五日發行）
大正七年四月十五日發行

大阪市北區相生町一三四
電話（東一八八三番）
發行兼編輯人　伊東幸太郎

大阪市東區內淡路町一丁目三十一番地
印刷所　大阪活版所

大阪市東區今橋一丁目十一番地
發行所　關西建築協會
電話本局二二四一番
振替口座大阪三九九七五

廣告目次

イ、石材商案内　一一
和泉煉瓦株式會社　一七
ハ、原安商會　一四
ニ、日本ペイント製造株式會社　二七
日本石綿盤株式會社　二九
ヘ、榮進社　(前)二
米國貿易會社　二八
ト、東松工作所　二三
チ、中央セメント株式會社　一七
オ、大阪窯業株式會社　(前)一
大阪煖房商會　一六
大野式特許品營業所　二五
カ、川島商店　一八
川崎工場　一九
タ、高田商會　二六
ナ、內外土木建築材料合資會社　一五
ム、村井工業所　二二
マ、松尾和助商店　二一
ケ、建築事務所案內　四
建築請負業者案內　六
コ、コルク工業合資會社　二三
ア、秋山小林商店　二〇
サ、齋藤省三營業事務所　三〇
櫻セメント株式會社　二二
メ、明正社　裏表紙表
ミ、みよし組大阪支店　二四
モ、木材商案內　一〇
ス、須賀商會　一二
巢鴨製作所　裏表紙裏